



福島県立美術館
年報
平成 21 年度
2 0 0 9



福島県立美術館 年報

平成21年度

2009

目 次

設置の目的と立地	2
沿 革	3
2009 年度主要記事	4
展示事業	5
・ 常設展	5
・ 常設展示	5
・ 特集展示	12
・ 移動美術館	13
・ 企画展	15
・ アンドリュー・ワイエス 創造への道程	15
・ 開館 25 周年記念展 アートの遠近	22
・ 開館 25 周年記念展 文化の力	34
・ アルバム展	46
・ 山中現展	50
普及事業	56
広報・出版	63
調査研究	65
収 集	68
保 存	84
管 理	86
運営・組織	88
・ 観覧者数一覧	88
・ 2009 年度予算内訳	89
・ 関係法規	90
・ 施設／設備	95
・ 福島県立美術館友の会活動報告	97
・ 福島県立美術館協力会活動報告	99
・ 委員会等、組織図	100
・ 利用案内	102

設置の目的と立地



福島県立美術館は、すぐれた美術作品にふれることで人々の感受性が高まり、情操が養われ、憩いと喜びのなかに創造の手がかりが得られる場として、1984（昭和59）年7月に、隣接する福島県立図書館とともに設けられました。

この目的のために、収蔵作品の充実をはかり、貴重な文化財である美術品の保存につとめ、継続的な調査研究にもとづく展示・普及事業を積極的に展開するとともに、美術に関するさまざまな情報を提供します。

美術館は、福島市のシンボルであり、憩いの場として親しまれている信夫山のふもとにあります。福島駅からも近く、交通の便もよい場所にありながら、野鳥の声もきこえる静かで落ち着いた環境にあります。60,000m²もの広大な敷地には、樹木や花々、広い芝生や日本庭園があり、散策や休息の場として親しまれています。

美術館と図書館は、多面的な機能と豊富な情報にもとづく、さまざまなサービスを提供することによって、見る・聴く・語る・作る・考える空間として活用していただくことをめざしています。

沿革

1977 年	5 月	文化を考える県民会議を設置
	6-8 月	文化に関する県民意識調査を実施
1978 年	1 月	文化を考える県民会議より「県の文化振興について」を県知事に報告
	7 月	文化振興会議を設置
1979 年	2 月	文化振興会議より「文化振興策の具体策について」を県知事に報告
	3 月	文化施設等整備基金条例制定
	4 月	県教育庁文化課内に文化施設班を置く
	6 月	福島県立美術館基本構想検討委員会を設置（委員 10 人を委嘱）
	12 月	美術品等取得基金条例制定
1980 年	1 月	「福島県立美術館建設基本構想について」を同委員会より知事に報告
	2 月	美術館・図書館の建設地を福島市に決定 版画家斎藤清氏より県に自作 227 点が寄贈される
	4 月	福島県立美術館収集評価委員会を設置（委員 7 人を委嘱） 美術館・図書館の建設地を福島大学経済学部跡地に決定
	5 月	第 1 回収集評価委員会開催、ワイエス「松ぼっくり男爵」他の購入を決定
	12 月	美術館基本設計を委託（大高建築設計事務所）
1981 年	7 月	美術館実施設計を委託（大高建築設計事務所）
1982 年	7 月	美術館設計工事着工
1984 年	3 月	美術館本体工事完了 福島県立美術館条例を議決
	4 月	福島県立美術館設置
	6 月	福島県立美術館博物館所管の県有美術品 365 点を移管
	7 月	開館（22 日） 初代館長に原田實が就任（-1989 年 3 月） 開館記念展第 1 部「戦後の名作に見る人間像」展開催 『所蔵品図録抄』を発行
	10 月	第 1 回運営協議会開催
1986 年	3 月	『研究紀要第 1 号』発行
1989 年	4 月	第二代館長に佐藤昌志が就任（-1990 年 3 月）
1990 年	3 月	『収蔵作品図録 1984-1989』発行
	4 月	館長事務代行を教育長兼務とする（-1992 年 3 月）
1992 年	4 月	第三代館長に長谷部満彦が就任（-2000 年 3 月）
1994 年	7 月	開館 10 周年記念展「ルネサンスの絵画」「日本画の風景」開催
1995 年	6 月	入館者通算 100 万人を記録する
1998 年	4 月	「ピカソ回顧展」開催、67,125 人の観覧者を記録する
1999 年	3 月	屋根改修工事着工 8 月以降常設展を休止（8 月 23 日-2000 年 7 月 19 日）
	9 月	通算 100 本目の企画展「生誕 100 年関根正二展」を開催
	10 月	18 日以降臨時休館となる（-2000 年 7 月 19 日）空調機械改修工事（第一期）着工 「移動美術館」開始（第 1 回は喜多方市美術館）
2000 年	3 月	『福島県立美術館所蔵作品選 ポケット・ミュージアム』発行
	4 月	第四代館長に酒井哲朗が就任
	7 月	空調機械工事（第一期）竣工、再開館（20 日）
2001 年	11 月	19 日以降臨時休館となる（-2002 年 4 月 26 日）空調機械工事（第二期）等着工
2002 年	3 月	空調機械工事（第二期）、展示室改修工事竣工（県立図書館空調工事も竣工）
	4 月	再開館（27 日） レストラン「カフェ・ドウ・ミュゼ ムスターシュ」開店（-2008 年 3 月 23 日）
	10 月	「美術館友の会（仮称）設立に向けて県民の意見を聴く会」を設置
2003 年	4 月	高校生以下の常設展観覧料金を無料化 「福島県立美術館友の会設立発起人会」を開催、友の会発足
2004 年	6 月	「特定非営利活動法人 福島県立美術館協力会」発足
	7 月	「アート オブ スター・ウォーズ展」開催、77,601 人の観覧者を記録する
	10 月	開館 20 周年記念展「田園の夢」開催
2005 年	3 月	『収蔵作品図録 1990-2005』発行
2006 年	5 月	入館者通算 200 万人を記録する
	8 月	初の県立美術館・図書館連携事業として「アートなおはなし会」を開催
2008 年	10 月	レストラン「ミュゼ・ドウ・カナール」新装開店
2009 年	7 月-翌年 1 月	開館 25 周年記念展として「アートの遠近」「文化の力 - 福島と近代美術」「アルバム展」を開催

2009 年度主要記事 (2009.4 - 2010.3)

2009 (平成 21)

4 月 1 日	「アンドリュース・ワイエス 創造への道程」前年度より引き続き開催 (3 月 17 日 - 5 月 10 日) 菅野知行総務課長着任
4 月 7 日	「コレクション展 I」開幕 (- 7 月 12 日)
5 月 5 日	常設展無料観覧日 (こどもの日)
5 月 10 日	「アンドリュース・ワイエス 創造への道程」閉幕
5 月 11 日 - 25 日	館内消毒等による臨時休館
5 月 14 日	全国美術館会議総会出席 (高崎市、- 15 日)
5 月 29 日	【協力会】理事会、総会
5 月 30 日	特集展示「レジェ『サーカス』展」開会 (- 6 月 28 日)
5 月 31 日	【友の会】通常総会
6 月 4 日	【友の会】美術映画鑑賞会「モンパルナスの灯」(6 月 5 日も)
6 月 25 日	【友の会】研修旅行 1「日本の美術館名品展」ほか見学
7 月 13 日 - 17 日	全館展示替えにともなう臨時休館
7 月 18 日	開館 25 周年記念展「アートの遠近」開幕 (- 9 月 27 日)
7 月 19 日	開館 25 周年記念シンポジウム「地域と美術館」開催
7 月 25 日	美術館・図書館連携事業「アートなおはなしかい」開催
7 月 28 日	博物館実習 (- 8 月 2 日)
8 月 1 日	開館 25 周年記念展記念講演会「日本洋画・青年たちの群像」(寺田農氏、於：美術館講堂)
8 月 21 日	常設展無料観覧日 (県民の日)
8 月 24 日 - 25 日	前後期展示替えにともなう臨時休館
8 月 26 日	開館 25 周年記念展「アートの遠近」後期日程開幕
9 月 19 日	常設展無料観覧日 (敬老の日)
9 月 27 日	【友の会】第 1 回アート・チャリティー・バザー開催 (於：福島大学如春荘)
9 月 28 日 - 30 日	全館展示替えにともなう臨時休館
10 月 1 日	「コレクション展 II」開幕 (- 12 月 27 日)
10 月 10 日	開館 25 周年記念展「文化のカー福島と近代美術」開幕 (- 11 月 23 日)
10 月 18 日	【友の会】研修旅行 2 (大川美術館、栗田美術館)
10 月 24 日	「移動美術館 世界の名作版画」三島町交流センター山びこで開幕 (- 11 月 8 日)
10 月 31 日	ミュージアム・コンサート (出演：天満敦子氏 於エントランスホール)
11 月 1 日 - 7 日	ふくしま教育週間の期間、高校生以下企画展、常設展を無料
11 月 3 日	常設展無料観覧日 (文化の日)
12 月 3 日	美術館・図書館合同消防訓練
12 月 5 日	開館 25 周年記念展「アルバム：美術館で作る楽しみ、描く喜び」開幕 (- 2010 年 1 月 31 日)
12 月 28 日	臨時休館及び年末年始休館 (- 1 月 4 日)

2010 (平成 22)

1 月 6 日	「コレクション展 III」開幕 (- 3 月 31 日)
1 月 10 日	「美術館への年賀状展」開幕 (- 1 月 31 日)
2 月 5 日	平成 21 年度収集評価委員会
2 月 12 日	「山中現展 夢の領域」開会式
2 月 13 日	「山中現展 夢の領域」開幕 (- 3 月 22 日)
2 月 25 日	平成 21 年度運営協議会
3 月 6 日	ミュージアム・コンサート (出演：上松美香氏・藤間仁氏 於エントランスホール)
この年度	ルノワールをはじめとするフランス近代絵画、県出身作家の作品など 162 点を収蔵

常設展

□常設展示

当館所蔵の美術作品を常時公開するもので、通常は年4回（版画は8回）の展示替を行っている。

2009年度は7月中旬～9月末にかけて開館25周年記念の全館展示を行ったため、以下の3期による開催となった。

展示	会期	内容
コレクション展Ⅰ	2009年4月7日～7月12日	＜テーマ展示＞没後80年・湯田玉水の日本画 現代日本の陶芸：加守田章二、清水卯一ほか 関根正二と近代洋画 福島風景を描く：石井柏亭、斎藤与里ほか

※ 展示替による休館 2009年7月13日～17日 / 9月28日～30日

コレクション展Ⅱ	2009年10月1日～12月27日 (※ 11月20日より一部作品を展示替)	＜テーマ展示＞鐙木昌弥の絵画 斎藤清の墨画と版画 アメリカの画家とアメリカに学んだ日本人画家 現代の版画：加納光於、百瀬寿ほか
コレクション展Ⅲ	2010年1月5日～3月31日 (※ 2月19日より一部作品を展示替)	＜テーマ展示＞佐藤朝山(玄々)の彫刻と絵画 追悼展示：田淵安一、渡辺良雄 清宮質文の木版画 斎藤清の『会津の冬』

□コレクショントーク

常設展示の解説プログラムとして「コレクション・レクチャー」を開催した。2008年度は当館学芸員の解説により計2回を実施した。

開催日	テーマ	担当	参加人数
4月26日	湯田玉水の作品	増渕鏡子	5名
10月11日	鐙木昌弥の絵画	荒木康子	3名
		計2回	8名

10/11



□出品リスト

コレクション展Ⅰ 2009年4月7日～7月12日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【テーマ展示1：没後80年 湯田玉水の日本画】				
湯田玉水(1879-1929)	春日遅々	1922	絹本墨画淡彩	
	雨過晴虹図	1926-28	紙本墨画淡彩	
	高房山学	1926-28	紙本墨画淡彩	
	霜風千林図	1926	絹本墨画淡彩	
	野塘青松図	1928	紙本墨画	
	老桃小禽	1926-28	絹本墨画淡彩	
	燕子花の図	1924	絹本着色	
【郷土の日本画～角田磐谷・大山忠作追悼展示】				
角田磐谷(1889-1970)	福島八景十勝	1948	絹本着色(18点組)	
大山忠作(1922-2009)	O先生	1946	紙本着色	
	幼童曼陀羅	1967	紙本着色	
	京舞	1977	紙本着色	
	爽涼	1980	紙本着色	
【現代日本の陶芸】				
加守田章二(1933-1983)	灰釉花瓶	1960年代	陶器	
	灰釉茶碗	1960年代	陶器	

加守田章二 (1933-1983)	灰釉大皿	1966 頃	陶器
清水 卯一 (1926-2004)	萌黄瓷輪花鉢	1975	陶器
鈴木 治 (1926-2001)	数の土面	1963	陶器
	泥象	1965	陶器
土谷 武 (1926-2004)	風 I—d	1977	軟鋼、ケヤキ

展示室 B

【関根正二と近代洋画】

高橋 由一 (1828-1894)	栗子山昔時景	1881 頃	カンヴァス・油彩
岸田 劉生 (1891-1929)	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩
木村 莊八 (1893-1958)	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩
万 鉄五郎 (1885-1927)	庫	1918	カンヴァス・油彩
宮川 教助 (1898-1926)	逍遙	1922	カンヴァス・油彩
長谷部英一 (1895-1927)	二人の少女	制作年不詳	カンヴァス・油彩
前田 寛治 (1896-1930)	裸婦	1925	カンヴァス・油彩
川口 軌外 (1892-1966)	柘榴	1932	カンヴァス・油彩
関根 正二 (1899-1919)	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩
	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩
	一本杉の風景	1918 頃	カンヴァス・油彩

【福島風景を描く】

石井 柏亨 (1882-1958)	水車場	1927(昭和2)	カンヴァス・油彩
斎藤 与里 (1885-1959)	裏磐梯	1953(昭和28)	カンヴァス・油彩
井手 宣通 (1912-1993)	磐梯山	1950(昭和25)	カンヴァス・油彩
	裏磐梯	1950(昭和25) 頃	カンヴァス・油彩
吉井 忠 (1908-1999)	裏磐梯	1942(昭和17)	カンヴァス・油彩
	雪の安達太良山	1960(昭和35)	カンヴァス・油彩
小泉 淳作 (1921-)	磐梯山	1978(昭和53)	紙本墨画淡彩 寄託作品
山川 忠義 (1903-1983)	茂庭栗林	1953(昭和28)	カンヴァス・油彩
	春近し	1962(昭和37)	カンヴァス・油彩
渡辺 良雄 (1915-)	春雪	1969(昭和44)	カンヴァス・油彩

展示室 C

【斎藤清の版画：ドライポイント小品／凝視—ヒトガタ／パリ雑感／福島風景抄】

斎藤 清 (1907-1997)	おしゃべり	1968	紙・ドライポイント
	影	1968	紙・ドライポイント
	少女	1968	紙・ドライポイント
	春	1968	紙・ドライポイント
	ヌード (A)	1969	紙・ドライポイント
	黙想	1969	紙・ドライポイント
	凝視, ジャワ人形	1950	紙・木版
	淡路人形	1957	紙・木版
	文楽 (F)	1961	紙・木版
	黙禱 (仏頭)	1951	紙・木版
	唐招提寺, 奈良 (C)	1959	紙・木版
	仏陀, 阿修羅, 奈良 (D)	1959	紙・木版
	彫刻 (メトロポリタン美術館にて) (A)	1962	紙・コラグラフ
	彫刻 (メトロポリタン美術館にて) (B)	1963	紙・コラグラフ
	パリ (2)	1961	紙・木版
	パリ (4)	1961	紙・木版
	パリ (5)	1961	紙・木版
	雨, パリ (B)	1962	紙・木版
	ワイン, パリ	1960	紙・木版
	パリの冬 (A)	1966	紙・木版
	会津の春	1974	紙・木版
	青沼, 裏磐梯, 会津	1955	紙・木版
	裏磐梯, 会津	1955	紙・木版
	会津, 福島	1971	紙・木版
	会津の家 (G)	1973	紙・木版

展示室 D

【海外の版画】

マックス・エルンスト (1898-1969)	博物誌	1926 年	紙・グアッシュ (34 点組のうち 12 点)
ベン・シャーン (1898-1969)	ドレフュス事件	1930 年 (1984 年刊行)	紙・ポショワール (8 点組)

ハレルヤ

1970-71 年

紙・リトグラフ

【ベン・シャーンの本】

ベン・シャーン (1898-1969)	『文字をめぐる愛と喜び』	1963 年出版	
	『創造のアルファベット』	1963 年出版	
	『甘美なる調べ』	1965 年出版	
	『ある絵の伝記』	1966 年出版	

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ (1901-1980)	騎手	1956-57	ブロンズ	
ヘンリー・ムーア (1898-1986)	母と子：腕	1980	ブロンズ	
マリソール (1930-)	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
佐藤 忠良 (1912-)	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親 (1948-)	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル絵具	
エミリオ・グレコ (1913-1995)	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ (1881-1955)	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
井上 武吉 (1930-1998)	my sky hole 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅱ 2009 年 10 月 1 日～12 月 27 日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【読書の秋 スポーツの秋】				
荻生 天泉 (1882-1946)	待宵	1939	絹本着色	
	石山寺	1943 頃	紙本着色、屏風	寄託作品
坂内 青嵐 (1881-1936)	運動会之図	1915	紙本着色、屏風	
松本 栄 (1927-2007)	群像 (曳く)	1983	紙本着色、屏風	
【大山忠作 (1922-2009) の作品】				
大山 忠作 (1922-2009)	母子像	1969	紙本着色	
	岡潔先生像	1968	紙本着色	
	京舞	1977	紙本着色	
【斎藤 清 (1907-1997) の墨画と版画】				
斎藤 清 (1907-1997)	秋の只見	1980	紙本着色	
	野仏、田代 (1)	1977	紙本墨画淡彩	
	野仏、田代 (4)	1977	紙本墨画淡彩	
	会津の冬 4、西会津・下安座	1982	紙本墨画	
	会津の冬、三島町・瀧谷	1982	紙本墨画	
	会津の冬、八木沢 (2)	1984	紙本墨画	
	初秋、会津	1972	紙・木版	展示期間：10/1～11/19
	稔りの会津 (1)	1975	紙・木版	展示期間：10/1～11/19
	稔りの会津 (2)	1975	紙・木版	展示期間：10/27～11/19
	稔りの会津 (3)	1975	紙・木版	展示期間：10/1～10/26
	柿の会津 (2)	1973	紙・木版	展示期間：10/1～11/19
	柿の会津 (4)	1973	紙・木版	展示期間：10/1～11/19
	庭、秋の会津	1972	紙・木版	展示期間：10/1～11/19
	会津の冬 (50)	1981	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
	会津の冬 (52)	1982	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
	会津の冬 (53)	1982	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
	会津の冬 (67) 坂下立木観音	1987	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
	雪の八幡宮、鎌倉	1974	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
	雪の八瀬、京都	1974	紙・木版	展示期間：11/20～12/27
【関根正二の作品】				
関根正二 (1899-1919)	風景図案	1917 頃	紙・水彩	寄託作品
	風景図案	1917 頃	紙・水彩	寄託作品
	風景素描	1916	紙・鉛筆	寄託作品
	菊川橋辺り	1915	板・油彩	寄託作品
	砂村石渡牧場	1915 頃	板・油彩	寄託作品
	牛舎	1915 頃	カンヴァス・油彩	
	風景	1915 頃	板・油彩	

展示室 B

【テーマ展示＜鎗木昌弥の絵画＞】

鎗木 昌弥 (1938-)	汀	1970	紙・鉛筆	
	神かもしれない	1970	紙・鉛筆	
	それは次第に集まり、生まれ、われわれのまゝにあらわれてくるのです	1970	紙・鉛筆、フロッタージュ	
	風のある橋	1971	紙・鉛筆	
	めざめた人	1970	紙・鉛筆	
	空中の窓	1971	紙・鉛筆	
	測量技師の空	1971	紙・鉛筆	
	岬の出現	1971	紙・鉛筆	
	渡し守りのロマン	1971	紙・鉛筆	
	C の影	1973	紙・鉛筆	
	涯	1973	紙・鉛筆	
	苦しい魚	1973	紙・鉛筆	
	戦争の - 2	1973	紙・鉛筆	
	戦争の - 1	1973	紙・鉛筆	
	たのしみの精	1975	紙・鉛筆、銀色鉛筆	
	走力とふりかえり（鬼？）	1975	紙・コンテ	
	流れと流体现象	1975	紙・鉛筆	
	往きて還らぬ樹陰なり	1978	カンヴァス・油彩	
	舟航のはてに	1986	カンヴァス・油彩	
	胸と胴	1988	和紙・アクリル、グアッシュ、鉛筆	
	背中への不可能な接近を試みるパンツ - 2	1989	和紙・アクリル、グアッシュ	
	背中への不可能な接近を試みるパンツ - 3	1989	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈偽証〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈パベルにて〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈終り〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈混沌〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈星々〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	黒い処刑図〈星々 - 2〉	1992	和紙・アクリル、グアッシュ	
	処刑シリーズ 男達による男達の処刑	1991	紙・鉛筆、グアッシュ	
	処刑シリーズ 5本のスコップと処刑された男	1991	紙・鉛筆、色鉛筆、グアッシュ	
	処刑シリーズ	1991	紙・鉛筆	
	暴力シリーズ 黒い処刑より（偽証）	1992	紙・鉛筆、グアッシュ	
	暴力シリーズ 黒い処刑より	1992	紙・グアッシュ	
	暴力シリーズ 黒い処刑よりⅡ	1992	紙・鉛筆、グアッシュ	
	処刑シリーズ	1992	紙・鉛筆、色鉛筆	
	暴力シリーズ 黒い処刑より（終り）	1992	紙・グアッシュ、鉛筆	
	暴力シリーズ 黒い処刑より（混沌）	1992	紙・鉛筆、色鉛筆	
	暴力シリーズ 黒い処刑より	1992	紙・鉛筆	
	暴力シリーズ 黒い星々の処刑	1992	紙・鉛筆、グアッシュ	
	暴力シリーズ 黒い処刑（星々 - 2）	1992	紙・鉛筆、グアッシュ	
	暴力シリーズ 虚空の処刑	1992	紙・鉛筆、グアッシュ	
	精霊祭 - 1	1997	和紙・グアッシュ、アクリル	川妻さち子氏蔵
	精霊祭 - 2	1997	和紙・グアッシュ、アクリル	川妻さち子氏蔵
	帽子の伝説	1997	和紙・グアッシュ、アクリル	川妻さち子氏蔵
	胸のように	1998	和紙・グアッシュ、アクリル	川妻さち子氏蔵
	プラットホーム	1998	和紙・グアッシュ、アクリル	川妻さち子氏蔵

展示室 C

【フランス印象派の絵画】

クロード・モネ (1840-1926)	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩
カミーユ・ピサロ (1830-1903)	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩

【アメリカの画家とアメリカに学んだ日本人画家】

トーマス・ハート・ベントン (1889-1975)	日曜日の朝	1939	紙・リトグラフ
	麦を収穫する	1939	紙・リトグラフ
	サワーウッド・マウンテンで彼女ができたよ	1938	紙・リトグラフ
	川下り	1939	紙・リトグラフ
石垣栄太郎 (1893-1958)	横たわる裸婦	1950 頃	紙・コンテ
	後向きの裸婦	1931 頃	紙・木炭
	あごに手をあてる裸婦	1930 頃	紙・木炭
	横すわりの裸婦	1930 頃	紙・木炭
ベン・シャーン (1898-1969)	我々フランス労働者は警告する	1942	紙・オフセット
	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット
	労働者より農民へ……感謝をこめて	1944	紙・オフセット
	トム・ムーニーの母親に挨拶するジミー・ウォーカー	1932-33	紙・グアッシュ

	農民にたずねよ	1941	ボード・グアッシュ
	恐怖の夜の町	1951	ボード・テンペラ、グアッシュ
アンドリュース・ワイエス (1917-2009)	ガニング・ロックス	1966	紙・水彩
	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩
	農場にて	1988	紙・水彩
ジャコモ・マンズー (1908-1991)	車に乗った子供	1982	ブロンズ

展示室 D

【加納光於の版画】				
加納 光於 (1933-)	星反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：10/1～11/19
加納 光於 (1933-)	星反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：10/1～11/19
加納 光於 (1933-)	星反芻学	1962	紙・インタリオ	展示期間：10/1～11/19
加納 光於 (1933-)	波動説 No.26	1984-85	紙・インタリオ	展示期間：10/1～11/19
加納 光於 (1933-)	《しし座》偶有と変容（5点組）	1991-92	紙・カラーインタリオ	展示期間：10/1～11/19

【一原有徳の版画】				
一原 有徳 (1910-)	KIH(2)	1978	紙・アクアチント	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	KBE(1)	1978	紙・アクアチント	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	K・YO	1985	紙・金属版	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	TAN	1985	紙・金属版	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	鉄炎 (円)2	1980	紙・熱版モノタイプ	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	鉄炎 (円)2	1985	紙・熱版モノタイプ	展示期間：10/1～11/19
一原 有徳 (1910-)	DON-B	1985	紙・金属版	展示期間：10/1～11/19

【百瀬 寿の版画】				
百瀬 寿 (1944-)	S-Blue and Orange by Gold and Silver	1984	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Blue by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Orange and Green by Gold and Silver	1985	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Pink by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Reversible, Blues thru Pinks	1986	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Silver and Gold by Silver and Gold	1986	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Reversible, Metallic Green thru Metallic Red	1991	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27
百瀬 寿 (1944-)	S-Reversible, Metallic Magenta thru Metallic Blue	2000	紙・シルクスクリーン	展示期間：11/20～12/27

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ (1901-1980)	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール (1930-)	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
エミリオ・グレコ (1913-1995)	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ (1881-1955)	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
佐藤 忠良 (1912-)	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親 (1948-)	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉 (1930-1998)	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

コレクション展Ⅲ 2010年1月5日～3月31日

展示室 A

作家名	作品名	制作年	材質・技法	備考
【新春にちなんで】				
小川 芋銭 (1868-1938)	十二支	制作年不詳	絹本墨画淡彩（12幅）	寄託作品
【冬の情景】				
下村 観山 (1873-1930)	寒空	1923	絹本着色	
速水 御舟 (1894-1935)	晩冬の桜	1928	絹本着色	
酒井 三良 (1897-1969)	災神を焼く残雪の夜	1920-21	絹本着色、屏風	寄託作品
酒井 三良 (1897-1969)	渡頭新雪	1950	紙本墨画淡彩	寄託作品
岩橋 英遠 (1903-1999)	土	1939	紙本着色、屏風	寄託作品
福田豊四郎 (1904-1970)	春を待つ	1930	絹本着色	
太田 正弘 (1914-1978)	遠い茜	1977	紙本着色	
【福島の木彫】				
佐藤 朝山 (1888-1963)	巣鶏	大正時代	木彫彩色	寄託作品

佐藤 朝山 (1888-1963)	花林	1916	木彫彩色	寄託作品
佐藤 朝山 (1888-1963)	子鳩	昭和 20 年代	木彫彩色	寄託作品
佐藤 朝山 (1888-1963)	山風	昭和 20-30 年代	木彫彩色	寄託作品
三木 宗策 (1891-1945)	かやのひめの神	1927	木彫	
橋本 高昇 (1895-1985)	白夜	1967	木彫	
橋本 朝秀 (1899-1964)	拈華	1959	木彫	
佐藤 静司 (1915-)	孤影	1978	木彫	
西山 勇三 (1929-)	希う	1964	木彫	

土谷 武 (1926-2004)	風 I — d	1977	軟鋼、ケヤキ	
------------------	---------	------	--------	--

展示室 B

【大正・昭和期の洋画】				
安井曾太郎 (1888-1955)	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩	
岸田 劉生 (1891-1929)	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩	
恩地孝四郎 (1891-1955)	静物 (レモン)	1920	カンヴァス・油彩	
木村 莊八 (1893-1958)	於東京帝大構内	1927	カンヴァス・油彩	
木村 莊八 (1893-1958)	浅草元旦	1945	カンヴァス・油彩	
川口 軌外 (1892-1966)	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	
松本 竣介 (1912-1948)	駅	1942	板・油彩	
吉井 忠 (1908-1999)	冬の海	1977	カンヴァス・油彩	
橋本 照 (1927-)	北の街—河と雲と	1996	カンヴァス・水彩	

【関根正二の作品】				
関根 正二 (1899-1919)	風景	1916 頃	板・油彩	
	銚子海岸	1916	紙・インク	
	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル	
	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩	
	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	
	自画像	1918	カンヴァス・油彩	

【追悼・田淵安一】				
田淵 安一 (1921-2009)	コケティッシュなものたち	1966	カンヴァス・油彩	
	三相万華 I	1972	カンヴァス・油彩	
	豊饒の樹 未完の季節 No.1	1978	カンヴァス・油彩	
	花林朱径	1985	カンヴァス・油彩	
	春 No.1	1997	カンヴァス・油彩	

【山川忠義・茂庭雪景】				
山川 忠義 (1903-1983)	茂庭雪景	1952	カンヴァス・油彩	展示期間：1/5 ～ 2/18
	大雪の日	1966	カンヴァス・油彩	展示期間：1/5 ～ 2/18
	ざい流る朝	1977	カンヴァス・油彩	展示期間：1/5 ～ 2/18

【追悼・渡辺良雄】				
渡辺 良雄 (1915-2010)	白壁の家	1954	カンヴァス・油彩	展示期間：2/19 ～ 3/31
	春雪	1969	カンヴァス・油彩	展示期間：2/19 ～ 3/31
	早春	2002	カンヴァス・油彩	展示期間：2/19 ～ 3/31

展示室 C

【印象派の絵画】				
カミーユ・ピサロ (1830-1903)	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	
クロード・モネ (1840-1926)	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	

【20 世紀アメリカの絵画とアメリカに学んだ日本人画家たち】				
ジョン・スローン (1871-1951)	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	
国吉 康雄 (1889-1953)	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	
清水 登之 (1887-1945)	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	
野田 英夫 (1908-1939)	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	
ベン・シャーン (1898-1969)	選挙人登録 投票用紙はあなたの手中の「力」だ	1944	紙・オフセット	
	我々は平和を望んでいる	1945	紙・リトグラフ	
	W.P.A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	
	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	
	創造のアルファベット	1963	紙・グアッシュ	
アンドリュー・ワイエス (1917-2009)	そよ風	1978	紙・水彩	

	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ
	冬の水車小屋	1978	紙・水彩
ジャコモ・マンズー (1908-1991)	車に乗った子供	1982	ブロンズ

展示室 D

【斎藤 清の『会津の冬』】

斎藤 清 (1907-1997)	会津の冬 (70) 若松	1987	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (71) 若松	1987	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (72) 坂下・七折峠	1987	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (73) 坂下・青木	1987	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (74) 喜多方	1987	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (75) 喜多方	1988	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (76) 坂下町・宇内 (2)	1988	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (77) 西会津・牧	1988	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (78) 坂下	1988	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (79) 坂下町・宇内 (3)	1989	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (80) 柳津	1989	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (81) 門・光明寺	1989	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (82) 柳津	1989	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (83) 坂下・朝立	1989	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	会津の冬 (56)	1982	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (57)	1982	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (58)	1982	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (59)	1982	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (60)	1982	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (61) 高田町戦場	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (62) 三島町大石田	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (63) 麻生	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (64) 坂下町宇内	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (65) 宮下	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (66) 喜多方南町	1986	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (67) 坂下立木観音	1987	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (68) 猪苗代湖	1987	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	会津の冬 (69) 坂下町南裏通り	1987	紙・木版	展示期間：2/19～3/31

【清宮質文の版画】

清宮 質文 (1917-1991)	ある空間 (蝶)	1962	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	歲月	1970	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	入日	1972	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	虜囚の窓	1972	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	深夜の蠟燭	1974	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	九月の海辺	1962	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	窓のカンテラ	1972	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	夕日の静物	1972	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	葬送の花火	1973	紙・木版	展示期間：2/19～3/31
	早春の静物	1977	紙・木版	展示期間：2/19～3/31

平塚 運一 (1895-1997)	雪のニコライ堂	1935	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	日本橋 (新東京百景)	1929	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	代々木ヶ原 (新東京百景)	1931	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	上野 (新東京百景)	1929-32 頃	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
武藤 六郎 (1907-1995)	清洲橋	1932	紙・木版	展示期間：1/5～2/18
	東京駅	1932	紙・木版	展示期間：1/5～2/18

谷中 安規 (1897-1946)	方寸版画 幻想集	1933	紙・木版 (全10点)	展示期間：2/19～3/31
-------------------	----------	------	-------------	----------------

ホール、屋外展示

マリノ・マリーニ (1901-1980)	騎手	1956-57	ブロンズ	
マリソール (1930-)	ママと私	1968	ステンレス、ブロンズ	寄託作品
エミリオ・グレコ (1913-1995)	スケートをする女	1951	ブロンズ	
フェルナン・レジェ (1881-1955)	歩く花	1952-53 原型作成	ブロンズ・エナメル塗装	寄託作品
佐藤 忠良 (1912-)	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	
林 範親 (1948-)	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル	
井上 武吉 (1930-1998)	MY SKY HOLE 89-2	1989	ステンレス・鏡面磨き	

特集展示

レジェ 《サーカス》 展

【概要】

当館所蔵の版画集を全点展示する試み。フランスの画家フェルナン・レジェ (1881-1955) が制作した版画集『サーカス』全 64 点を展示した。一部の作品は裏表に刷られているため、会期を前後期に分けて展示した。展示にあたり、この版画集に添えられているレジェ自身の随筆 (日本語未訳) を、田村奈保子氏 (福島大学行政学類教授、フランス文学) の協力で翻訳し、この版画集の内容を理解しやすいように努めた。また、会場内ではレジェの製作した映画『バレエ・メカニック』を上映した。

【総括】

通常の常設展示では、作品数の多い版画集については抜粋して展示することが多い。今回は、版画集全体を一度に見ることができ、物語全体をより理解できる好機となった。会期中の一日、市民有志による本展の協力として、美術館前庭で「美術館とまちづくり研究会」主催で「サーカスに行こう！～美術館にミニサーカスがやってくる～」が開かれ、バザーやジャグリング、吹奏楽の演奏などが行われた。

会 期：2009 年 5 月 30 日(土)～6 月 28 日(日)

会 場：企画展示室 B

休館日：毎週月曜日

観覧者数：1,905 名

担 当：伊藤匡

□印刷物

- ・チラシ (A4 判モノクロ両面刷)

□関連事業

- ・ギャラリー・レクチャー 各回とも 14:00-

① 6 月 13 日(土)「レジェの『サーカス』を聞く／読む」

講師：田村奈保子氏 (福島大学教授) 10 名参加

② 6 月 20 日(土)「フェルナン・レジェの芸術」

講師：伊藤匡 (当館学芸課長) 5 名参加

- ・友の会会員のための美術鑑賞講座

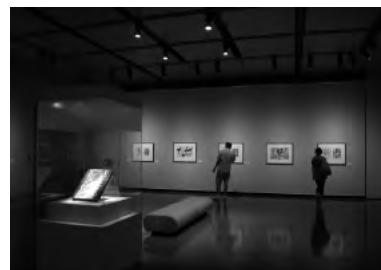
5 月 31 日(土) 講師：伊藤匡 (当館学芸課長) 10 名参加

□出品作品

フェルナン・レジェ「サーカス」(64 点組) 1950 紙・リトグラフ



展覧会ポスター・チラシ



展示風景



ギャラリー・レクチャー (6/13)

移動美術館「世界の名作版画」展

移動美術館展は、広い県土を有する福島県において、多くの県民が身近な場所で県立美術館の美術品を鑑賞する機会を提供する目的で、1999年から年1回開催している。

本年は、会津地域の人口2千人の町、三島町の交流センター〈山びこ〉で開催した。

内容は、ピカソ、シャガール、ルオー、レジェら、ヨーロッパ20世紀の美術を代表する作家たちの版画の名作を展示した。また、同町出身の日本画家酒井三良の作品を特別展示した。

会期：2009年10月24日(土)～11月8日(日)

開館時間：9:00～17:30

休館日：10月26日(月)、11月4日(水)

主催：三島町・三島町教育委員会・福島県立美術館

共催：三島町文化協会・三島町観光協会

会場：三島町交流センター山びこ

(大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上 418 電話 0243-44-3185)

観覧料：大人 300(240) 円 小人 150(120) 円 () 内は 10 名以上の団体料金

観覧者数：373 人

担当：伊藤匡

□印刷物

- ・ 展覧会リーフレット／鑑賞の手引

規格／A3 判二つ折り カラー 24 点

内容／作家作品解説、展示作品リスト、版画技法解説

□関連事業

- ・ ギャラリートーク 講師：伊藤匡(当館学芸課長)

① 10月24日(土) 13:00～ 40名参加

② 11月 3日(祝) 13:00～ 8名参加



リーフレット



展示室入口



展示風景

出品リスト

No.	作家名	作品名	制作年 / 寸法	材質・技法
パブロ・ピカソ 版画集 『二人の裸婦』(全18点組)より				
1		No.2 25.8×33.6 No.4 26.5×35.0 No.6 25.9×34.7 No.8 32.1×42.6	1945-46	紙・リトグラフ
～9		No.10 27.1×36.2 No.12 28.5×37.5 No.14 27.4×36.5 No.16 27.4×39.8 No.18 32.4×42.9		
ジョルジュ・ルオー 版画集 『ミセレーレ』(全58点組)より 10点				
10		1 神よ、我を憐れみたまえ、御身の大きいなる慈悲によりて	1922-27	紙・銅版
11		6 我らは苦役囚ではないのか		57.4×41.9
12		8 顔に皺を描かぬ者はいようか？		59.0×43.4
13		10 長き苦悩の古き場末にて		56.6×42.8
14		22 世は様々なれど、荒地に種蒔くは美しき仕事		56.8×42.0
15		34 廃墟すら亡びたり		58.9×43.0
16		36 これでお終いだよ、おやじさん		57.9×44.7
17		42 母たちに忌み嫌われる戦争		59.2×43.0
18		56 高慢と無信仰のこの暗き時代に、地の果てより聖母は見守る		58.6×44.0
19		58 我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり		58.9×43.9
ジョルジュ・ルオー 版画集 『流れる星のサーカス』(全17点組)より				
20		1 扉 見世物小屋の呼び込み	1934-38年	紙・銅版(アクアチント、エッチング)
21		5 曲芸師	30.4×19.7	
22		10 親代々の旅芸人	31.1×20.5	
23		14 ピエロ	30.4×20.3	
24		15 バレリーナたち	30.6×20.8	
25		17 眠れ、よい子よ	30.7×20.0	
マルク・シャガール 版画集 『少年時代の思い出』(全10点組)				
26		1 34.7×26.7 2 34.3×26.6 3 37.0×27.3 4 36.9×27.1 5 34.8×26.6	1958年	紙・銅版(エッチング、アクアチント)
～35		6 37.4×26.7 7 34.8×27.2 8 37.1×27.9 9 37.2×27.3 10 37.8×27.2		
マルク・シャガール 版画集 『死せる魂』より 25点				
1923-25制作(1948発行)				
紙・銅版(エッチング、アクアチント、ドライポイント)				
36		1 チーチコフの到着		22.0×28.6
37		3 小さな町		22.2×28.7
38		8 マニーロフ		28.7×22.6
39		15 カローボチカ夫人		30.0×22.5
40		17 放し飼いの庭		22.6×29.7
41		18 朝のお茶		22.7×29.7
42		22 ノズドリヨーフ		28.9×23.0
43		24 トランプ		22.0×28.6
44		32 サバケーヴィチ		27.7×21.1
45		35 支度のできた食事		27.8×21.3
46		37 チーチコフとサバケーヴィチは取引をする		21.5×27.9
47		45 橋の下で拾い集めるプリューシキン		27.8×21.3
48		47 プリューシキンは酒をすすめる		21.3×27.8
49		51 ゴーゴリとシャガール		27.6×21.2
50		52 大喜ぶる寝間着姿のチーチコフ		27.7×21.1
51		63 裁判所		22.1×27.8
52		65 賄賂		22.1×27.7
53		73 舞踏会にあらわれたチーチコフ		22.0×27.8
54		74 知事邸での舞踏会		27.8×21.0
55		75 ノズドリヨーフの暴露		21.3×30.5
56		78 知事夫人は娘を叱りつける		27.6×21.2
57		81 やせ細った役人たち		27.8×23.6
58		84 検事死す		21.0×27.7
59		88 我らが英雄は旅支度をする		27.8×21.1
60		96 夕暮れのトロイカ		21.2×27.7
フェルナン・レジェ 版画集 『サーカス』より 4点				
61-64		26 42.2×64.1 29 41.6×62.3 44 40.0×59.5 48 41.9×64.4	1950	紙・リトグラフ
酒井 三良				
65		帰樵	1930	紙本著色 74.0×90.8 寄託作品
66		雨はれ	1930	紙本著色 74.0×92.8 寄託作品
67		そばの秋	1930	紙本著色 73.5×92.2 寄託作品
68		雪暮	1930	紙本著色 76.5×92.0 寄託作品

合計 68点

1. アンドリュー・ワイエス 創造への道程^{みち} Emotion and Creation

会 期：2009 年 3 月 17 日(土)～ 5 月 10 日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：3 月 23、30 日、4 月 6、13、20 日

観覧料：一般 1200(900) 円／大学生 800(500) 円／

高・小・中学生 400(200) 円／男女ペア当日券＝ 2000 円

＊() 内は前売りおよび 20 名以上の団体料金

観覧者数：20,109 名

担 当：荒木康子、吉村有子

主催：福島県立美術館／福島テレビ

共催：福島県立美術館協力会

特別協力：アンドリュー・ワイエス夫妻／丸沼芸術の森

後援：在日米国大使館

協賛：損害保険ジャパン／大日本印刷

協力：全日本空輸



B2 ポスター

【概要】

アメリカン・リアリズムを現代に受け継ぐ画家として知られているアンドリュー・ワイエス (1917- 2009)。テンペラという古典的な技法を用いて、細い枯れ枝、あるいは光に輝くブロンドの髪一本一本まで克明に描き出し、まるで時間が止まったような不思議な世界に私たちを誘う。こうした作品はどのように生み出されたのだろうか。本展では、ワイエスの芸術が生まれる過程に焦点を当て、素描や水彩などの習作から完成作品にいたる創造のプロセスを 150 点の作品によってたどった。

【総括】

本展は開館 25 周年事業の一つとして開催された。アンドリュー・ワイエスの作品は、アメリカン・リアリズムをコレクションの柱の一つとする当館にとって重要であり、これまでも展覧会を 3 回 (1991 年、1995 年、2001 年) 開催してきた。4 回目にあたる本展では、創造の秘密に迫るというコンセプトで、完成作品とそれにいたる習作を合わせて展示した。《松ぼっくり男爵》を含む 6 点の収蔵作品を、いつもとは異なった角度から紹介できたと思う。

運営の面では、昨年の「フランス近代絵画のながれ」展に引き続き、大学生の誘客を図るために一般より安い大学生券を作り、隣県も含めた各大学に前売りを委託した。同じく男女ペアチケットも観覧者数の 1/4 を占め、好評であった。会期中で女性と 65 歳以上の高齢者への平日割引を行った (4 月 30 日まで)、森合地区町会連合会への割引券配布も行った。これらについては時間的な余裕がなく、告知が十分にできなかったことは反省すべきであるが、平日のみとはいえ、特に女性と高齢者へのサービスは好評であった。



展覧会図録



□印刷物

- ・ポスター (B2)、チラシ (A4)、案内はがき
- ・出品目録 (A3 二つ折り)
- ・展覧会図録 (27.9×22.6 cm 208 頁)

図版 | カラー 154 点

本文 | 章解説／作品解説／年譜・主要展覧会歴／関連地図／主要文献目録／出品目録

「メッセージ」 アンドリュー・ワイエス

「展覧会によせて」 須崎勝茂 (丸沼芸術の森代表)

「アンドリュー・ワイエスー創造への道」

高橋秀治 (愛知県美術館美術課長)

「松並木一折り重ねられた意味をめぐって」

荒木康子 (福島県立美術館学芸員)

「ワイエスの世界に導かれて」

中村音代 (丸沼芸術の森学芸スタッフ)

□関連事業

■特別ギャラリートーク 「ワイエスと丸沼芸術の森」

日時：3 月 17 日(火) 14:00 ～

場所：企画展示室 A-1,2

講師：須崎勝茂氏 (丸沼芸術の森代表)

中村音代氏 (丸沼芸術の森ワイエス担当学芸スタッフ)

聴講者：80 人

■ギャラリートーク

日時：① 3 月 28 日 (土) 14:00 ～

② 4 月 11 日 (土) 14:00 ～ 友の会対象

③ 4 月 18 日 (土) 14:00 ～

④ 4 月 28 日(火) 14:00 ～ 森合地区対象

場所：企画展示室

講師：①吉村有子 (当館学芸員) ②荒木康子 ③吉村有子 ④荒木康子

聴講者：各 70 名

■「プレゼント・ディ」

日時：4 月 4 日(土)

内容：まちなか周遊バス「もりん号」の発着を記念して、先着 50 名にアンドリュー・ワイエス関連グッズをプレゼント。

■講演会 「心の風景が絵になるとき」

日時：4 月 25 日 (土) 14:00 ～

場所：福島県立美術館講堂 (聴講無料)

講師：高橋秀治氏 (愛知県美術館美術課長)

聴講者：200 人

■「ブルーベリー・ディ」

日時：5 月 1 日 (金)

主催：美術館とまちづくり研究会

場所：福島県立美術館庭園ほか



オープニング 2009/3/16



テープカット 2009/3/16



特別ギャラリートーク 2009/3/17



ギャラリートーク 2009/4/18

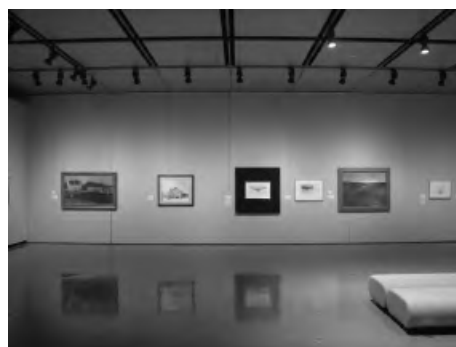
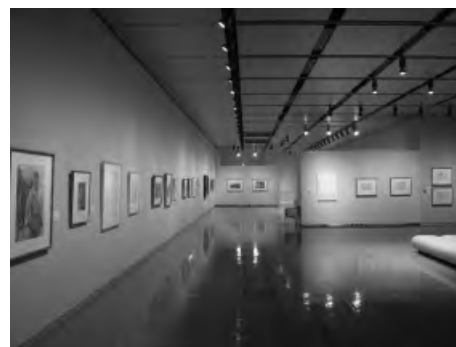


講演会 2009/4/25

庭園でブルーベリー・ジャムや小物を販売。

□関連記事

- ・「ワイエス展―県立美術館 物語の秘密」『福島民報』 荒木康子
 - 1 「創造の道程 対象見つめ紡ぎ出す」 3月8日
 - 2 「メイン州のオルソン姉弟 存在のはかなさ描く」 3月15日
 - 3 「隣人にそそがれる視線 誇り高きメーンの男」 3月22日
 - 4 「ペンシルベニア州のカーナー夫妻 歴史の瞬間感じ取る」
3月29日
- ・「アンドリュー・ワイエス 創造への道程」『河北新報』3月26日
荒木康子
- ・「アンドリュー・ワイエス 創造への道程」『福島民友』
 - 1 「白昼夢のような『幻影』」 4月1日 吉村有子
 - 2 「鬼気迫る『ガニング・ロックス』」 4月8日 荒木康子
 - 3 「神秘的な世界宿る『火打ち石』」 4月15日 荒木康子
 - 4 「好奇心そそる『松ぼっくり男爵』」 4月22日 吉村有子
 - 5 「奇妙な光景広がる『三日月』」 4月29日 吉村有子



展示風景

出品リスト

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
第1章 自画像 Self-Portrait					
1	《自画像》習作	1938	鉛筆、紙	53.3×40.0	アンドリュース・ワイエス夫妻
2	自画像	1938	テンペラ、パネル	50.0×40.8	個人蔵
3	《自画像》習作	1944-45	水彩、紙	38.1×58.4	アンドリュース・ワイエス夫妻
4	《自画像》習作	1944-45	水彩、紙	55.5×75.8	アンドリュース・ワイエス夫妻
5	自画像	1944-45	テンペラ、パネル	63.5×76.2	ナショナル・アカデミー美術館
第2章 メイン州 Maine					
6	オルソンの家	1939	水彩、紙	38.0×53.5	丸沼芸術の森
7	表戸の階段に座るアルヴァロ	1942	水彩、紙	54.8×75.0	丸沼芸術の森
8	ブルーベリーを収穫するアルヴァロたち	1942	水彩、紙	54.6×75.6	丸沼芸術の森
9	《オイル・ランプ》習作	1945	鉛筆、紙	34.1×42.8	丸沼芸術の森
10	《オイル・ランプ》習作	1945	鉛筆、紙	56.0×37.7	丸沼芸術の森
11	《オイル・ランプ》習作	1945	鉛筆、紙	56.5×71.6	丸沼芸術の森
12	オイル・ランプ	1945	テンペラ、パネル	86.3×106.6	ジェイムズ・ワイエス夫妻
13	居間	1946	水彩、紙	73.0×54.0	個人蔵
14	《クリスティーナの世界》第一構想	1948	鉛筆、紙	30.6×47.8	丸沼芸術の森
15	《クリスティーナの世界》習作	1948	鉛筆、紙	21.6×27.8	丸沼芸術の森
16	《クリスティーナの世界》習作	1948	鉛筆、紙	35.4×50.5	丸沼芸術の森
17	《クリスティーナの世界》習作	1948	鉛筆、紙	37.8×55.9	丸沼芸術の森
18	《クリスティーナの世界》習作	1948	鉛筆、紙	37.8×56.0	丸沼芸術の森
19	《クリスティーナの世界》習作	1948	鉛筆、紙	41.7×55.5	丸沼芸術の森
20	《クリスティーナの世界》習作	1948	水彩、紙	37.8×55.9	丸沼芸術の森
21	《クリスティーナの世界》習作	1948	ドライブラッシュ・水彩、紙	37.9×54.4	丸沼芸術の森
22	《幻影》習作	1949	鉛筆、紙	42.2×45.4	丸沼芸術の森
23	《幻影》習作	1949	鉛筆、紙	76.0×55.5	丸沼芸術の森
24	《幻影》習作	1949	水彩、紙	43.5×28.5	丸沼芸術の森
25	《幻影》習作	1949	水彩、紙	76.3×55.7	丸沼芸術の森
26	幻影	1949	テンペラ、メゾナイト	76.2×53.3	ニューブリテン美術館
27	カモメの案山子	1954	水彩、紙	72.7×56.6	丸沼芸術の森
28	《カモメの案山子》習作	1955	鉛筆、紙	45.7×61.2	丸沼芸術の森
29	カモメの案山子	1955	水彩、紙	50.7×71.2	丸沼芸術の森
30	柱のカモメ	1955	水彩、紙	55.8×76.3	丸沼芸術の森
31	《オルソン家の納屋の内部》習作	1957	鉛筆、紙	25.4×35.3	丸沼芸術の森
32	《オルソン家の納屋の内部》習作	1957	鉛筆、紙	56.5×72.4	丸沼芸術の森
33	オルソン家の納屋の内部	1957	水彩、紙	56.6×72.5	丸沼芸術の森
34	《青い計量器》習作	1959	鉛筆、紙	36.5×21.3	丸沼芸術の森
35	《青い計量器》習作	1959	水彩、紙	38.6×57.7	丸沼芸術の森
36	青い計量器	1959	ドライブラッシュ・水彩、紙	58.2×39.0	丸沼芸術の森
37	《卵の計量器》習作	1959	鉛筆、紙	37.0×29.1	丸沼芸術の森
38	《卵の計量器》習作	1959	鉛筆、紙	47.0×61.0	丸沼芸術の森
39	《卵の計量器》習作	1959	鉛筆、紙	59.1×73.8	丸沼芸術の森
40	卵の計量器	1959	ドライブラッシュ・水彩、紙	39.3×49.1	丸沼芸術の森
41	オルソン家の納屋の馬具	1960	水彩、紙	56.7×72.5	丸沼芸術の森

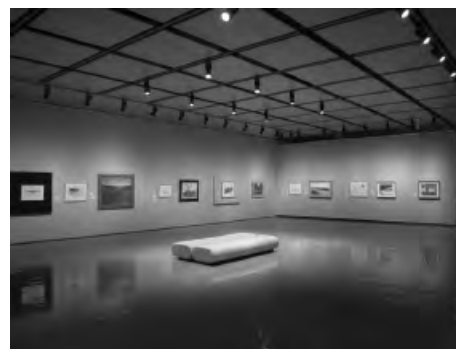
番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
42	《煮炊き用薪ストーヴ》習作	1962	鉛筆、紙	28.0×35.5	丸沼芸術の森
43	《煮炊き用薪ストーヴ》習作	1962	鉛筆、紙	35.3×55.6	丸沼芸術の森
44	煮炊き用薪ストーヴ	1962	ドライブラッシュ・水彩、紙	34.0×66.0	ファーンズワース美術館
45	《煮炊き用薪ストーヴ》習作	1962	ドライブラッシュ・水彩、紙	54.0×75.6	丸沼芸術の森
46	雨どい (《さらされた場所》習作)	1965	ドライブラッシュ・水彩、紙	27.9×35.4	丸沼芸術の森
47	オルソン家の片隅 (《さらされた場所》習作)	1965	水彩、紙	60.9×47.8	丸沼芸術の森
48	オルソンと樽 (《さらされた場所》習作)	1965	鉛筆、紙	68.9×53.8	丸沼芸術の森
49	納屋のツバメ (《さらされた場所》習作)	1965	水彩・鉛筆、紙	73.7×56.0	丸沼芸術の森
50	パンジー (《さらされた場所》習作)	1965	水彩・鉛筆、紙	45.8×30.6	丸沼芸術の森
51	《さらされた場所》習作	1965	鉛筆、紙	28.1×35.4	丸沼芸術の森
52	《さらされた場所》習作	1965	鉛筆、紙	35.4×25.5	丸沼芸術の森
53	《さらされた場所》習作	1965	鉛筆、紙	74.0×56.0	丸沼芸術の森
54	《さらされた場所》習作	1965	水彩・鉛筆、紙	71.1×48.4	丸沼芸術の森
55	オルソン家の納屋の干し草置き場	1966	水彩、紙	71.1×48.3	丸沼芸術の森
56	オルソンの家	1966	水彩、紙	71.0×48.4	丸沼芸術の森
57	《ガニング・ロックス》習作	1966	鉛筆、紙	21.0×27.0	アンドリュース・ワイエス夫妻
58	《ガニング・ロックス》習作	1966	鉛筆、紙	45.5×30.5	アンドリュース・ワイエス夫妻
59	《ガニング・ロックス》習作	1966	水彩、紙	21.0×27.5	アンドリュース・ワイエス夫妻
60	《ガニング・ロックス》習作	1966	水彩、紙	23.0×31.0	アンドリュース・ワイエス夫妻
61	ガニング・ロックス	1966	ドライブラッシュ・水彩、紙	48.1×61.1	福島県立美術館
62	《アンナ・クリスティーナ》習作	1967	鉛筆、紙	30.8×45.5	丸沼芸術の森
63	《アンナ・クリスティーナ》習作	1967	水彩、紙	76.0×55.0	丸沼芸術の森
64	霧の中のオルソンの家	1967	水彩、紙	55.6×76.4	丸沼芸術の森
65	《続き部屋》習作	1967	鉛筆、紙	30.8×45.7	丸沼芸術の森
66	《続き部屋》習作	1967	鉛筆、紙	45.6×30.5	丸沼芸術の森
67	《続き部屋》習作	1967	鉛筆、紙	56.7×76.3	丸沼芸術の森
68	続き部屋	1967	水彩、紙	73.3×58.1	アンドリュース・ワイエス夫妻
69	《パイ用のブルーベリー》習作	1967	水彩、紙	55.9×35.6	丸沼芸術の森
70	《アルヴァロとクリスティーナ》習作	1968	鉛筆、紙	45.7×30.2	丸沼芸術の森
71	《アルヴァロとクリスティーナ》習作	1968	鉛筆、紙	45.7×30.5	丸沼芸術の森
72	《アルヴァロとクリスティーナ》習作	1968	水彩、紙	75.9×55.5	丸沼芸術の森
73	クリスティーナの墓	1968	鉛筆、紙	35.6×43.1	丸沼芸術の森
74	《オルソン家の終焉》習作	1969	鉛筆、紙	27.7×35.2	丸沼芸術の森
75	《オルソン家の終焉》習作	1969	鉛筆、紙	35.1×27.7	丸沼芸術の森
76	《オルソン家の終焉》習作	1969	鉛筆、紙	35.2×27.9	丸沼芸術の森
77	《オルソン家の終焉》習作	1969	鉛筆、紙	78.2×56.6	丸沼芸術の森
78	《オルソン家の終焉》習作	1969	水彩、紙	55.5×76.0	丸沼芸術の森
79	《オルソン家の終焉》習作	1969	テンペラ、ボード	62.0×37.3	丸沼芸術の森
80	早い雪	1969	水彩、紙	54.6×75.4	丸沼芸術の森
81	《火打ち石》習作	1975	鉛筆、紙	45.7×59.6	個人蔵
82	《火打ち石》習作	1975	鉛筆、紙	46.0×60.5	アンドリュース・ワイエス夫妻
83	《火打ち石》習作	1975	鉛筆、紙	45.5×60.5	アンドリュース・ワイエス夫妻
84	《火打ち石》習作	1975	水彩、紙	62.8×92.7	アンドリュース・ワイエス夫妻
85	火打ち石	1975	テンペラ、パネル	55.6×73.3	個人蔵
86	《そよ風》習作	1978	鉛筆、紙	30.5×45.0	アンドリュース・ワイエス夫妻
87	《そよ風》習作	1978	鉛筆、紙	30.5×45.0	アンドリュース・ワイエス夫妻

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
88	《そよ風》習作	1978	鉛筆、紙	45.5×30.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
89	《そよ風》習作	1978	鉛筆、紙	30.5×45.0	アンドリュー・ワイエス夫妻
90	《そよ風》習作	1978	水彩、紙	76.0×56.0	アンドリュー・ワイエス夫妻
91	そよ風	1978	ドライブラッシュ・水彩、紙	55.8×53.1	福島県立美術館
92	のこぎりを引く音	1983	水彩、紙	54.0×74.0	個人蔵

第3章 ペンシルヴェニア州 Pennsylvania

93	《四月の風》習作	1952	鉛筆、紙	48.8×64.5	ワシントン・ナショナル・ギャラリー寄託
94	カラスの群れ (《雪まじりの風》習作)	1953	水彩、紙	24.8×48.9	アンドリュー・ワイエス夫妻
95	《雪まじりの風》習作	1953	鉛筆、紙	33.0×48.8	アンドリュー・ワイエス夫妻
96	雪まじりの風	1953	テンペラ、パネル	94.5×122.0	ワシントン・ナショナル・ギャラリー
97	トムと孫娘	1959	鉛筆、紙	42.2×58.7	アンドリュー・ワイエス夫妻
98	大水の後 (《粉挽き小屋》習作)	1962	鉛筆、紙	34.9×72.3	アンドリュー・ワイエス夫妻
99	《粉挽き小屋》習作	1962	鉛筆、紙	27.3×34.6	アンドリュー・ワイエス夫妻
100	《粉挽き小屋》習作	1962	鉛筆、紙	45.4×58.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
101	《粉挽き小屋》習作	1962	鉛筆、紙	44.4×71.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
102	《粉挽き小屋》習作	1962	水彩、紙	53.9×75.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
103	粉挽き小屋	1962	テンペラ、パネル	75.5×130.8	フィラデルフィア美術館
104	粉挽き小屋 2 (《粉挽き小屋》習作)	1962	水彩、紙	56.7×76.8	フィラデルフィア美術館
105	私の姉	1967	鉛筆、紙	34.6×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
106	氷塊I	1968	水彩、紙	53.0×75.9	愛知県美術館
107	《アラベラ》習作	1969	鉛筆、紙	34.2×42.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
108	アラベラ	1969	ドライブラッシュ・水彩、紙	34.3×41.9	メトロポリタン美術館
109	《雪のなかの松》習作	1972	鉛筆、紙	50.1×45.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
110	《雪のなかの松》習作	1972	鉛筆、紙	45.7×60.3	アンドリュー・ワイエス夫妻
111	《雪のなかの松》習作	1972	水彩、紙	74.9×54.6	アンドリュー・ワイエス夫妻
112	《鷹の木》習作	1973	鉛筆、紙	27.6×35.2	アンドリュー・ワイエス夫妻
113	鷹の木	1973	ドライブラッシュ、紙	53.3×72.4	成田ゴルフ倶楽部
114	ドイツ人の住むところ	1973	水彩、紙	54.9×75.3	福島県立美術館
115	鉄兜 (《松ぼっくり男爵》習作)	1976	ドライブラッシュ・水彩、紙	58.4×72.4	アンドリュー・ワイエス夫妻
116	《松ぼっくり男爵》習作	1976	鉛筆、紙	28.0×34.0	アンドリュー・ワイエス夫妻
117	《松ぼっくり男爵》習作	1976	鉛筆、紙	45.7×60.3	アンドリュー・ワイエス夫妻
118	《松ぼっくり男爵》習作	1976	鉛筆、紙	45.7×60.3	アンドリュー・ワイエス夫妻
119	《松ぼっくり男爵》習作	1976	鉛筆、紙	63.5×77.7	アンドリュー・ワイエス夫妻
120	《松ぼっくり男爵》習作	1976	水彩・鉛筆、紙	55.2×75.8	アンドリュー・ワイエス夫妻
121	松ぼっくり男爵	1976	テンペラ、パネル	80.0×84.5	福島県立美術館
122	冬の水車小屋	1978	水彩、紙	58.4×72.4	福島県立美術館
123	《ページボーイ》習作	1979	鉛筆、紙	34.9×27.9	アデルソン・ギャラリー
124	《ページボーイ》習作	1979	水彩・鉛筆、紙	33.0×27.9	アデルソン・ギャラリー
125	ページボーイ	1979	ドライブラッシュ、紙	40.6×50.2	アデルソン・ギャラリー
126	《ジャックライト》習作	1980	鉛筆、紙	35.5×27.9	アンドリュー・ワイエス夫妻
127	《ジャックライト》習作	1980	鉛筆、紙	43.1×35.5	アンドリュー・ワイエス夫妻
128	《ジャックライト》習作	1980	鉛筆、紙	35.5×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
129	《ジャックライト》習作	1980	鉛筆、紙	35.5×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
130	《ジャックライト》習作	1980	鉛筆、紙	35.5×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
131	ジャックライト	1980	テンペラ、パネル	109.7×123.8	個人蔵

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
132	昨夜	1980	水彩、紙	49.8×39.6	アンドリュー・ワイエス夫妻
133	《747》習作	1980	鉛筆、紙	27.9×34.9	アンドリュー・ワイエス夫妻
134	《747》習作	1980	鉛筆、紙	60.2×50.4	アンドリュー・ワイエス夫妻
135	《747》習作	1980	水彩・鉛筆、紙	60.9×45.4	アンドリュー・ワイエス夫妻
136	《747》習作	1980	水彩、紙	68.5×44.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
137	《747》習作	1980	水彩、紙	76.2×54.2	アンドリュー・ワイエス夫妻
138	747	1980	テンペラ、パネル	72.3×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
139	《野に置かれた義手》習作	1985	鉛筆、紙	30.4×45.0	アンドリュー・ワイエス夫妻
140	野に置かれた義手	1985	ドライブラッシュ・紙	55.2×101.3	ワシントン・ナショナル・ギャラリー
141	《三日月》習作	1987	鉛筆、紙	45.7×60.9	アンドリュー・ワイエス夫妻
142	三日月	1987	テンペラ、パネル	40.0×55.6	個人蔵
143	《鋭利な斧》習作	1988	鉛筆、紙	35.5×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
144	《鋭利な斧》習作	1988	鉛筆、紙	35.5×43.1	アンドリュー・ワイエス夫妻
145	《鋭利な斧》習作	1988	鉛筆、紙	38.1×45.4	アンドリュー・ワイエス夫妻
146	《鋭利な斧》習作	1988	水彩、紙	48.2×76.2	アンドリュー・ワイエス夫妻
147	《鋭利な斧》習作	1988	水彩、紙	55.2×73.6	アンドリュー・ワイエス夫妻
148	鋭利な斧	1988	ドライブラッシュ・水彩、紙	72.4×54.3	アデルソン・ギャラリー
149	農場にて	1988	水彩、紙	55.2×100.8	福島県立美術館
150	ドアベル	1990	テンペラ、ボード	45.5×58.5	個人蔵



2. 開館 25 周年記念 アートの遠近—福島県立美術館のすべて—

会 期：2009 年 7 月 18 日(土)～ 9 月 27 日(日)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B、常設展示室 A、B、C、D

休館日：毎週月曜日 (7/20、9/21 は開館)、8/25 (火)、9/24 (木)

観覧料：一般・大学生 600(480) 円／高校生 300(240) 円／

小・中学生 200(160) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：6,660 名

担 当：佐治ゆかり、宮武弘

主催：福島県立美術館

後援：福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社、NHK 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしま FM

【概要】

福島県立美術館が開館して 25 年を迎えた。この間、福島県の作家の活動や作品について深く県民に接してもらえる場所となることを目指すとともに、県内外を問わず、各時代を代表する作家の活動や作品についても広く紹介してきた。こうした活動の成果は、2,200 点余の収蔵作品にも反映されている。

この展覧会では、可能な限り多くの所蔵作品を展示するため、多彩な視点と構成によって、所蔵作品の特徴と魅力を紹介した。

■ 1 階展示室＝第 1 部 アートの魅力＜遠＞ コレクションの全貌

コレクションの魅力を代表的な作品をもとに紹介。人気作品のリクエスト投票の結果も公開。

■ 2 階展示室＝第 2 部 アートの魅力＜近＞ オモテを見るか／ウラを読むか

学芸員が多彩なテーマでコレクションを再構成。アートの魅力と謎に迫る。

前期日程：7 月 18 日(土)～ 8 月 23 日(日)

- | | |
|------------------|-------|
| ①「絵を読む」 | 担当：伊藤 |
| ②「新発見と再評価」 | 担当：堀 |
| ③「現代日本画の挑戦」 | 担当：増渕 |
| ④「街に生きる・街にみる夢」 | 担当：橋本 |
| ⑤「木版画の幻想、銅版画の幻想」 | 担当：吉村 |

後期日程：8 月 26 日(水)～ 9 月 27 日(日)

- | | |
|-------------------------|-------|
| ⑥「日本の工芸～多様な技法と背景」 | 担当：佐治 |
| ⑦「抽象絵画の創造力」 | 担当：宮武 |
| ⑧「写真のイメージと美術」 | 担当：久慈 |
| ⑨「ツリー・ツリー・ツリー／森で会いましょう」 | 担当：荒木 |

【総括】

ともすると見慣れた感のする所蔵作品であっても、視点や角度を変えて接することで、作品が内包する魅力や見る人との新たな関係に気付いてもらうことができたと考える。

さらに展覧会をとおして、美術館の活動に関心をもってもらうことで、これからの美術館について多くの人に考えてもらえる良い機会となった。



B2 ポスター



展覧会リーフレット



シンポジウム「地域と美術館」(7/19)

□印刷物

- ・ポスター (B2)、チラシ (A4)、案内はがき
- ・リーフレット (A4 判 8 頁単色刷)

□関連事業

- ・開館 25 周年記念シンポジウム

日時：7 月 19 日(日) 14:00 ～

第 1 部 基調講演「美術館は地域の文化資源」

講師：酒井哲朗（当館館長）

第 2 部 シンポジウム「地域と美術館」

主催：福島県立美術館、NPO 法人福島県立美術館協力会、福島民報社

場所：美術館講堂

参加者：100 名

- ・記念講演「日本洋画・青年たちの群像 寺田農、父を語る」

日時：8 月 1 日(土) 14:00 ～

講師：寺田農氏（俳優、東海大学特任教授）

場所：美術館講堂

聴講者：90 名

- ・ワークショップ

①「なんちゃってコレクションー私が見つけた森」

日時：9 月 19 日(土) 10:00 ～ 16:00

講師：太田隆明氏（美術家、福島県教育センター指導主事）

場所：展示室、実習室、屋外その他

参加者：13 名

②「写真や印刷物から絵を作る」

日時：9 月 26 日(土) 10:00 ～ 16:00

講師：久慈伸一（当館学芸員）

場所：実習室

参加者：3 名

- ・ゲストトーク「技法から探るワイエスの魅力」

日時：8 月 15 日(土) 14:00 ～

講師：真柴毅氏（美術家、福島県立本宮高等学校教諭）

場所：1 階企画展示室－B

聴講者：20 名

- ・ギャラリートーク 参加者 ①～⑩ のべ 61 名

①「コレクションの全貌（前期）」

日時：7 月 25 日(土) 14:00 ～

講師：伊藤匡（当館学芸課長）

場所：1 階企画展示室

②「絵を読む」

日時：7 月 25 日(土) 15:00 ～



記念講演会 寺田農氏（8/1）



ゲストトーク 真柴毅氏（8/15）



ギャラリートーク（7/25）



ギャラリートーク（9/5）



展示風景

講師：伊藤匡（当館学芸課長）

場所：2 階常設展示室 -A

③「新発見と再評価」

日時：8 月 8 日(土) 14:00 ～

講師：堀宜雄（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -A

④「現代日本画の挑戦」

日時：8 月 8 日(土) 15:00 ～

講師：増渕鏡子（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -B

⑤「街に生きる・街にみる夢」

日時：8 月 22 日(土) 14:00 ～

講師：橋本淳也（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -B

⑥「木版画の幻想、銅版画の幻想」

日時：8 月 22 日(土) 15:00 ～

講師：吉村有子（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -C

⑦「コレクションの全貌」(後期)

日時：8 月 29 日(土) 14:00 ～

講師：佐治ゆかり（当館学芸員）

場所：1 階企画展示室

⑧「日本の工芸 多様な技法と背景」

日時：9 月 5 日(土) 14:00 ～

講師：佐治ゆかり（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -A

⑨「抽象絵画の創造力」

日時：9 月 12 日(土) 14:00 ～

講師：宮武弘（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -B

⑩「ツリー・ツリー・ツリー 森で会いましょう」

日時：9 月 12 日(土) 15:00 ～

講師：荒木康子（当館学芸員）

場所：2 階常設展示室 -C.D

・友の会鑑賞講座

①「アートの遠近～福島県立美術館のすべて(前期)」

日時：7 月 25 日(土) 13:00 ～

講師：佐治ゆかり（当館学芸員）

場所：講義室、企画展示室

参加者：13 名

②「アートの遠近～福島県立美術館のすべて(後期)」

日時：8 月 29 日(土) 13:00 ～

講師：伊藤匡（当館学芸課長）

場所：講義室、企画展示室

参加者：14 名

□関連記事

・「北から南 museum35 アートの遠近 美術館のすべて」

『新美術新聞』2009 年 8 月号

・「前衛画家の亡父語る 俳優・寺田農さん講演」『福島民報』

2009 年 7 月 31 日



出品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)	備考
<海外の美術Ⅰ・ヨーロッパ>							
1	クロード・モネ	1840-1926	ジヴェルニーの草原	1890	カンヴァス・油彩	65.1×92.4	
2	カミーユ・ピサロ	1830-1903	エラニーの菜園	1899	カンヴァス・油彩	72.9×92.0	
3	ポール・ゴーギャン	1848-1903	ブルターニュの子供	1889	紙・水彩、パステル	26.3×38.2	
4	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	ミセレーレ	1922-27	紙・銅版 58点組 172/335	各約 58×42	[前後期6点ずつ展示]
5	ジョルジュ・ルオー	1871-1958	流れる星のサーカス	1934-38	紙・アクアチント、エッチング	17点組 4/250	[前後期6点ずつ展示]
6	マックス・エルンスト	1891-1976	博物誌	1926	紙・コロタイプ 34点組 121/300		[前期8点]
7	マルク・シャガール	1887-1985	少年時代の思い出	1958	紙・エッチング、アクアチント		[後期全10点展示]
8	パブロ・ピカソ	1881-1973	二人の裸婦	1945-46	紙・リトグラフ 18点組 25/50		
<海外の美術Ⅱ・アメリカ>							
9	ジョン・スローン	1871-1951	ジェファーソンマーケット、ナイト	1909	カンヴァス・油彩	81.5×66.2	
10	ジョン・スローン	1871-1951	サンタフェからの二人の女	1921	カンヴァス・油彩	60.9×51.4	
11	ジョン・スローン	1871-1951	五番街の批評家たち	1940	カンヴァス・油彩	89.2×114.4	
12	レジナルド・マーシュ	1898-1954	回転ブランコ	1931	ボード・テンペラ	91.0×152.0	
13	ベン・シャーン	1898-1969	W. P. A. サンデー	1939	紙・グアッシュ	58.0×79.3	[前期]
14	ベン・シャーン	1898-1969	恐怖の夜の町	1951	板・グアッシュ、テンペラ	121.0×142.4	[前期]
15	ベン・シャーン	1898-1969	スイミングプール	1945	ボード・テンペラ	55.9×76.2	[後期]
16	ベン・シャーン	1898-1969	ラッキードラゴン	1960	綿布・テンペラ	214.5×122.0	[後期]
17	ベン・シャーン	1898-1969	創造のアルファベット	1963	ボード・グアッシュ	40.8×123.8	[後期]
18	ベン・シャーン	1898-1969	これがナチの残虐だ	1942	紙・オフセット	96.2×71.7	[前期]
19	ベン・シャーン	1898-1969	選挙人登録	1944	紙・オフセット	94.0×69.7	[後期]
20	ベン・シャーン	1898-1969	労働者より農民へ	1944	紙・オフセット	95.8×71.1	[前期]
21	ベン・シャーン	1898-1969	我が友よ	1944	紙・オフセット	72.0×99.7	[前期]
22	ベン・シャーン	1898-1969	これらあらゆる権利のために我々は闘いを開始したのだ	1946	紙・リトグラフ 73.8×98.4		[後期]
23	ベン・シャーン	1898-1969	我々は平和を望んでいる	1946	紙・オフセット	105.5×68.2	[後期]
24	ベン・シャーン	1898-1969	リルケ『マルテの手記』より	1968	紙・リトグラフ	各約 57×45	[前後期12点展示]
25	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	ガニング・ロックス	1966	紙・水彩	49.0×61.0	
26	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	ドイツ人の住むところ	1973	紙・水彩	54.6×74.6	
27	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	松ぼっくり男爵	1976	ボード・テンペラ	80.0×84.5	
28	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	そよ風	1978	紙・水彩	54.6×52.0	
29	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	冬の水車小屋	1978	紙・水彩	58.4×72.4	
30	アンドリュース・ワイエス	1917-2009	農場にて	1988	紙・水彩	55.2×100.8	
<近代の美術Ⅰ・「西洋」と「日本」の間で>							
31	横山大観	1867-1958	山間旅行図	1901	紙本墨画 軸装	122.8×50.2	※ 寄託
32	下村観山	1873-1930	寒空	1923	絹本着色 軸装	44.0×94.0	
33	今村紫紅	1880-1916	漁村	1911	絹本着色 軸装	105.5×41.5	
34	今村紫紅	1880-1916	瀬田風景	1913	絹本着色 軸装	116.8×40.8	
35	小杉放庵	1881-1964	水莊訪客	大正末期	絹本着色 軸装	145.2×51.4	
36	村上華岳	1888-1939	早春風景	1919頃	絹本着色、軸	43.5×30.5	
37	小川芋銭	1868-1938	於那羅合戦	1921	紙本墨画淡彩 卷子装	29.8×632.1	
38	高橋由一	1828-1894	栗子山昔時景	1881頃	カンヴァス・油彩	36.1×60.9	
39	高橋由一	1828-1894	鐸木西美像	1881	カンヴァス・油彩	45.8×38.3	
40	吉田 博	1876-1950	小出雲村月出	1903頃	紙・水彩	33.0×50.2	
41	三宅克己	1874-1954	湯ヶ野の冬	1908	紙・水彩	49.8×32.9	
42	丸山晚霞	1867-1942	溪流（飛騨蒲田の激湍）	1912	紙・水彩	63.4×93.4	

43	山本鼎 (刻)・青木繁 (画)	山本鼎: 1882-1946 青木繁: 1882-1911	鍔斧	1905	紙・木口木版	12.1×8.3	
44	田中恭吉	1892-1915	画稿より	1915	紙・木版	14.0×8.6	
45	恩地孝四郎	1891-1955	母と子	1917	紙・木版	29.0×24.3	
46	恩地孝四郎	1891-1955	水浴	1929	紙・木版	21.5×14.8	
47	谷中安規	1897-1946	シネマ	1932	紙・木版	12.9×8.0	
48	谷中安規	1897-1946	一族の長	1933	紙・木版	14.6×21.4	
49	岸田劉生	1891-1929	地	1915	紙・水彩、インク、鉛筆	15.6×19.5	
50	岸田劉生	1891-1929	自画像	1914	カンヴァス・油彩	45.7×38.3	
51	岸田劉生	1891-1929	静物 (白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918	カンヴァス・油彩	45.5×53.0	
52	木村荘八	1893-1958	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	60.8×80.6	[前期]
53	岸田劉生	1891-1929	天地創造	1914	紙・銅版 (3点組)	12.6×12.6(各)	[後期]
<近代の美術Ⅱ・「関根正二とその時代」>							
54	安井曾太郎	1888-1955	ターブルの上	1912	カンヴァス・油彩	46.2×55.1	
55	上野山清貢	1889-1960	ムッシュOの肖像	1915	カンヴァス・油彩	65.2×53.2	
56	村山槐多	1896-1919	庭園の少女	1914	紙・水彩	61.0×46.4	
57	伊東深水	1898-1972	乳しぼる家	1916	絹本着色、観音開き衝立	125.5×130.7	※ 寄託
58	関根正二	1899-1919	死を思う日	1915	カンヴァス・油彩	75.7×56.8	※ 寄託
59	関根正二	1899-1919	大樹 (子供と木登り) / 裏面: 裸婦	1915	紙・木炭	54.6×44.6/57.3×44.1	
60	関根正二	1899-1919	菊川橋辺り	1915	板・油彩	27.3×33.4	[後期] ※ 寄託
61	関根正二	1899-1919	牛舎	1915頃	カンヴァス・油彩	36.5×48.6	
62	関根正二	1899-1919	風景	1915頃	カンヴァス・油彩	60.8×45.5	[前期] ※ 寄託
63	関根正二	1899-1919	銚子海岸	1916	紙・インク	25.2×36.0	[前期]
64	関根正二	1899-1919	女	1916	紙・インク、水彩	51.2×35.7	[前期] ※ 寄託
65	関根正二	1899-1919	菊川橋	1916	紙・インク	37.0×57.0	[後期]
66	関根正二	1899-1919	自画像	1916頃	紙・インク	27.8×19.1	[前期]
67	関根正二	1899-1919	風景	1916頃	板・油彩	33.3×23.1	
68	関根正二	1899-1919	裏の娘	1917	紙・水彩、パステル、鉛筆	29.4×21.7	[後期]
69	関根正二	1899-1919	裸婦立像 (左手を頬に当てる)	1917	紙・木炭、コンテ	62.3×47.0	[後期] ※ 寄託
70	関根正二	1899-1919	井上郁像	1917	カンヴァス・油彩	65.0×53.0	※ 寄託
71	関根正二	1899-1919	真田吉之助夫妻像	1918	カンヴァス・油彩	53.0×80.3	
72	関根正二	1899-1919	一本杉の風景	1918	カンヴァス・油彩	33.0×45.2	
73	関根正二	1899-1919	姉弟	1918	カンヴァス・油彩	80.5×60.5	
74	関根正二	1899-1919	自画像	1918	カンヴァス・油彩	55.0×46.0	
75	関根正二	1899-1919	神の祈り	1918頃	カンヴァス・油彩	68.2×40.8	
76	関根正二	1899-1919	小供	1918	カンヴァス・油彩	45.3×37.6	[後期] ※ 寄託
77	関根正二	1899-1919	少年	1918	紙・インク	38.6×30.5	[前期] ※ 寄託
78	関根正二	1899-1919	手をあわせる少年	1918	紙・インク	38.5×30.1	[前期] ※ 寄託
79	関根正二	1899-1919	チューリップ	1918	紙・インク	29.3×25.5	[後期]
80	関根正二	1899-1919	信仰	1918	紙・インク、パステル	15.9×11.9	[前期]
81	関根正二	1899-1919	祈り	1919	紙・鉛筆	18.0×12.7	[前期]
82	関根正二	1899-1919	裸婦立像	不詳	紙・コンテ	64.0×48.2	[後期] ※ 寄託
83	関根正二	1899-1919	少年座像	不詳	絹本着色	63.5×47.4	[後期] ※ 寄託
<近代の美術Ⅲ・個性の開花>							
84	酒井三良	1897-1969	雪に埋もれつつ正月はゆく	1919	絹本着色 屏風二曲一隻	171.1×172.8	[前期]
85	酒井三良	1897-1969	左義長	1920	絹本着色、軸装	166.3×83.3	[後期]
86	山口華楊	1899-1984	畑	1925	絹本着色 屏風二曲一隻	181.2×145.2	
87	小茂田青樹	1891-1933	薫房	1927	紙本着色 屏風二曲一双	135.7×135.0(各)	

88	勝田蕉琴	1879-1963	煙る小雨	1922	絹本着色	199.2×136.2
89	速水御舟	1894-1935	晩冬の桜	1928	絹本着色	57.0×93.3
90	速水御舟	1894-1935	女二題 其一	1931	絹本着色	134.0×114.0
91	速水御舟	1894-1935	女二題 其二	1931	絹本着色	134.1×114.1
92	万鉄五郎	1885-1927	庫	1918	カンヴァス・油彩	45.9×33.4
93	清水登之	1887-1945	十四番街の地下鉄駅	1918	カンヴァス・油彩	50.0×61.0
94	国吉康雄	1889-1953	婦人と子供	1920	カンヴァス・油彩	101.1×61.2
95	前田寛治	1896-1930	裸婦	1925	カンヴァス・油彩	45.5×33.3
96	古賀春江	1885-1933	赤い風景	1926	紙・水彩	38.8×56.5
97	小出梢重	1887-1931	けしの花	1926	紙・グアッシュ	38.1×30.9
98	川口軌外	1892-1966	柘榴	1932	カンヴァス・油彩	38.0×72.8
99	長谷川利行	1891-1940	浅草の女	1935	カンヴァス・油彩	45.5×37.9

＜戦後の美術Ⅰ・洋画～青年達の群像＞

100	野田英夫	1908-1939	牛乳ワゴン	1936	カンヴァス・油彩	51.5×61.1
101	松本竣介	1912-1949	風景	1935	紙・鉛筆、水彩	25.3×32.5
102	松本竣介	1912-1949	赤い建物	1936	紙・油彩	27.5×35.0
103	松本竣介	1912-1949	駅	1942	板・油彩	38.0×45.6
104	吉井 忠	1908-1999	麦の穂を持つ女	1941	カンヴァス・油彩	116.5×91.7
105	吉井 忠	1908-1999	老農夫	1964	カンヴァス・油彩	116.9×91.2
106	吉井 忠	1908-1999	百姓祭文	1969	カンヴァス・油彩	130.2×162.2
107	中谷 泰	1909-1993	炭鉱町	1963	カンヴァス・油彩	97.0×160.0
108	寺田政明	1912-1989	いきもの	1959	カンヴァス・油彩	91.5×182.4
109	寺田政明	1912-1989	ふくろうと小魚	1976	紙・リトグラフ A.P.	40.9×34.0
110	寺田政明	1912-1989	かわいいとかに	1976	紙・リトグラフ A.P.	43.3×34.2
111	寺田政明	1912-1989	冬の樹と小犬	1976	紙・リトグラフ A.P.	43.3×34.2
112	麻生三郎	1913-2000	家族	1959	カンヴァス・油彩	117.0×91.3
113	脇田 和	1908-2005	窓	1960	カンヴァス・油彩	144.3×111.6
114	糸園和三郎	1911-2001	夜	1973	カンヴァス・油彩	97.0×145.5
115	北川民次	1894-1989	二十年目の悲しみの夜	1965	カンヴァス・油彩	162.2×130.4

＜戦後の美術Ⅱ・伝統と革新＞

116	大山忠作	1922-2009	O先生	1946	紙本着色	209.8×152.4
117	大山忠作	1922-2009	爽涼	1980	紙本着色	213.5×152.8
118	酒井三良	1897-1969	水郷の一日	1939	紙本墨画淡彩 卷子装	47.2×727.2
119	猪巻清明	1894-1974	さかだち	1942	紙本着色 屏風二曲一隻	178.2×193.3
120	福田豊四郎	1904-1969	ふるさとへ帰る	1964	紙本着色 屏風四曲一隻	181.5×247.0
121	安田靫彦	1884-1978	茶室	1962	紙本着色 軸装	130.6×75.2
122	斎藤 清	1907-1997	凝視(猫)	1948	紙・木版 番外 4/4	75.4×41.6
123	斎藤 清	1907-1997	凝視(花)	1950	紙・木版 8/30	60.0×41.1
124	斎藤 清	1907-1997	シヨップガール パリ	1960	紙・木版 A.P.	51.5×37.8 [前期]
125	斎藤 清	1907-1997	祈り(尼僧)パリ	1960	紙・木版 80/80	51.5×37.8 [後期]
126	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(1)	1970	紙・木版	38.4×52.8 [前期]
127	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(19)	1970	紙・木版	38.5×52.4 [後期]
128	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(26)	1977	紙・木版	37.4×52.6 [前期]
129	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(51)	1982	紙・木版	38.0×51.9 [後期]
130	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(95)	1992	紙・木版	45.5×91.4 [前期]
131	斎藤 清	1907-1997	会津の冬(100)	1992	紙・木版	45.5×90.6 [後期]
132	斎藤 清	1907-1997	競艶	1973	紙・木版 1/80	45.3×74.5 [前期]

133	斎藤 清	1907-1997	猜疑	1973	紙・木版 1/80	45.3×74.5	[後期]
134	斎藤 清	1907-1997	慈愛	1975	紙・木版	44.3×75.2	[前期]
135	斎藤 清	1907-1997	慈愛 (D)	1977	紙・木版	44.8×75.7	[後期]
136	斎藤 清	1907-1997	秋の只見	1981	紙本着色	97.0×375.5	
137	斎藤 清	1907-1997	地の幸	1989	紙・木版	45.8×61.0	[前期]
138	斎藤 清	1907-1997	かすみ 慈愛	1991	紙・木版	44.2×60.3	[後期]

<現代の美術・新しい表現>

139	横山操	1920-1973	建設	1960	紙本着色	264.0×363.6	
140	山本丘人	1900-1986	月夜の噴煙	1962	絹本着色	161.8×174.0	
141	太田正弘	1914-1978	野の冬	1975	紙本着色	159.5×260.2	
142	福王寺法林	1920-	バドガオンの月	1982	紙本着色	181.8×363.6	
143	上野泰郎	1926-2005	人間讃美 1977	紙本着色・三面パネル	左 191.9×58.4、中 202.0×116.5、右 191.9×58.1		
144	元永定正	1922-	作品 (I)	1959 頃	板・油彩	182.0×92.0	[前期]
145	斎藤義重	1904-2001	作品 13	1961	合板・油彩	155.3×121.1×4.5	[前期]
146	山口長男	1902-1983	垣	1962	ベニヤ板・油彩	182.7×182.7	[前期]
147	田淵安一	1921-2009	コケティッシュなものたち	1966	カンヴァス・油彩	162.0×260.0	
148	前田常作	1926-2007	ロック街 (白)	1958	カンヴァス・油彩、グアッシュ、石	50.1×60.6	[後期]
149	杉全 直	1914-1994	眼 №6	1960	カンヴァス・油彩	112.3×162.2	[後期]
150	橋本 章	1919-2003	赤い盾	1961	板・塗料、砂、鎖、鉄	137.5×91.2	[後期]
151	鎌田正蔵	1913-1999	作品 (緑色)	1962	カンヴァス・油彩・パテ	103.3×136.3	[後期]
152	田口安男	1930-	季節を通り抜けて (目の影)(夢から紡ぎ)(彼方へ)	1980	パネル・卵黄テンペラ	左右 182.0×146.0、中央 182.0×175.0	
153	鈴木治	1926-2000	数の土面	1963	陶器	H 44.5× W 42.5× D 13.5	
154	山田光	1924-2001	作品	1966	陶器	H 36.0× W 44.5× D 6.0	
155	工藤哲巳	1935-1990	危機の中の芸術家の肖像	1976	ミクストメディア	H25.0×W31.0×D18.5	
156	建畠覚造	1919-2006	WAVING FIGURE 47(大)	1987	合板・ウレタン塗装	H246.0×W402.0×D116.0	
157	若松光一郎	1914-1995	オートノミー 1	1979	カンヴァス・和紙・墨・他	206.9×177.5	
158	若松光一郎	1914-1995	オートノミー 3	1980	カンヴァス・和紙・墨・他	207.0×177.0	
159	百瀬 寿	1944-	NE.Blue.Blue.Blue and Blue	1993	綿布、ネパール紙・岩絵具	241.7×241.7	

<ホール・屋外等>

160	マリノ・マリーニ	1901-1980	騎手	1956-57	ブロンズ	H246.0×W170.2×D127.0	
161	ジャコモ・マンズー	1908-1991	車に乗った子供	1982	ブロンズ	H38.8×W44.0×D53.7	
162	ヘンリー・ムーア	1898-1986	母と子：腕	1980	ブロンズ	H64.0×W79.7×D46.8	
163	エミリオ・グレコ	1913-1995	スケートをする女	1951	ブロンズ	H140.0×W62.0×D36.0	
164	佐藤忠良	1912-	若い女・シャツ	1982	ブロンズ	H185.0×W78.9×D72.0	
165	井上武吉	1930-1998	my sky hole 89-2	1989	ステンレス	H46.0×W220.0×D220.0	
166	フェルナン・レジェ	1881-1955	歩く花	1952-53	原型作成 ブロンズ・エナメル塗装	H 600×W500×D225 ※ 寄託	

アートの遠近 第2部<近> 展示リスト (前期)

A-1 <絵を読む>

1	勝田蕉琴	1879-1963	出城釈迦	1907	絹本着色 軸	98.4×66.8	
2	坂内青嵐	1881-1936	先覚照影	1925	紙本着色 軸	200.0×132.7	
3	坂内青嵐	1881-1936	山鹿素行と良雄	1936	絹本着色	53.6×71.2	
4	角田磐谷	1889-1970	漢織呉織之図	1916	絹本着色 六曲一双屏風	152.1×344.8(各)	
5	岩崎巴人	1917-	掌の上の砂	1982	紙本着色	109.0×84.0	
6	常盤大空	1913-1983	華厳	1967	紙本着色	214.1×166.1	
7	荻生天泉	1882-1946	霊夢	1941	絹本着色	195.4×143.9	
8	橋本関雪	1883-1945	倪雲林	1917	絹本着色	262.0×175.0	

A-2 <新発見と再評価>

「小関庄太郎と日本の芸術写真」

9	小関庄太郎	1907-2003	傘をもつ自画像	1954	ゼラチン・シルバープリント	34.9×28.1	
10	資料		二葉会合写真	1925-33頃	ゼラチン・シルバープリント		
11	小関庄太郎	1907-2003	麓の家	1925	ゼラチン・シルバープリント	11.1×12.8	
12	小関庄太郎	1907-2003	村の入口	1925	ゼラチン・シルバープリント	18.1×30.0	※ 寄託
13	小関庄太郎	1907-2003	田舎の風景	1926	ゼラチン・シルバープリント	23.2×24.9	
14	小関庄太郎	1907-2003	二人像	1932	ゼラチン・シルバープリント	24.7×20.6	
15	小関庄太郎	1907-2003	手をふる少女	1933-36頃	ゼラチン・シルバープリント	22.1×17.7	
16	小関庄太郎	1907-2003	駅付近近景	1936	ゼラチン・シルバープリント	18.9×24.1	
17	小関庄太郎	1907-2003	河岸小景	1936	ゼラチン・シルバープリント	19.2×22.4	
18	小関庄太郎	1907-2003	海辺の午後	1937	ゼラチン・シルバープリント	20.5×21.8	
19	小関庄太郎	1907-2003	夕照	1938	ゼラチン・シルバープリント	22.4×19.4	
20	小関庄太郎	1907-2003	遠い汽車	1941	ゼラチン・シルバープリント	29.8×25.0	
21	椿本金三郎	1897-1982	着車情景	1928	ゼラチン・シルバープリント	27.6×23.0	
22	萩原露愁	1895-1973	晩秋の夕	1931	ゼラチン・シルバープリント	22.8×29.2	
23	佐藤 信	1897-1987	暮れ近き海	1933	ゼラチン・シルバープリント	23.7×29.9	
24	本田仙花	1897-1951	静物	1924	ゼラチン・シルバープリント	12.1×14.3	

「菊地養之助」

25	菊地養之助	1908-2003	自画像	1950	紙本着色	86.1×75.8	
26	菊地養之助	1908-2003	子守の少女	1948	紙本着色	85.0×75.0	
27	菊地養之助	1908-2003	階段の人	1951	紙本着色	97.8×76.6	
28	菊地養之助	1908-2003	煙突の下の子供達	1956	紙本着色	112.0×162.1	
29	菊地養之助	1908-2003	戯画 B	1962	紙本着色	112.0×145.0	

「野地正記」

30	野地 正記	1914-1997	自画像	1936-43	ボード・油彩	31.2×22.6	
31	野地 正記	1914-1997	男の像	1936-43	カンヴァス・油彩	60.0×50.6	
32	野地 正記	1914-1997	スダマティ(死んでしまった)	1948	紙・水彩	265.0×563.5	
33	野地 正記	1914-1997	みどり・天使	1963-65	紙・水彩、インク	54.5×38.6	
34	野地 正記	1914-1997	ひと	1994-96	紙・クレパス	54.0×47.0	
35	野地 正記	1914-1997	無題(赤)	1960年代	紙・水彩	19.7×13.7	
36	野地 正記	1914-1997	女の背	1965-77	紙・水彩	19.8×13.5	
37	野地 正記	1914-1997	核	1964-67	紙・水彩	18.8×13.3	
38	野地 正記	1914-1997	無題(紅)	1963	紙・水彩	17.7×12.4	
39	野地 正記	1914-1997	無題(茶)	1966-67	紙・水彩	18.9×13.5	
40	野地 正記	1914-1997	被爆	1965-77	紙・水彩	19.2×13.7	
41	野地 正記	1914-1997	無題	1964-66	紙・水彩、インク	19.9×13.8	
42	野地 正記	1914-1997	無題(みどり)	1963-66	紙・水彩	19.0×13.4	
43	野地 正記	1914-1997	無題(魚のいる)	1963	紙・水彩	13.5×19.3	
44	野地 正記	1914-1997	無題(目のある)	1963-66	紙・インク、水彩	13.5×19.0	
45	野地 正記	1914-1997	無題(はな)	1964	紙・水彩	13.4×18.9	
46	野地 正記	1914-1997	雨	1970	紙・水彩	13.3×18.9	
47	野地 正記	1914-1997	葉の記憶	1967	紙・水彩	18.0×13.0	
48	資料		野地正記関係資料				

B- 1 <現代日本画の挑戦>

49	上野泰郎	1926-2005	きのう・きょう・あす	1988	紙・岩絵具など	173.0×334.0	
50	上野泰郎	1926-2005	つきぬいのち	1991	紙・岩絵具など	176.0×130.0	

51	斎藤 隆	1943-	ドラマ	1986	紙・コンテ	202.9×405.5
52	佐藤多持	1919-2004	水芭蕉曼陀羅(黄 12)	1968	紙・墨、岩絵具など	163.0×546.0
53	星野真吾	1923-1997	麻紙による心象(集)	1960	紙・岩絵具など	91.0×123.0
54	津田一江	1950-	一江と白の花(其一)	1996	紙本着色	227×182
55	津田一江	1950-	朝音	2008	紙本着色	227×182

B-2 <街に生きる・街にみる夢>

56	瀬戸正人	1953-	silent mode (13点)	1996	ゼラチン・シルバープリント	各 59.0×49.0
57	林 範親	1948-	路地裏	1994	ナラ、ヒバ、古材・アクリル絵具	H197.5×W200.5×D111.5
58	保田春彦	1930-	季節の残像 1~9	2005-06	木、竹・アクリル絵具	
59	橋本 章	1919-2003	国鉄新幹線	1980	カンヴァス・油彩	130.7×649.7
60	高橋克之	1967-	石の世界(道の中を見る)	2003	パネル・油性ペンキ、アクリル絵具等	233.1×363.6
61	玉川信一	1954-	月の花	2002	カンヴァス・油彩、銀箔、コラージュ(麻布、板、鉛板他)	204.9×259.1

C・D <木版画の幻想、銅版画の幻想>

「木版画の幻想」

62	恩地孝四郎、藤森静雄ほか		「月映」Ⅳ	1915	紙・木版 14点組	
63	谷中安規	1897-1946	「方寸版画」創刊号 幻想集	1933	紙・木版、手彩色 10点組	
64	谷中安規	1897-1946	少年時代	1933	紙・木版、手彩色	11.7×15.5
65	谷中安規	1897-1946	泥と雪	1933	紙・木版	11.3×19.7
66	谷中安規	1897-1946	室内	1933頃	紙・木版	7.2×5.0
67	谷中安規	1897-1946	詩巻(心の花Ⅰ)	1934	紙・木版	10.1×11.7
68	谷中安規	1897-1946	行進	1936	紙・木版	15.0×25.0
69	清宮質文	1917-1991	ある空間(蝶)	1962	紙・木版 A.P.	22.2×25.1
70	清宮質文	1917-1991	火屋の中	1966	紙・木版 E.A.	20.8×17.8
71	清宮質文	1917-1991	九月の海辺	1970	紙・木版	13.5×23.4
80	清宮質文	1917-1991	歳月	1970	紙・木版	18.4×25.9
72	清宮質文	1917-1991	窓のカンテラ	1972	紙・木版	24.5×15.3
73	清宮質文	1917-1991	入日	1972	紙・木版	16.1×25.8
74	清宮質文	1917-1991	夕日の静物	1972	紙・木版	14.0×22.4
75	清宮質文	1917-1991	虜囚の窓	1972	紙・木版	24.8×20.1
76	清宮質文	1917-1991	葬送の花火	1973	紙・木版 7/10	17.1×26.2
77	清宮質文	1917-1991	深夜の蝋燭	1974	紙・木版	17.8×15.2
78	清宮質文	1917-1991	早春の静物	1977	紙・木版	25.9×22.0
79	日和崎尊夫	1941-1992	詩画集「卵」	1970	紙・木口木版 10点組	42.0×68.5
80	日和崎尊夫	1941-1992	KALPA X	1969	紙・木口木版	24.4×22.2
81	日和崎尊夫	1941-1992	KALPA 夜	1972	紙・木口木版	33.0×27.5
82	日和崎尊夫	1941-1992	メルヘン	1982	紙・木口木版 E.P.	7.2×13.7
83	日和崎尊夫	1941-1992	海花	1983	紙・木口木版 E.P.	11.2×12.7
84	柄澤 齋	1950-	迷宮の潭	1980-81	紙・木口木版 10点組 4/70	
85	柄澤 齋	1950-	肖像画Ⅳ アルチュール・ランボー	1982	紙・木口木版 51/70	19.4×14.6
86	柄澤 齋	1950-	肖像画Ⅵ マルセル・ブルースト	1983	紙・木口木版 28/70	10.1×15.2
87	柄澤 齋	1950-	肖像画Ⅶ シャルル・ボードレー	1983	紙・木口木版 60/70	17.7×10.0
88	柄澤 齋	1950-	肖像画Ⅷ エドガー・アラン・ポー	1983	紙・木口木版 51/70	22.3×6.2
89	柄澤 齋	1950-	肖像画ⅩⅥ マティアス・グリューネバルト	1983	紙・木口木版 47/70	9.9×17.0
90	柄澤 齋	1950-	肖像画ⅩⅩⅦ オディロン・ルドン	1985	紙・木口木版 58/70	21.5×15.6
91	柄澤 齋	1950-	肖像画ⅩⅩⅨ 亜欧堂田善	1985	紙・木口木版 12/70	16.3×11.0
92	柄澤 齋	1950-	肖像画ⅩⅩⅩ ミケランジェロ・ブオナローティ	1985	紙・木口木版 63/70	21.8×15.7
93	柄澤 齋	1950-	肖像画ⅩⅩⅩⅤ 泉鏡花	1985	紙・木口木版 31/70	9.5×15.0

94	柄澤 齋	1950-	肖像画 XXX VI ジュゼッペ・アルチンボルト	1985	紙・木口木版	11/70	10.0×7.1
「銅版画の幻想」							
95	岸田劉生	1891-1929	天地創造	1914	紙・銅版	3点組	各 12.6×12.6
96	長谷川潔	1891-1980	アレキサンドルⅢ世橋とフランス飛行船	1930	紙・メゾチント	A.P.	17.4×30.8
97	長谷川潔	1891-1980	コップのダリア	1935	紙・メゾチント	A.P.	24.2×19.2
98	長谷川潔	1891-1980	サン＝ポール＝ド＝ヴァンスの風景	1936	紙・メゾチント	A.P.	22.0×28.8
99	長谷川潔	1891-1980	玻璃球のある静物	1959	紙・メゾチント	10/60	35.8×25.9
100	長谷川潔	1891-1980	セードルの実のある静物画	1960	紙・メゾチント	19/60	26.4×36.2
101	長谷川潔	1891-1980	狐と葡萄（ラ・フォンテーヌ寓話）	1963	紙・メゾチント	10/80	36.0×26.8
102	長谷川潔	1891-1980	メキシコの鳩	1966	紙・メゾチント	3/80	26.7×35.7
103	長谷川潔	1891-1980	メキシコの種子草 静物画	1967	紙・メゾチント	7/80	35.9×26.8
104	駒井哲郎	1920-1976	思い出	1948	紙・メゾチント	A.P.	22.5×19.3
105	駒井哲郎	1920-1976	束の間の幻影	1950	紙・アクアチント	A.P.	18.0×29.1
106	駒井哲郎	1920-1976	海底の祭	1951	紙・メゾチント、ソフトグランドエッチング	14/30	23.9×17.2
107	駒井哲郎	1920-1976	墓（マルドロオルの歌）	1956	紙・エッチング	10/25	17.6×14.4
108	駒井哲郎	1920-1976	調理場	1958	紙・アクアチント、エッチング	24.0×33.0	
109	駒井哲郎	1920-1976	鳥と果実	1959	紙・アクアチント、エッチング	A.P. 15.1×17.4	
110	駒井哲郎	1920-1976	調理場	1960	紙・アクアチント	A.P.	13.0×18.5
111	浜口陽三	1909-2000	西瓜	1954	紙・メゾチント	19/50	29.9×39.7
112	浜口陽三	1909-2000	白菜	1960	紙・メゾチント	試作	29.5×44.1
113	浜口陽三	1909-2000	14のさくらんぼ	1963	紙・メゾチント	H.C.	52.3×24.3
114	浜田知明	1917-	風景	1953	紙・エッチング	E.A.	36.3×29.8
115	浜田知明	1917-	初年兵哀歌（歩哨）	1954	紙・エッチング、メゾチント	37/100	23.2×15.7
116	浜田知明	1917-	副校長 D 氏像	1956	紙・エッチング	E.A.	20.7×13.8
117	秀島由己男	1934-	わらべ唄	1972	紙・エッチング、メゾチント	6点組 21/60	約 36×30
118	秀島由己男	1934-	ベトナム	1974	紙・エッチング	5/11	21.8×15.7
119	秀島由己男	1934-	霊歌 A	1989	紙・エッチング、アクアチント	9/60	29.2×36.4
120	秀島由己男	1934-	鳥（影の飛来）	1991	紙・フォトグラヴィール、エッチング	2/50	11.7×21.2
121	秀島由己男	1934-	鳥（聖堂の鳥影）	1991	紙・エッチング	8/41	33.0×10.4

「アートの遠近 第2部<近>」 展示リスト」 (後期)

A <日本の工芸～多様な技法と背景>

122	田代法橋	1917-1979	宋牡丹紋意華器	1969	陶器	H23.9×W23.4
123	田代法橋	1917-1979	相馬駒焼花瓶	1975	陶器	H36.7×W36.4
124	田代秀人（田代清治右衛門）	1947-	結晶釉華器	1974	陶器	H34.4×W37.8
125	宗像豊意	1912-1970	飴釉白流壺	1960	陶器	H31.6×W30.0
126	宗像亮一	1933-	黒飴釉白流太平鉢	1973	陶器	H13.9×W56.3
127	宗像亮一	1933-	灰釉壺	1973	陶器	H21.9×W37.6
128	瀧田項一	1927-	白磁鎗手瓶子	1971	磁器	H26.1×W19.0
129	瀧田項一	1927-	赤絵鷺文大角皿	1977	磁器	H3.2×W29.5
130	瀧田項一	1927-	染付花文角瓶	1977	磁器	H24.2×W11.2
131	瀧田項一	1927-	白磁大壺	1977	磁器	H36.1×W34.1
132	加守田章二	1933-1983	灰釉壺	1964	陶器	H26.3× w 26.0
133	加守田章二	1933-1983	灰釉大皿	1966 頃	陶器	H6.3×W45.0
134	加守田章二	1933-1983	炆器皿	1960 年代	炆器	H2.8×W25.5
135	加守田章二	1933-1983	灰釉花瓶	1960 年代	陶器	H27.3×W11.2

136	清水卯一	1926-2004	柿釉大壺	1963	陶器	H38.0×W35.0
137	清水卯一	1926-2004	青瓷大鉢	1973	陶器	H16.0×W40.5
138	山田 光	1924-2001	白の間隙	1971	陶器	H45.0×W37.0×D12.0
139	山田 光	1924-2001	黒陶 陶面の中のパイプ	1981	陶器、磁器	H61.0×W25.0×D9.0
140	山田 光	1924-2001	黒陶と金彩の窓	1981	陶器	H81.0×W40.0×D7.5
141	山田 光	1924-2001	黒陶 数字と窓	1984	陶器	H19.0×W85.0×D9.0
142	山田 光	1924-2001	銀泥 楕円のパイプ	1995	陶器	H61.2×W42.2×D5.6
143	鈴木 治	1926-2001	泥象	1965	陶器	H46.5×W42.8×D14.3
144	鈴木 治	1926-2001	馬形	1982	陶器	H87.0×W35.5×D15.8
145	鈴木 治	1926-2001	掌上泥象三十八景	1987 原型・2000 焼成	陶器 (38 点組)	各 H 約 12 cm 以内
146	小宮康孝	1925-	江戸小紋 小襦紗 (資料各種)	不詳	絹・型染	各 15.5×15.5
147	小宮康正	1956-	長板中形ゆかた 四季の丸紋	1990	木綿、合成藍・型絵染	159.0×130.0
148	伊砂利彦	1924-	瀬	1978	和紙・型絵染屏風二曲一隻	168.0×183.2
149	伊砂利彦	1924-	長唄娘道成寺より 序・恋・怨	1988	和紙・型絵染 屏風四曲三隻	各 178.5×338.0
150	伊砂利彦・志村ふくみ (志村：1924-)		水の戯れ	2008	絹紬、草木染・手織／和紙・型絵染 六曲屏風一隻	145.3×219.0
151	柚木沙弥郎	1922-	窓	1981	絹・型絵染	236.0×152.0
152	柚木沙弥郎	1922-	人型	1993	木綿・型絵染	273.0×121.6
153	照井久良人	1934-2004	月に萩	1975	漆、木、貝・蒔絵	H4.1×W27.2×D30.4
154	山内清司	1921-2008	木賊蒔絵棗	1971	漆、木、貝・蒔絵	H7.0× W 6.6
155	坂本朝夫	1950-	ハプニング	1989	段ボール紙・漆 (5 点組)	各 H6.5×W42.7

B-1 <抽象絵画の創造力>

「色・いろいろ」

156	百瀬 寿	1944-	S-Pink by Silver and Gold	1985	紙・シルクスクリーン	90.1×90.1
157	百瀬 寿	1944-	S-Silver and Gold by Silver and Gold	1986	紙・シルクスクリーン	90.2×90.2
158	村井正誠	1905-1999	風の人	1968	カンヴァス・油彩	162.3×130.5

「〇△□のかたち」

159	オノサト・トシノブ	1912-1986	作品	1974	カンヴァス・油彩	75.5×90.5
160	オノサト・トシノブ	1912-1986	シルク№ 10	1967	紙・シルクスクリーン	49.8×50.0
161	オノサト・トシノブ	1912-1986	シルク№ 18	1968	紙・シルクスクリーン	39.8×39.9

「『描く』ということ」

162	堂本尚郎	1928-	コンポジション	1954-59	カンヴァス・油彩	150.0×150.0
163	元永定正	1922-	作品 (I)	1959 頃	板・油彩	182.0×92.0
164	斎藤義重	1904-2001	作品 13	1961	合板・油彩	155.3×121.1×4.5
165	李 禹煥	1936-	遺跡地にて	1984	紙・リトグラフ	各 67.1×82.0 (5 点組のうち 2 点)

「主題と方法」

166	山口長男	1902-1983	垣	1962	合板・油彩	182.7×182.7
167	山田正亮	1930-	WORK-321	1979	カンヴァス・油彩	194.0×130.0
168	山田正亮	1930-	WORK-325	1979	カンヴァス・油彩	194.0×130.0

B-2 <写真のイメージと美術>

169	野田哲也	1940-	日記 1973 年 10 月 25 日	1973	紙・木版、シルクスクリーン	50.6×71.2
170	野田哲也	1940-	日記 1974 年 9 月 1 日	1974	紙・リトグラフ	47.0×64.0
171	野田哲也	1940-	日記 1976 年 8 月 19 日	1976	紙・木版、シルクスクリーン	70.9×47.1
172	野田哲也	1940-	日記 1977 年 3 月 3 日 (b)	1977	紙・木版、シルクスクリーン	44.8×64.5
173	野田哲也	1940-	日記 1980 年 4 月 27 日、厚木	1980	紙・木版、シルクスクリーン	44.5×64.9
174	野田哲也	1940-	日記 1987 年 5 月 30 日、柏市亀甲台 2-12-4	1987	紙・木版、シルクスクリーン	59.7×118.9
175	野田哲也	1940-	日記 1994 年 3 月 10 日	1994	紙・木版、シルクスクリーン	63.8×113.2
176	木村光祐	1936-	アウト・オブ・タイム 24	1970	紙・アクリル・リトグラフ・セリグラフ	74.2×54.2

177	木村光祐	1936-	アウト・オブ・タイム 25	1970	紙・アクリル・リトグラフ・セリグラフ	75.4×54.2
178	木村光祐	1936-	アウト・オブ・タイム 26	1970	紙・アクリル・リトグラフ・セリグラフ	75.0×53.1
179	吉原英雄	1931-	シーソー I	1968	紙・エッチング・リトグラフ	100.2×100.2
180	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 空其地	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.5
181	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 空其天	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.5
182	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 風其天人地	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.3×57.7
183	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 火其地	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.5
184	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 火其天	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.4
185	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 水其天	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.5
186	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 土其地	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.2×57.7
187	横尾忠則	1936-	「聖シャンバラ」 土其天	1974	紙・シルクスクリーン、オフセット	86.1×57.5
188	大宮政郎	1930-	ミリオンカラットの友人たちⅢ	1987	綿・エッチング	83.1×26.3
189	大宮政郎	1930-	ミリオンカラットの友人たちⅣ	1987	綿・エッチング	72.0×24.0
190	亀井至一	1843-1905	第四代田中太右衛門邦懿像	不詳	カンヴァス・油彩	51.2×39.0 ※ 寄託
191	三浦哲生	1929-	仮晶 I	1973	カンヴァス・油彩	161.8×130.8
192	星野眞吾	1923-1997	暗色の記憶	1979	紙・岩絵具など	90.9×116.8

C・D <ツリー・ツリー・ツリー／森で会いましょう>

「木を描くー心の風景」

193	木村莊八	1893-1958	樹の下に遊んでいる子供	1915	カンヴァス・油彩	60.8×80.6
194	関根正二	1899-1919	風景	1915 頃	カンヴァス・油彩	60.8×45.5 ※ 寄託
195	村山槐多	1896-1919	樹木 (けやき)	1917 頃	紙・木炭	62.6×46.8
196	深沢索一	1896-1946	風景	1925 頃	紙・木版	15.0×12.3
197	平川清蔵	1897-1964	須賀川付近	1927	紙・木版	13.7×19.8
198	氏家健吉	生没年不詳	湖畔風景	1924	ゼラチン・シルバープリント	11.2×15.5
199	小関庄太郎	1907-2003	田園小景	1926	ゼラチン・シルバープリント	14.9×18.1
200	横山 操	1920-1973	闇迫る	1958	麻布着色	181.0×455.0
201	太田正弘	1914-1978	野の冬	1975	紙本着色	159.0×260.2
202	田淵安一	1921-2009	豊饒の樹 未完の季節No.1	1978	カンヴァス・油彩	195.1×195.1
203	田淵安一	1921-2009	花林朱径	1985	カンヴァス・油彩 2点組	194.8×259.7
204	玉川信一	1954-	月の花	2002	カンヴァス・油彩	204.9×259.1

「木で作るー素材の力」

205	保田春彦	1930-	季節の残像 2	2005	木・アクリル塗装	H98×W37×D36
206	保田春彦	1930-	季節の残像 3	2005	木・アクリル塗装 ※ 寄託	H18.5×W111.5×D31.5
207	保田春彦	1930-	季節の残像 5	2006	木・アクリル塗装	H58.5×W39.0×D22.5
208	保田春彦	1930-	季節の残像 6	2006	木・アクリル塗装	H25.5×W70.5×D62.5
209	佐藤朝山	1888-1963	冬眠	1928	木	10.5×22.3×25.0※ 寄託
210	佐藤朝山	1888-1963	小鳩	1928	木	6.2×12.2×6.3 ※ 寄託

3. 開館 25 周年記念 文化の力ー福島と近代美術

会 期：2009 年 10 月 10 日(土)～ 11 月 23 日(月)(祝)

会 場：企画展示室 A-1・2・3、B

休館日：10/13(火)、19(月)、26(月)、11/4(火)、9(月)、16(月)

観覧料：一般・大学生 800(640) 円／高校生 500(400) 円／

小・中学生 300(240) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

ふくしま教育週間 (11/1-7) の間は、高校生以下無料

観覧者数：3,939 名

担 当：増渕鏡子・堀宜雄・佐藤香里

主 催：福島県立美術館

【概要】

大正時代、「喜多方美術倶楽部」というユニークな後援会が生まれた。地元の有力者が画家たちに画室を提供し、画会を開いて制作資金を援助した。小川芋銭、森田恒友、小川千甕、近藤浩一路、酒井三良など、新傾向の日本画を模索していた画家たちが集まり、雪深い会津の風景を描いた。

漂泊の画家といわれる竹久夢二が、もっとも多く足を運んだのも福島であり、会津地方、福島市、旧船引町と県内各地に足跡が残る。その他にも、本宮の豪農が蛇の鼻の果樹園に別荘をつくり、石井柏亭や勝田蕉琴などを滞在させたり、中村彝、結城素明の援助者が白河の実業家であったりと、福島は多くの芸術を育んできた。

本展では明治から昭和戦前までの、福島県ゆかりの美術家を取り上げた。当時の活動がうかがい知れる作品・資料多数を展示することによって、パトロン・自然・伝統という、土地が美術を支えもつ力を検証した。東京中心に語られることの多かった近代美術における地方の役割について再評価する展覧会であった。

【総括】

開館 25 周年を機に、明治以降県内各地域でくりひろげられた美術の受容と後援振興に焦点をあてた、地元を舞台にした展覧会である。開館当初の学芸員の調査研究に加え、その後開催された当館自主企画や県内各地の美術館の活動による成果が、集約されたものといえるだろう。やや欲張って、さまざまな地域の作家とパトロンとの交流、そして自然のもつ芸術喚起力というものまで展覧会として示したかった結果、一般には鮮明なイメージを持ちにくい印象となり、集客が思うように伸びなかったのは遺憾である。来場者の感想では、展示数が多すぎて消化不良というものと、充実して見応えがあったという好意的なものに分かれた。数多くの協力者を得て行った喜多方、白河、本宮などの調査を通じて、新事実や新資料の発見ができたことは、福島県の近代美術史にまた新たな頁を加えることになり、その意義は大きいと思われる。あらためて県土の広さと各方部のもつ特色、文化的土壌の違いを再認識したとともに、展覧会でとりあげきれなかった活動についても、今後追跡調査を行う必要を痛感した。



B2 ポスター (デザイン：梯耕治)



カタログ表紙 (デザイン：梯耕治)

□印刷物

- ・ポスター（B2）、チラシ（A4）、観覧券、案内はがき
- ・図録（29.8×21.0cmA4判 184頁）
 - カラー図版：作品 180 点、資料 80 点 モノクロ図版：資料 93 点
 - 本文：「文化の力ー福島と近代美術」酒井哲朗（当館館長）
 - 「近代美術にとっての地方ー喜多方美術倶楽部と会津を例に」増渕鏡子（当館学芸員）
 - 扉小論 I、IV、V、VI 増渕鏡子
 - II、III 堀宜雄（当館学芸員）
 - 資料図版・解説／作品詞書、賛読み下し／主要作家、関係者略歴／関連年表／主要参考文献／出品リスト

□関連事業

- ・ゲストによるギャラリートーク
 - ①「喜多方美術倶楽部と大正浪漫」
 - 講師：後藤學氏（喜多方市美術館学芸員）
 - 日時：10月24日(土) 14:00-
 - 会場：企画展示室
 - ②「福島に残る竹久夢二の足跡」
 - 講師：鈴木誠一氏（郡山市立美術館学芸員）
 - 日時：11月7日(土) 14:00-
 - 会場：企画展示室
- ・ギャラリートーク
 - ① 10月17日 14:00- 講師：増渕鏡子
 - ② 11月14日 14:00- 講師：堀宜雄

□関連記事

- ・「文化の力 福島と近代美術」増渕鏡子『河北新報』 2009年10月22日
- ・「文化の力 福島と近代美術」増渕鏡子『福島民友』 2009年11月4日
- ・「地域がはぐくむ美 県立美術館25周年から 上 雄藩の土壌 作家支える」堀宜雄『福島民報』 2009年11月8日
- ・「地域がはぐくむ美 県立美術館25周年から 下 夢二を助けた友人たち」増渕鏡子『福島民報』 2009年11月15日
- ・「地方が与えた文化的活力 美術 『文化の力ー福島と近代美術』展」高野清見『読売新聞』 2009年11月16日
- ・「夢二が描いた会津・福島 初公開作品も 県立美術館・23日まで展示」田玉恵美『朝日新聞』（福島県版） 2009年11月20日



ホール展示



ゲストによるギャラリートーク（10/24, 11/7）



ギャラリートーク（10/17, 11/14）

出品リスト

番号	作家名	作品名	制作年		寸法 (cm)	材質・技法	形状	所蔵
I 章 中村彝と白河南湖に集った芸術家たち								
I-01	中村彝	自画像	1910	明治 43	80.5×61.0	カンヴァス・油彩	額	ブリヂストン美術館
I-02	中村彝	少女	1913	大正 2	53.0×45.5	カンヴァス・油彩	額	横須賀美術館
I-03	中村彝	少女裸像	1914	大正 3	80.2×60.6	カンヴァス・油彩	額装	愛知県美術館
I-04	中村彝	小女	1914	大正 3	69.5×65.5	カンヴァス・油彩	額	株式会社中村屋
I-05	中村彝	大島風景	1914-5	大正 3-4	32.3×23.3	カンヴァス・油彩		
I-06	中村彝	雉子の静物	1919	大正 8	57.5×49.5	カンヴァス・油彩	額	茨城県近代美術館
I-07	中村彝	花	1923	大正 12	58.8×47.7	カンヴァス・油彩	額	茨城県近代美術館
I-08	中村彝	朝顔	1923	大正 12	57.5×40.5	カンヴァス・油彩	額	郡山市立美術館
I-09	中村彝	髑髏のある静物	1923	大正 12	35.0×25.0	カンヴァス・油彩	額	三重県立美術館
I-10	中村彝	自画像	c.1922	大正 11 頃	29.0×24.4	紙・木炭	額	三重県立美術館
I-11	中村彝	中原悌二郎像	大正期		29.2×21.2	紙・木炭	額	三重県立美術館
I-12	中原悌二郎	老人の頭像	1910	明治 43	56.5×35.0×34.5	ブロンズ	頭像	県立白河高等学校
I-13	中原悌二郎	若きカフカス人	1919	大正 8	42.5×20.2×23.5	ブロンズ	台座あり	三重県立美術館
I-14	中原悌二郎	憩える女	1919	大正 8	31.0×14.0×37.0	ブロンズ		愛知県美術館
I-15	長谷部英一	自画像	1915	大正 4	73.0×61.0	カンヴァス・油彩	額	笠間日動美術館
I-16	長谷部英一	樹	大正期		32.3×23.6	板・油彩	額	
I-17	長谷部英一	九番町稲荷山風景	1923-7	大正 12-昭和 2	23.3×32.5	板・油彩	額	
I-18	長谷部英一	鉢に林檎	1916	大正 5	37.9×45.4	カンヴァス・油彩	額	白河市歴史民俗資料館
I-19	長谷部英一	髑髏のある静物	1924	大正 13	72.2×53.7	カンヴァス・油彩	額	関川寺
I-20	長谷部英一	雪景	1925	大正 14	45.7×53.2	カンヴァス・油彩	額	
I-21	広瀬嘉吉	須賀川風景	大正期		60.5×72.9	カンヴァス・油彩	額	
I-22	広瀬嘉吉	静物 (果物)	大正末		33.3×45.5	カンヴァス・油彩	額	
I-23	広瀬嘉吉	静物 (花)	1927 頃	不詳	39.3×30.4	カンヴァス・油彩	額	
I-24	関根正二	真田吉之助夫妻像	1918	大正 7	54.6×82.0	カンヴァス・油彩	額	福島県立美術館
I-25	関根正二	自画像	1918	大正 7	53.0×41.0	カンヴァス・油彩	額	福島県立美術館
I-26	関根正二	姉弟	1918	大正 7	80.5×60.5	カンヴァス・油彩	額	福島県立美術館
I-27	渡辺光徳	すか川 なべし橋	1925	大正 14	15.0×20.3	紙・エッチング	額	福島県立美術館
I-28	渡辺光徳	すか川 町はづれ	1925	大正 14	15.0×20.3	紙・エッチング	額	福島県立美術館
I-29	渡辺光徳	すか川 御隠居岳	不詳		15.0×20.0	紙・エッチング	額	福島県立美術館
I-30	石井鶴三	南湖	1935	昭和 10	45.4×52.8	カンヴァス・油彩		
II 章 結城素明を支えた白河								
II-01	結城素明	雀恩を報ゆる図	明治期		112.8×41.0	絹本着色	軸	藤田記念博物館
II-02	結城素明	秋草之図	大正期		125.0×41.8	絹本着色	軸	藤田記念博物館
II-03	結城素明	清水	大正期		128.5×42.0	絹本着色	軸	藤田記念博物館
II-04	結城素明	層巒積翠	大正期		142.6×56.0	絹本着色	軸	藤田記念博物館
II-05	結城素明	翠微	大正期		162.3×54.4	絹本着色	軸	藤田記念博物館
II-06	結城素明	溪山清遠	1919	大正 8	129.9×27.4	絹本墨画淡彩	軸	藤田記念博物館
II-07	結城素明	楽園	大正後期		166.5×326.0	紙本着色	六曲一隻	藤田記念博物館
II-08	結城素明	〔山水図〕	昭和戦前		左 170.2×346.6	紙本墨画	六曲一双	藤田記念博物館
II-09	結城素明	〔教会〕	1925	大正 14	32.9×41.6	絹本着色	額装	藤田記念博物館
II-10	結城素明	パッシイ橋	1925	大正 14	46.1×61.0	カンヴァス・油彩	額	藤田記念博物館
II-11	結城素明	三仙図	1925	大正 14	31.0×266.5	紙本淡彩	卷子	藤田記念博物館
II-12	結城素明	寒山凍雲	1927	昭和 2	101.0×113.0	絹本着色	軸	宮城県美術館
II-13	結城素明	朝靄漁舟・暁雲洗馬	1928 頃	昭和 3 頃	101.1×113.2	紙本着色	双幅	藤田記念博物館
II-14	結城素明	炭窯	1934	昭和 9	147.7×101.2	紙本着色	額	日本藝術院
II-15	結城素明	〔風景〕	昭和戦前		35.2×95.2	絹本着色	扁額	藤田記念博物館

番号	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	形状	所蔵
II-16	結城素明	米歟	1947	昭和 22	21.3×355.2	紙本淡彩	卷子 藤田記念博物館
II-17	結城素明	蟲	1947	昭和 22	各 22.8×15.4	紙本着色	画帖 藤田記念博物館
III 章 本宮・蛇の鼻別荘と石井柏亭、勝田蕉琴							
III-01	勝田蕉琴	磯千鳥襖絵	1917	大正 6	各 162.0×106.0	板・着色	襖 4 枚 蛇の鼻遊樂園
III-02	飛田周山	老松図襖絵	1917	大正 6	各 162.0×106.0	板・着色	襖 4 枚 蛇の鼻遊樂園
III-03	勝田蕉琴	安らかなる鳥の巢	1921	大正 10	各 169.0×169.5	絹本着色	二曲一双 福島県立美術館
III-04	真野紀太郎	本宮風景	1925	大正 14	23.0×32.0	紙・水彩	額
III-05	真野紀太郎	阿武隈川	1928	昭和 3	23.0×32.0	紙・水彩	額
III-06	真野紀太郎	鶴ヶ城にて	1928	昭和 3	23.0×32.0	紙・水彩	額
III-07	真野紀太郎	東山温泉の伊藤轍君	1928	昭和 3	23.0×32.0	紙・水彩	額
III-08	真野紀太郎	陸奥の晩春	1928 頃	昭和 3	31.7×49.2	紙・水彩	額
III-09	石井柏亭	水車場	1927	昭和 2	60.9×73.1	カンヴァス・油彩	額 福島県立美術館
III-10	石井柏亭	果樹園の午後	1928	昭和 3	166.6×202.8	カンヴァス・油彩	額 福島県立美術館
III-11	石井柏亭	〔百合〕	1928	昭和 3	31.7×49.2	紙・水彩	額
III-12	高橋卯八	〔蛇の鼻風景〕	1928	昭和 3	60.8×80.5	カンヴァス・油彩	額
III-13	安井曾太郎	裏磐梯	1935 頃	昭和 10	15.0×19.3	紙・水彩	額
III-14	伊藤轍	裏磐梯	1933-5	昭和 8-10	61.0×91.2	カンヴァス・油彩	額
IV 章 喜多方美術倶楽部と芋銭、恒友、三良							
IV-01	石井柏亭	香港埠頭	1913	大正 2	113.0×42.0	絹本着色	軸
IV-02	石井柏亭	猪苗代風景	1914	大正 3	174.0×444.0	紙本淡彩、屏風	四曲一隻
IV-03	石井柏亭	一の戸川鉄橋図	1914	大正 3	23.4×32.7	カンヴァス・油彩	額
IV-04	石井柏亭	長尾柳涯像	1914	大正 3	109.3×30.4	紙本墨画淡彩	軸 小川芋銭賛
IV-05	森田恒友	城址	1916	大正 5	53.0×41.0	カンヴァス・油彩	額 埼玉県立近代美術館
IV-06	森田恒友	会津風景	1916	大正 5	65.0×80.3	カンヴァス・油彩	額 埼玉県立近代美術館
IV-07	森田恒友	郊外初夏	1917	大正 6	45.6×55.0	カンヴァス・油彩	額
IV-08	森田恒友	水辺山路	1917	大正 6	45.6×53.4	カンヴァス・油彩	額
IV-09	森田恒友	日本風景版画 - 会津之部	1917	大正 6	17.5×23.9	紙・木版 (5 点)	額 郡山市立美術館
IV-10	森田恒友	沼辺薄暮	1917-8 頃	大正 6-7 頃	142.3×46.0	紙本墨画淡彩	軸 埼玉県立近代美術館
IV-11	森田恒友	冬晴	1917-8 頃	大正 6-7 頃	139.3×66.6	紙本墨画淡彩	軸 埼玉県立近代美術館
IV-12	森田恒友	山麓	1920	大正 9 頃	60.0×69.0	紙本墨画淡彩	軸 埼玉県立近代美術館
IV-13	森田恒友	雪の會津図	大正期		126.3×41.0	絹本淡彩	軸 兵庫県立美術館寄託
IV-14	森田恒友	村はずれ図	大正期		86.2×43.5	紙本墨画淡彩	軸 兵庫県立美術館寄託
IV-15	森田恒友	枯野 (四季田園和楽のうち)	1928	昭和 3	41.2×94.0	紙本墨画淡彩	軸 ギャラリー一鉄齋堂
IV-16	小川芋銭	田植・盆踊図 (双幅)	明治末		各 108.5×35.6	絹本墨画淡彩	軸
IV-17	小川芋銭	磐梯初夏	明治末		133.2×61.0	紙本淡彩	軸
IV-18	小川芋銭	十六羅漢図 (三幅対)	明治末		各 129.0×46.1	紙本墨画淡彩	軸
IV-19	小川芋銭	黄葉村	明治末		109.7×36.6	絹本墨画淡彩	軸
IV-20	小川芋銭	夏山雨餘	大正初期		126.5×41.1	絹本墨画淡彩	軸
IV-21	小川芋銭	風乃兒	明治末 - 大正初期		121.2×50.3	絹本墨画淡彩	軸
IV-22	小川芋銭	細道絵日記	1911	明治 44	26.9×1318.0	紙本墨画淡彩	卷子 福島県立美術館
IV-23	小川芋銭	〔十二ヶ月風俗図〕	明治末		各扇 95.5×40.6	紙本淡彩、屏風	押絵貼屏風六曲一双
IV-24	小川芋銭	鍾馗図	1915	大正 4	318.3×181.5	綿布墨画淡彩	軸 福島県立美術館寄託
IV-25	小川芋銭	老楊と荒村	1917 頃	大正 6 頃	133.5×362.0	紙本着色、屏風	六曲一隻 牛久市
IV-26	小川芋銭	水虎と其眷属	1921	大正 10	84.5×56.7	紙本墨画淡彩、軸	愛知県美術館 (木村定三コレクション)
IV-27	小川芋銭	山彦の谷	1921	大正 10	133.0×63.3	紙本墨画淡彩、軸	愛知県美術館 (木村定三コレクション)
IV-28	小川芋銭	於那羅合戦	1921	大正 10	29.8×632.1	紙本墨画淡彩	卷子 福島県立美術館
IV-29	小川芋銭	止水	1929	昭和 4	78.2×110.2	紙本墨画	軸 茨城県近代美術館

番号	作家名	作品名	制作年		寸法 (cm)	材質・技法	形状	所蔵
IV-30	小川芋銭	太古香	1930	昭和 5		紙本墨画淡彩	軸	茨城県近代美術館寄託
IV-31	小川芋銭	海島秋来	1932	昭和 7	112.5×96.5	紙本墨画淡彩	軸	茨城県近代美術館
IV-32	小川千璽	十六羅漢図	大正期		128.8×37.2	絹本着色	軸	
IV-33	小川千璽	山村蘭秋水村浅夏 (双幅)	1919	大正 8	各 122.5×41.5	絹本着色	軸	喜多方市美術館
IV-34	小川千璽	水汲み	1922	大正 11	115.5×69.8	絹本着色	額	
IV-35	小川千璽	晩帰	1924	大正 13	86.2×137.8	絹本着色	額	京都国立近代美術館
IV-36	小川千璽	蜜柑山	1933		218.0×83.0	紙本着色	軸	
IV-37	小川千璽	田人	1928	昭和 3	125.5×150.0	紙本着色、屏風二曲一隻		京都国立近代美術館
IV-38	小川千璽	塩田	1934	昭和 9	140.7×73.4	紙本着色	軸	
IV-39	近藤浩一路	黎明	大正期		153.6×51.0	絹本着色	軸	
IV-40	近藤浩一路	黄昏	大正期		57.1×70.5	絹本着色	額	
IV-41	近藤浩一路	新緑雨景	大正期		31.8×46.2	絹本着色	軸	
IV-42	近藤浩一路	水郷	大正期		112.2×85.7	絹本着色	軸	
IV-43	近藤浩一路	山都絵日記	1920	大正 9	19.4×1414.7	紙本墨画	卷子	
IV-44	山内神斧	陶村	大正期		126.8×41.6	絹本着色	軸	
IV-45	山内神斧	六座帖	1918	大正 7	16.5×475.0	紙本淡彩	画帖	※都合により不出品
IV-46	山内神斧	六歌仙 (双幅)	1917	大正 6	各 137.5×51.5	絹本着色	軸	
IV-47	山内神斧	雪景図 (三幅対)	1918	大正 9	右 132.0×64.3	紙本墨画淡彩	軸	喜多方市美術館
IV-48	山内神斧	造兵の裏	大正期		45.7×53.3	絹本着色	額	
IV-49	川端龍子	有明	1918	大正 7	129.5×42.1	絹本着色	軸	
IV-50	小杉未醒	水荘訪客	大正末期		145.2×51.4	絹本着色	軸	福島県立美術館
IV-51	名取春仙	秋の花鳥	大正期		128.1×42.0	絹本着色	軸	喜多方蔵座敷美術館
IV-52	石塚翰	初夏風景図	大正期		124.6×39.5	絹本着色	軸	
IV-53	酒井三良	雪の橋	大正期		125.6×32.0	絹本着色	軸	
IV-54	酒井三良	雪に埋もれつつ正月はゆく	1919	大正 8	171.1×172.8	絹本着色、屏風二曲一隻		福島県立美術館
IV-55	酒井三良	左義長	1920	大正 9	166.3×83.3	絹本着色	軸	福島県立美術館
IV-56	酒井三良	残雪	1920	大正 9	129.9×41.1	絹本着色	軸	
IV-57	酒井三良	田園秋色図	1921-24	大正 10-13	142.1×50.6	絹本着色・軸装	軸	福島県立美術館
IV-58	酒井三良	村芝居	1921-24	大正 10-13	113.7×96.2	絹本着色・軸装	軸	福島県立美術館
IV-59	酒井三良	秋声	大正期		143.8×52.5	絹本着色	軸	
IV-60	酒井三良	琉球の春	1924	大正 13	133.1×40.9	絹本着色	軸	喜多方市美術館
IV-61	酒井三良	水郷の一日	1939	昭和 14	47.2×727.2	紙本墨画淡彩	卷子	福島県立美術館
V 章 会津の山河を描く…水彩画と版画								
V-01	大下藤次郎	風景	明治末		10.8×17.0	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-02	赤城泰舒	白い砂	1912	大正元	46.0×66.5	紙・水彩	額	東京国立近代美術館
V-03	赤城泰舒	〔水辺風景〕	1916	大正 5	43.2×34.7	紙・水彩	額	
V-04	赤城泰舒	〔並木のある風景〕	1920	大正 9	48.5×33.0	紙・水彩	額	
V-05	赤城泰舒	土塀	1920	大正 9	32.8×48.1	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-06	赤城泰舒	湯泉場風景 (飯坂)	1932	昭和 7	50.5×60.7	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-07	相田直彦	〔農村・漁村〕	大正期		110.8×39.5	絹本着色	軸	
V-08	相田直彦	花	1925	大正 14	60.8×45.8	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-09	相田直彦	都会の昼時	1933	昭和 8	73.0×91.0	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-10	春日部たすく	電柱のある風景	1924	大正 13	34.0×41.3	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-11	春日部たすく	植木畑風景	1931	昭和 6	58.5×74.3	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-12	春日部たすく	流れ	1937	昭和 12	72.6×99.8	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-13	渡部菊二	裏町	1931	昭和 6	49.9×61.0	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-14	渡部菊二	人形売りの少女	1934	昭和 9	75.5×58.1	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-15	渡部菊二	奏でる女	1937	昭和 12	59.2×59.2	紙・水彩	額	福島県立美術館

番号	作家名	作品名	制作年		寸法 (cm)	材質・技法	形状	所蔵
V-16	渡部菊二	勤労の娘たち	1940	昭和 15	115.8×90.6	紙・水彩	額	福島県立美術館
V-17	長澤昇	〔婦人像〕	1937	昭和 12	37.5×28.2	紙・水彩	額	
V-18	長澤昇	〔花〕	1943	昭和 18	51.8×38.2	紙・水彩	額	
V-19	長澤昇	六義園風景	1943	昭和 18	38.1×60.1	紙・水彩	額	
V-20	斎藤清	会津の冬	1938-40	昭和 13-15	38.3×45.4	紙・木版	額	福島県立美術館
V-21	斎藤清	会津の冬(御母堂)	1938-40	昭和 13-15	36.1×45.0	紙・木版	額	福島県立美術館
V-22	斎藤清	会津の冬(坂下)	1938-40	昭和 13-15	38.0×45.6	紙・木版	額	福島県立美術館
V-23	斎藤清	裏磐梯、会津	1955	昭和 30	38.0×52.4	紙・木版	額	福島県立美術館
V-24	斎藤清	会津の家(A)	1972	昭和 47	45.6×74.5	紙・木版	額	福島県立美術館
V-25	斎藤清	稔りの会津(3)	1975	昭和 50	38.5×52.7	紙・木版	額	福島県立美術館
VI章 竹久夢二とふくしま								
VI-01	竹久夢二	『野球美談』ポスター原画	1913	大正 2	64.5×34.5	紙・水彩	額	
VI-02	竹久夢二	人形を持つ少女	1914	大正 3	113.4×41.0	絹本着色	軸	
VI-03	竹久夢二	カフェーの女	1914	大正 3	114.5×41.8	絹本着色	軸	宮城県美術館
VI-04	竹久夢二	初秋	大正初期		115.5×36.2	絹本着色	軸	宮城県美術館
VI-05	竹久夢二	東山初見	大正初期		118.0×35.0	絹本墨画淡彩	軸	
VI-06	竹久夢二	時雨るるや…	昭和初期		137.1×32.5	紙本着色	軸	
VI-07	竹久夢二	夜の露臺	1918	大正 7	113.3×41.0	絹本着色	軸	
VI-08	竹久夢二	秋のおとづれ	大正期		112.9×40.5	絹本着色	軸	喜多方蔵座敷美術館
VI-09	竹久夢二	陶物師	1914	大正 3	108.7×41.2	絹本着色	軸	竹久夢二美術館
VI-10	竹久夢二	野分	1919	大正 8	133.5×41.5	絹本墨画淡彩	軸	
VI-11	竹久夢二	まいかい	大正中期		116.0×41.0	絹本着色	軸	
VI-12	竹久夢二	湯川へ	1921	大正 10	105.0×34.5	絹本着色	軸	
VI-13	竹久夢二	とんぼとり少年	1921	大正 10	118.7×35.8	絹本着色	軸	
VI-14	竹久夢二	置き炬燵	1921	大正 10	53.8×35.0	絹本着色	軸	竹久夢二美術館
VI-15	竹久夢二	猪苗代の秋	大正期		108.7×41.2	絹本着色	軸	竹久夢二美術館
VI-16	竹久夢二	嵐峡の春	大正期		108.7×41.2	絹本着色	軸	竹久夢二美術館
VI-17	竹久夢二	鴨東の夏	大正期		108.7×41.2	絹本着色	軸	竹久夢二美術館
VI-18	竹久夢二	青衣女人像	大正末 - 昭和初期		48.0×34.0	絹本着色	額	田村市図書館
VI-19	竹久夢二	自画像	1928	昭和 3	21.1×18.2	絹本墨画	額	田村市図書館
VI-20	竹久夢二	軽雷送雨	1930	昭和 5	23.5×132.7	紙本墨画淡彩	額	
VI-21	竹久夢二	草刈少女	昭和初期		122.5×35.8	絹本墨画淡彩	軸	
VI-22	竹久夢二	東山温泉秋色	昭和初期		135.6×30.5	紙本墨画淡彩	軸	田村市図書館
VI-23	竹久夢二	雪だるま	昭和初期		117.2×32.9	紙本墨画淡彩	軸	田村市図書館
VI-24	竹久夢二	こたつ	1930 頃		91.2×39.6	紙本着色	軸	
VI-25	竹久夢二	東山夜曲	1930	昭和 5	127.3×31.9	紙本着色	軸	
VI-26	竹久夢二	みちのくの女 1	1930	昭和 5	54.7×40.6	紙本淡彩	額	竹久夢二美術館
VI-27	竹久夢二	みちのくの女 2	1930	昭和 5	59.1×40.6	紙本淡彩	額	竹久夢二美術館
VI-28	竹久夢二	磐梯山スケッチ	1930	昭和 5	28.9×37.4	紙・鉛筆	額	竹久夢二美術館
VI-29	竹久夢二	会津スケッチ	1930	昭和 5	28.3×17.8	紙・鉛筆	額	竹久夢二美術館
VI-30	竹久夢二	弁天山風景	大正期		31.5×48.5	絹本墨画	額	
VI-31	竹久夢二	星まつり	昭和初期		125.0×33.0	絹本着色	軸	
VI-32	竹久夢二	時雨るるや…	1930	昭和 5	60.0×40.8	紙本着色	額	
VI-33	竹久夢二	山河連	昭和初期		132.9×31.8	紙本着色	軸	

資料リスト

No.	資料名、材質技法など	年	寸法 (cm)	所蔵
I 章				
資-I-01	『オーシス』2号(明治45年1月号)	1912	22.3×16.6	
資-I-02	『オーシス』3号(明治45年2月号)	1912	22.3×16.6	
資-I-03	『オーシス』5号(明治45年5月号)	1912	22.8×17.0	白河市歴史民俗資料館 / 個人蔵
資-I-04	伊藤抱月庵著『茶花の入れ方と茶花の歳時記』新樹社 (題簽: 安田鞆彦 / 表紙: 小林古径)	1968	18.7×13.3	
資-I-05	近藤浩一路はがき(今井伊八宛) 昭和11年5月23日	1936		
資-I-06	近藤浩一路はがき(今井伊八宛) 昭和23年	1948		
資-I-07	諸家はがき(伊藤隆三郎宛) 5葉 島成園, 吉田幸三郎, 横山大観, 坂本繁二郎, 前田青邨・小林古径			
資-I-08	広瀬嘉吉アルバム		19.0×27.2	福島県立美術館
資-I-09	伊藤隆三郎肖像写真	年代不詳		
資-I-10	南湖の別荘遠景写真(旧松平定信茶室)	年代不詳		
資-I-11	木葉庵写真(伊藤隆三郎を囲んで)			
資-I-12	木葉庵写真(旧小峰城太鼓櫓)			
資-I-13	岡倉秋水書簡(伊藤隆三郎宛) 大正12年7月15日 か	1923 か		
資-I-14	山脇信徳書簡(伊藤隆三郎宛) 大正10年5月12日	1921		
資-I-15	諸家書簡(伊藤隆三郎宛) 5葉 川村曼舟, 勝田蕉琴, 安田鞆彦, 木下春, 堀進二, 菊池契月			
資-I-16	真野紀太郎書簡(伊藤隆三郎宛) 年不詳5月26日			
資-I-17	中村彝書簡(伊藤隆三郎宛) 大正3年10月20日	1914		茨城県近代美術館
資-I-18	中村彝書簡(伊藤隆三郎宛) 大正3年10月29日	1914		茨城県近代美術館
資-I-19	田辺至書簡(小馬会展覧会事務局宛) 明治44年11月12日	1911		
	小馬会主催洋画展覧会招待状を含む			
資-I-20	南薫造書簡(小馬会宛) 明治44年11月27日	1911		
資-I-21	鈴木良三書簡(伊藤隆三郎宛) 大正15年11月11日	1926		
資-I-22	小馬会名誉会員推薦状(荒井治右衛門、明治40年)	1907		
資-I-23	『松風会記』大正14年～昭和9年 冊子	1925-1934	24.0×16.2	
資-I-24	渡辺光徳《上野窯場図》紙・銅版		径15.1	
資-I-25	渡辺光徳《須賀川町はずれ》紙・銅版		15.0×20.0	
資-I-26	茶器・書画売渡證書(伊藤隆三郎から荒井治右衛門へ) 綴	1928	27.6×20.6	
資-I-27	同人誌「小馬会」原稿・原画(今井起石画) 箱入り		23.7×16.8(箱)	
資-I-28	渡辺光徳《馬と人物図》綿布・銅版		径13.6	
資-I-29	渡辺光徳《馬耕図》紙・銅版		9.5×14.2	
II 章				
資-II-01	結城素明《藤田世舞子夫人小肖》紙本墨画淡彩、軸	1926	107.0×29.5	藤田記念博物館
資-II-02	結城素明《藤田照子刀自小肖》紙本墨画淡彩、軸	1926	107.0×29.6	藤田記念博物館
資-II-03	結城素明《藤田義直君写真》紙本墨画淡彩、軸	1926	107.0×29.6	藤田記念博物館
資-II-04	結城素明《藤田義直君写真》紙本墨画淡彩、軸	1926	107.0×29.6	藤田記念博物館
III 章				
資-III-01	石井柏亭《果樹園の午後下図》紙・水彩	1928	34.5×39.0	
資-III-02	石井柏亭《風景画色紙》紙・水彩		27.1×24.1	
資-III-03	諸家画帖(華邨, 碎巖, 不折, 廣業, 寛畝, 芝田, 楓湖, 米華, 金鳳, 玉章, 秀畝, 果亭) 絹本着色 明治末 外寸 30.8×36.0			
資-III-04	石井柏亭《扇面画牡丹》	1934	25.7×44.0	
資-III-05	石井柏亭書簡(伊藤熾宛) 昭和4年10月30日	1929		
資-III-06	石井柏亭書簡(伊藤熾宛) 昭和5年1月8日	1930		
資-III-07	橋本朝秀書簡(伊藤善彌宛) 昭和4年5月9日	1929		
資-III-08	橋本朝秀書簡(伊藤善彌宛) 昭和4年11月23日	1929		
資-III-09	橋本朝秀書簡(伊藤善彌[赤舂道人]宛) 昭和5年11月21日	1930		
資-III-10	真野紀太郎書簡(伊藤熾宛) 昭和4年10月29日	1929		
資-III-11	荻生天泉書簡(伊藤熾宛) 大正6年3月9日	1917		
資-III-12	勝田蕉琴はがき(伊藤善彌宛) 昭和4年11月25日	1929		
資-III-13	諸家はがき(伊藤熾宛) 8葉 ・石井柏亭 昭和23年年賀状			

No.	資料名、材質技法など	年	寸法 (cm)	所蔵
	・石井柏亭 (夫人代) 昭和5年5月31日	1930		
	・石井かをる 昭和5年6月15日	1930		
	・高橋卯八 年代不詳 ※八丈島で一水会の制作中			
	・真野紀太郎 昭和7年5月31日 ※杭州所見ペン画	1932		
	・安井曾太郎 昭和5年9月24日	1930		
	・安井曾太郎 昭和7年11月20日	1932		
	・安井曾太郎 昭和13年11月5日	1938		
資-III-14	展覧会のはがき			
	・石井柏亭 第14回二科展 《蛇の鼻の池の夕》			
	・石井柏亭 第15回二科展 《池》			
	・石井柏亭 第15回二科展 《果樹園の午後》			
	・伊藤 幟 第16回二科展 《運河》※初入選			
	・伊藤 幟 第21回二科展 《奥日光》			
	・伊藤 幟 第4回中央美術展 《沼尻風景》			
	・高橋卯八 第18回二科展 《夏の蛇の鼻》			
	・安井曾太郎 遺作展絵はがき			
資-III-15	伊藤彌 日本美術協会会員証 封書入り 明治27年5月28日	1894	23.0×30.8	
資-III-16	福陽美術会会規 封書入り 大正8年	1919	19.2×13.0	
資-III-17	第2回福陽美術会会規約 封書入り 大正10年3月26日	1921		
資-III-18	第1回双台社展図録 昭和16年7月20日発行	1941	18.3×13.0	
資-III-19	伊藤彌肖像写真 2葉	明治末頃		
資-III-20	《果樹園の午後》制作中の石井柏亭 (写真)	1928年8月		
資-III-21	蛇の鼻別荘を訪れた真野紀太郎夫妻 (写真)2葉 昭和4年10月以前			
資-III-22	蛇の鼻別荘を訪れた福陽美術会の画家たち、荒井寛畝を囲んで (写真)	昭和初期		
資-III-23	福島美術協会展の審査をする石井柏亭 (写真)2葉	1930		
資-III-24	えはがき 本宮蛇の鼻牡丹園の一部	昭和初期		
資-III-25	伊藤幟 昭和3年日記(石井柏亭監修、中央美術社刊の『美術日記』を使用)	1928年	18.2×12.5	
資-III-26	勝田蕉琴書簡(伊藤彌宛)大正6年 11通	1917		
資-III-27	勝田蕉琴はがき(伊藤彌宛)大正6年 6通	1917		
資-III-28	勝田蕉琴書簡(伊藤善彌宛) 昭和4年~昭和11年 14通	1929-36		
資-III-29	勝田蕉琴はがき(伊藤善彌宛)大正7年~昭和11年 21通	1918-36		
資-III-30	勝田蕉琴書簡(伊藤幟宛)大正13年~昭和27年 4通			
資-III-31	勝田蕉琴はがき(伊藤幟宛)大正10年~昭和29年 8通			
資-III-32	石井柏亭 絵付け皿「さぼてん」	1928	径18.5×高2.6	
資-III-33	伊藤幟 絵付け三角皿「葉」「三猿」「菊」	1928	[葉] 高2.0×幅15.0×奥行15.1 [三猿] 高2.2×幅14.3×奥行15.1 [菊] 高2.0×幅14.3×奥行15.0	
資-III-34	橋本朝秀 灰皿 ブロンズ		高12.5×幅21.0×奥行8.5	
資-III-35	荻生天泉, 太田秋民, 坂内青嵐合作 秋草図扇子 紙本墨画			

IV 章

資-IV-01	森田恒友《欧州画旅之紀念画帖》紙本着色		外寸 25.5×37.3×5.5	
資-IV-02	『諸家画帖』 紙本着色 佐々木林風, 山内神斧, 名取春仙, 森山香甫, 田村彩天, 小川千璽, 森田恒友, 本間国生, 松原石舟ほか		外寸 33.2×24.0	喜多方蔵座敷美術館
資-IV-03	小川芋銭ほか『美観帖』(扇面画帖)		扇面縦 24.3×長径 61.4	
資-IV-04	『大寶恵』(諸家滞在芳名録) 富田重俊蔵色紙帖『大象無形』より		14.0×19.0	喜多方蔵座敷美術館
資-IV-05	山内神斧色紙 [松並木に人物] 絹本着色	大正期	21.2×18.2	
資-IV-06	山本鼎色紙 紙・コンテ	大正期	21.2×18.2	
資-IV-07	小川芋銭色紙(印譜) 紙・朱印	大正期	21.2×18.2	
資-IV-08	小川芋銭色紙(印譜と句) 紙・朱印/墨書	大正期	21.2×18.2	
資-IV-09	小川千璽色紙 絹本着色	大正期	21.2×18.2	
資-IV-10	小川千璽色紙 絹本金地着色	大正期	21.2×18.2	

No.	資料名、材質技法など	年	寸法 (cm)	所蔵
資-IV-11	小川千麁色紙 (印譜と句) 紙本墨書	大正期	21.2×18.2	
資-IV-12	松林桂月色紙 絹本金地着色 大正8年初秋	1919	21.2×18.2	
資-IV-13	森田恒友色紙 紙本墨画淡彩	大正期	21.2×18.2	
資-IV-14	相田直彦色紙 紙本墨画淡彩	大正期	21.2×18.2	
資-IV-15	津田青楓色紙 紙本墨画淡彩	大正期	21.2×18.2	
資-IV-16	平井樸仙色紙 絹本着色	大正期	21.2×18.2	
資-IV-17	平福百穂色紙 富田重俊旧蔵 絹本墨画		27.1×24.2	
資-IV-18,19	小川芋銭「龍門」色紙 2枚(「群芳」箱入り) 紙本墨画淡彩		各 21.2×18.3	
資-IV-20	小川芋銭 団扇			喜多方蔵座敷美術館
資-IV-21	小川芋銭《於那羅合戦下図》 紙本墨画	1921		茨城県近代美術館
資-IV-22	小川芋銭書《酒星昭回》 紙本墨書、軸 箱書「庚申秋初芋銭題」	1920	102.8×34.0	
資-IV-23	小川芋銭ほか 諸家押絵貼衝立 小川芋銭「長鯨吞」扇面画 犬養毅, 高浜虚子, 武者小路実篤, 鳩山一郎		79.0×203.0	
資-IV-24	河東碧梧桐 南山莊篇額 紙本墨書	1920	35.7×102.7	
資-IV-25	小川芋銭 南山莊篇額 紙本墨書	1920	30.6×94.5	
資-IV-26	小川芋銭絵付《太刀豆の芽菓子皿》 磁器、共箱		径 20.3× 高 5.7cm	
資-IV-27	小川芋銭染付「龍門」徳利 3本 磁器(本郷焼)		高 14.7× 径 6.8	
資-IV-28	酒井三良 羽織裏絵《菊図》 絹本着色	大正期		
資-IV-29	酒井三良 羽織裏絵《木の芽》 絹本着色	大正期		
資-IV-30	名取春仙 鮎図帯図案 絹本着色		103.0×30.3	喜多方蔵座敷美術館
資-IV-31	本方秀麟図案 漆碗 4客		各高 6.2× 径 13.0	
資-IV-32	着彩桐箱「群芳」 石井柏亭題字、画中「栄二」印、裏書き：昭和辛未初夏柏亭題「印」	1931年	高 9.0×28.2×31.2	
資-IV-33	小川芋銭用印 7顆 「艸汁」 高 4.7× 幅 1.0× 奥行 1.1 石印 「艸汁庵主」 高 2.3× 幅 2.5× 奥行 2.5 石印 「貧女燈」 高 4.0× 幅 0.7× 奥行 2.3 石印 「南山碎白石爛」 高 2.2× 幅 1.6× 奥行 3.6 石印 「芋銭」 高 3.0× 幅 2.0× 奥行 2.3 石印 「芋銭子」 高 3.5× 径 .38 陶印 「艸汁庵主」 高 5.0× 長径 3.3× 短径 3.2 木印		※ 螺鈿箱入り 箱寸法 高 8.7× 幅 16.8× 奥行 13.2	
資-IV-34	寺崎廣業書簡(長尾為治宛)			
資-IV-35	勝田蕉琴書簡(富田重俊宛) 明治43年11月26日	1910		
資-IV-36	小山栄達書簡(長尾柳涯宛) 年不詳1月14日			
資-IV-37	小川芋銭書簡(田代与三久宛) 11通 卷子貼込		26.6×824.9	
資-IV-38	小川芋銭書簡(池田龍一宛) 昭和5年8月29日	1930		福島県立美術館
資-IV-39	小川芋銭書簡(池田龍一宛) 昭和7年12月25日	1932		福島県立美術館
資-IV-40	小川芋銭書簡(長尾柳涯宛)		17.7×117.2	
資-IV-41	小川芋銭書簡(田代蘇陽宛) 篇額		17.7×121.6	
資-IV-42	小川芋銭書簡(富田重俊宛) 昭和5年12月21日	1930		
資-IV-43	森田恒友・石井柏亭書簡(田代与三久宛) 10通 卷子貼込		18.2×655.4	
資-IV-44	森田恒友書簡(田代与三久宛) 2巻 卷子貼込 甲巻 22通 20.5×2079.1/ 乙巻 22通 20.5×2152.0			
資-IV-45	石井柏亭書簡(長尾柳涯宛)			
資-IV-46	相田直彦書簡(長尾末男宛)			
資-IV-47	大下藤次郎書簡(長尾為治宛) 年不詳8月24日	1911以前		
資-IV-48	大滝雨山書簡(長尾為治宛) 年不詳1月4日			
資-IV-49	小川芋銭書簡残欠(長尾柳涯宛) 大正2年(?)1月31日 ※封筒のみ			
資-IV-50	小川芋銭書簡残欠(田代与三久宛) 2枚 大正7年11月2日・21日	1918		(【群芳】箱入り) ※封筒のみ
資-IV-51	平福百穂書簡(小川千麁宛) 大正6年3月4日	1917		
資-IV-52	河東碧梧桐はがき(田代与三久宛) 明治45年2月17日	1912		
資-IV-53	山口八九子はがき(田代蘇陽宛) 大正7年6月26日	1918		
資-IV-54	山内金三郎(神斧) はがき(田代与三久宛)	昭和期(消印なし)		
資-IV-55	山内金三郎(神斧) はがき(田代与三久宛)	昭和期(消印なし)		
資-IV-56	山内吾八(神斧) はがき(田代与三久宛) 大正7年8月16日	1918		

No.	資料名、材質技法など	年	寸法 (cm)	所蔵
資-IV-57	児玉果亭はがき (長尾柳涯宛) 年不詳 6 月 24 日			
資-IV-58	寺崎廣業はがき (田代与三久宛) 明治 40 年 6 月 30 日	1907		
資-IV-59	酒井三良はがき (田代蘇陽宛) 大正 9 年 4 月 24 日	1920		
資-IV-60	酒井三良はがき (田代蘇陽宛) 大正 10 年 10 月 29 日	1921		
資-IV-61	酒井三良はがき (田代与三久宛) 大正 11 年 5 月 14 日	1922		
資-IV-62	酒井三良はがき (田代与三久宛) 大正 12 年 11 月 5 日	1923		
資-IV-63	酒井三良はがき (富田重俊宛) 昭和 5 年 4 月 30 日	1930		
資-IV-64	酒井三良はがき (田代与三久宛) 昭和 14 年 12 月 6 日	1939		
資-IV-65	酒井三良はがき (田代与三久宛) 昭和 15 年 6 月 25 日	1940		
資-IV-66	酒井三良はがき (富田重俊宛) 3 通 昭和 5 年 12 月 31 日 / 昭和 15 年 4 月 22 日 / 昭和 26 年 8 月 22 日			1930/1940/1951
資-IV-67	酒井三良はがき (田代与三久宛) 年不詳 5 月 15 日			
資-IV-68	酒井三良はがき (田代蘇陽宛) 年不詳 11 月 1 日			
資-IV-69	勝田蕉琴はがき (富田重俊宛) 2 葉 明治 39 年 7 月 18 日	1906		
資-IV-70	小山栄達はがき (長尾柳涯宛) 大正 3 ? 年 3 月 17 日			
資-IV-71	小川千穂はがき (田代与三久宛) 大正 6 年 10 月 10 日	1917		
資-IV-72	小川千穂はがき (田代与三久宛) 大正 6 年 10 月 19 日	1917		
資-IV-73	小川千穂はがき (田代与三久宛) 大正 6 年 11 月 6 日	1917		
資-IV-74	小川千穂はがき (田代与三久宛) 大正 8 年 5 月 21 日	1919		
資-IV-75	小川千穂はがき (田代与三久宛) 大正 13 年 11 月 24 日	1924		
資-IV-76	小川千穂はがき (従軍中の富田重延宛) 6 葉 昭和 14 年 4 月 23 日 ~ 昭和 18 年 2 月 17 日	1939-43		
資-IV-77	小川千穂はがき (田代蘇陽宛) 昭和 19 年 ?			
資-IV-78	小川千穂はがき (田代与三久宛) 年不詳 5 月 21 日			
資-IV-79	小川千穂はがき (田代与三久宛)			
資-IV-80	石井柏亭はがき (田代与三久宛) 大正 11 年 7 月 22 日	1922		
資-IV-81	石井柏亭はがき (田代与三久宛) 年不詳 2 月 14 日			
資-IV-82	大野麦風はがき (田代与三久宛) 大正 11 年 4 月 11 日	1922		
資-IV-83	田代蘇陽はがき (富田重俊宛) 大正 7 年 2 月 20 日	1918		
資-IV-84	田代蘇陽はがき (富田重俊宛) 大正 8 年 7 月 4 日	1919		
資-IV-85	田代与三久はがき (富田重俊宛) 9 通 明治 39 年 ~ 大正期			
資-IV-86	土橋華城はがき (富田冬嶺宛) 明治 40 年 1 月 20 日	1907		
資-IV-87	富田泉涌はがき			
資-IV-88	平福百穂はがき 2 葉			
資-IV-89	野田九浦はがき (長尾為治宛)			
資-IV-90	勝田蕉琴年賀状 (富田重俊宛) 明治 37 年 12 月 31 日	1904		
資-IV-91	富田重俊年賀状 (田代与三久宛) 明治 41 年 1 月 1 日	1908		
資-IV-92	土橋華城年賀状 (田代蘇陽宛) 明治 43 年 1 月 1 日	1910		
資-IV-93	石川桂堂年賀状 (田代与三久宛) 明治 43 年 1 月 1 日	1910		
資-IV-94,95	小川芋銭年賀状原画 (田代蘇陽のためのもの) 明治 45 年	1912		
資-IV-96	田代与三久年賀状 (富田重俊宛) 明治 45 年 1 月 1 日	1912		※ 図案・小川芋銭
資-IV-97	中島重太郎年賀状 (田代与三久宛) 大正 3 年 1 月 1 日	1914		
資-IV-98	小川芋銭年賀状 (田代与三久宛) 大正 3 年 1 月 1 日	1914		
資-IV-99	斎藤与里年賀状 (田代与三久宛) 大正 7 年 1 月 2 日	1918		
資-IV-100	赤城泰舒年賀状 (田代与三久宛) 大正 7 年 1 月 1 日	1918		
資-IV-101	森田恒友年賀状 (田代与三久宛) 大正 7 年 1 月	1918		
資-IV-102	織田一磨年賀状 (田代与三久宛) 大正 8 年 1 月 1 日	1919		
資-IV-103	山本鼎年賀状 (田代与三久宛) 大正 8 年 1 月 5 日	1919		
資-IV-104	小川千穂年賀状 (田代与三久宛) 大正 8 年 1 月 1 日	1919		
資-IV-105	野出蕉雨年賀状 (富田重俊宛) 昭和 14 年 1 月 1 日	1939		
資-IV-106	喜多方美術倶楽部 会員名簿	1918	26.6×18.5	
資-IV-107	喜多方美術倶楽部 名誉会員賛助員 芳名録	1918	26.6×18.5	
資-IV-108	喜多方美術倶楽部設立趣意書 篇額入り		18.2×104.0	喜多方蔵座敷美術館
資-IV-109	小川芋銭画伯依囑芳名簿 2 冊	1917	40.5×15.6/23.9×16.0	
資-IV-110	「芋銭氏全紙会」規約 (田代蘇陽から富田重俊に送られたもの)	1918		

No.	資料名、材質技法など	年	寸法 (cm)	所蔵
資-IV-111	蘇陽から柳涯への依頼状草稿			
資-IV-112	田代与三久自筆履歴 (封筒入り)			(【群芳】箱入り)
資-IV-113	田代与三久自筆名取春仙先生画歴 (封筒入り)			(【群芳】箱入り)
資-IV-114,115	『新作精華』(珊瑚会展目録)第2巻第2輯 大正8年4月15日	1919	34.8×19.4	
資-IV-116	『新作精華』(珊瑚会展目録)第3巻第2輯 大正9年2月25日	1919	34.7×19.4	
資-IV-117	岩越鉄道敷設関係資料 (若松喜多方間鉄道工事延長整理費契約書)		27.7×19.4	

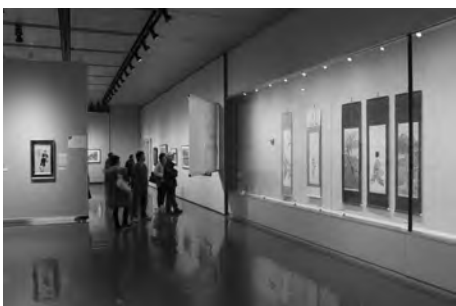
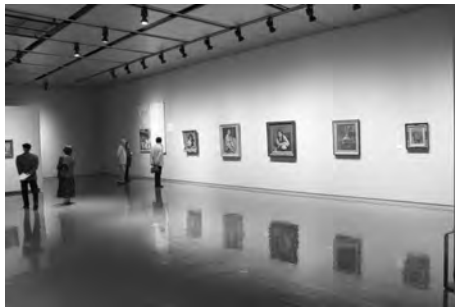
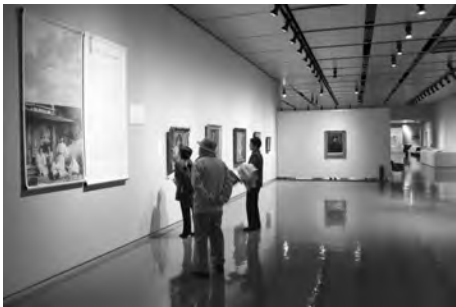
V 章

資-V-01	『みづゑ』第6号 明治38年12月	1905		福島県立美術館
資-V-02	『みづゑ』第9号 明治39年3月	1906		福島県立美術館
資-V-03	大下藤次郎『水彩写生紀行』	1911		福島県立美術館
資-V-04	日本水彩画会寄せ書き色紙 2枚 昭和6年3月28日	1931		(【群芳】箱入り)
資-V-05	日本水彩画会写生会写真 3枚	1931		(【群芳】箱入り)
資-V-06	日本水彩画会写生旅行一行芳名	1931		(【群芳】箱入り)
資-V-07	『日本水彩画会年鑑昭和6年度』	1931		(【群芳】箱入り)
資-V-08	田代与三久はがき (春日部たすく宛) 昭和6年8月5日	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-09	田代与三久はがき (春日部たすく宛) 昭和6年8月20日	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-10	田代与三久書簡 (春日部たすく宛) 昭和6年8月2日	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-11	田代与三久書簡 (春日部たすく宛) 昭和6年8月10日	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-12	田代与三久電報 (春日部たすく宛) 昭和6年8月8日	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-13	『第一回土曜会水彩展覧会』	1931		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-14	『日本水彩画会年鑑昭和8年度』	1933		(【群芳】箱入り)
資-V-15	春日部たすく日記帳	1932	11.6×9.0	福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-16	春日部たすく『第一回土曜会水彩展覧会評』	1936		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-17	春日部たすく『第一回土曜会水彩展覧会評』原稿綴り	1936		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-18	脇田和はがき (田代与三久宛) 昭和11年11月20日	1936		
資-V-19	脇田和はがき (田代与三久宛) 年不詳 (昭和戦中期) 7月11日			
資-V-20	田代与三久はがき (春日部たすく宛) 昭和12年8月8日	1937		福島県立美術館 (春日部たすく旧蔵資料)
資-V-21	『日本水彩画会年鑑二十周年記念』			(【群芳】箱入り)
資-V-22	『第4回昭和美術展覧会目録』			(【群芳】箱入り)
資-V-23	新聞記事切り抜き 2葉			(【群芳】箱入り)
資-V-24	春日部たすく・脇田和展覧会記事			(【群芳】箱入り)

VI 章

資-VI-01	竹久夢二書簡 (助川啓四郎宛) 大正14年11月10日 卷子	1925	16.0×129.6	
資-VI-02	竹久夢二書簡 (助川啓四郎宛) 昭和5年12月13日 軸	1930	29.2×39.3	
資-VI-03	飯坂温泉に夢二を迎えて (写真) 大正3年7月	1914		田村市図書館





展示風景

4. 開館 25 周年記念 アルバム：美術館で作る楽しみ・描く喜び

会 期：2009 年 12 月 5 日(土)～2010 年 1 月 31 日(日)

会 場：企画展示室 B・2 階常設展示室入口ロビー

休館日：毎週月曜日(1 月 11 日は開館)、12 月 24 日(木)、12 月 28 日(月)
～1 月 4 日(月)、1 月 12 日(火)

観覧料：無料

観覧者数：1,770 名

担 当：久慈伸一、橋本淳也

主 催：福島県立美術館

【概 要】

福島県立美術館では 1984 年の開館以来、展覧会や鑑賞に関わる様々な活動のほかに、絵を描いたり、彫刻や版画、工芸など、実際に美術の創作に関わる体験を提供する様々な教室・講座の開催がある。これらの事業は、大人から子供まで参加対象毎にプログラムを設け、誰もが創作のプロセスにじっくりと気軽に取り組むことができる機会として継続的に行なわれてきたものである。

一般向けとして 4～6 日で開催される実技講座と 2 日で開催される技法講座、1 日開催の一日創作教室。親子を対象に一日かけて創作を体験する親子の美術教室。小学生が一日、創作体験するわんぱくミュージアム。作家が県内の小・中・高等学校に出向いて創作を指導する学校連携共同ワークショップ。これらはいずれも創意、工夫しながら取り組むという、創作に関わる本来的なあり方を楽しめるよう、最低限必要な時間とリラックスしながら集中できる場として設定、開催してきたものである。

開館 25 周年を機にこれらの活動を振り返り、改めて紹介することで、広く理解を得て、今後の活動を展望するために、これまでに開催した中からいくつかを選んで、活動の記録を写真と解説を付した B 全判(1030×1456 mm)の大きさのパネル約 50 枚で紹介した。また、2009 年度に開催した学校連携事業で制作した「光の箱」とビデオ作品や講座等で作ったいくつかの参考作品も併せて展示した。

【総 括】

この展覧会の主眼は当館で行なってきた実技・創作プログラムの活動を、具体的な実践活動のビジュアルな記録を通して紹介することにあった。当館でこれまでにないパネルを主体とした展示であったことから、内容を効果的に伝えることはもちろんのこと、体感的に捉えながら観覧できるように、パネルの写真や説明文の掲載方法、パネルの配置構成などに腐心した。その結果アンケートには概ね展覧会への好意的な反応・意見が多数寄せられた。

□印刷物

・ポスター (B2、館内掲示のみ)、チラシ (A4)、創作体験プログラム案内リーフレット (A4 判 4 頁)



A4 チラシ



創作体験プログラム案内リーフレット

アルバム展展示パネルリスト (展示構成順)

1. 福島県立美術館創作体験プログラムについて
2. 実技講座「彫塑教室：頭像の制作」 1985年9月29日、10月6日、13日、20日、27日 日曜5週連続
講師：白沢菊夫（福島大学教育学部助教授）、一般15名受講
3. 公開制作「エアープラシの技法」1985年6月15日(土)、16日(日)、2日連続
講師：森秀雄（一陽会会員）
4. 開館5周年記念事業
 - ①創作広場「夏の風物誌」1989年7月23日(日)、講師：佐久間敬（福島大学教育学部助教授）福島大学教育学部学生、久慈伸一・林王昭（美術館学芸員）
 - ②公開制作「萬祝式大漁旗をつくる」1989年7月29日(土)、30日(日)、2日連続、講師：宮澤紀年（染め物師）
5. 公開制作「民族楽器を作る」1989年10月28日(土)、29日(日)、2日連続
講師：関根秀樹（民族楽器研究家）一般34名受講、（パネル2枚で構成）
6. 親子の美術教室「お正月のおもちゃを作ろう」1991年12月8日(日)
講師：佐久間敬（福島大学教育学部教授）、親子12組28名受講
7. 親子の美術教室「焼き物でつくるキャンドルスタンド」1993年7月24日(土)、25日(日)、一日目と二日目を同じ内容で開催
講師：日下部正和（県立安積高等学校教諭）、親子17組39名受講
8. 実技講座「F.R.Pで作る浮かぶ彫刻」1994年9月3日(土)、4日(日)、17日(土)、18日(日)、4回連続、講師：渡辺豊重（造形作家）、一般8名受講、（パネル3枚で構成）
9. わんぱくミュージアム「ダンボールで遊ぼう」1995年5月4日（木）、5日（金）、2日連続 講師：高澤俊郎（美術館学芸員）、小学生26名受講
10. 実技講座「型染めによるタペストリー」1995年10月8日(日)、14日(土)、15日(日)、22日(日)、28日(日)、5回連続 講師：太宰待子（郡山女子短期大学部助教授）、一般15名受講
11. 特別実技教室「ロダンにさわってつくる」1999年4月25日(日)
講師：小原馨（造形作家、元都立八王子盲学校教諭）、視覚障害者9名および介助者8名受講
12. 実技講座「フレスコ画の制作」2001年5月13日、20日、27日、6月3日、10日、日曜5回連続、講師：森敏美（東北生活文化大学教授）、一般15名受講
13. 実技講座「いくつも作れる樹脂のオブジェ」2001年7月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日) 5回連続
講師：高浜幹（造形作家）、一般8名受講
14. 親子の美術教室「箱の中に自分の世界を作ろう」2001年10月14日(日)
講師：綿引展子（画家）、親子7組19名受講
15. 実技講座「モノタイプ版画の制作」2002年11月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)、30日(土)、12月1日(日)、6回連続
講師：加納光於（美術家）、一般15名受講
16. 実技講座「日常風景を木で創る」2002年2月9日、16日、23日、3月2日、9日、毎週日曜5回連続
講師：林範親（東北生活文化大学教授）、一般7名受講
17. わんぱくミュージアム「楽しい分身アート」2002年3月30日(日)
講師：真柴毅（美術館学芸員）（パネル3枚で構成）、小学生15名受講
18. 親子の美術教室「親子で作るクリスマスキャンドル」2003年12月13日(土)
講師：横島憲夫（造形作家）、親子9組20名受講
19. 技法講座「特撮マスクの制作」2004年7月10日(土)、11日(日)、2日連続
講師：高浜幹（造形作家）、一般7名受講
20. 実技講座「日常を刻むー銅版画入門」2004年9月4日(土)、5日(日)、11日(土)、18日(土)、



展示風景

19 日(日)、5 回連続

講師：若月公平 (版画家、東北芸術工科大学助教授)、一般 12 名受講

21. 技法講座「恐竜を復元する」2004 年 10 月 2 日(土)、3 日(日)、2 日連続

講師：小田隆 (サイエンティフィック・イラストレーター)、一般 7 名受講

22. 親と子の美術教室「みんなで作る町」2005 年 7 月 31 日(日)

講師：高橋和真 (パッケージグラフィック作家)、親子 11 組 24 名受講

23. 実技講座「人体をモチーフにつくる」2006 年 5 月 28 日、6 月 4 日、11 日、18 日、25 日、日曜 5 回連続

講師：湯川隆 (彫刻家)、一般 10 名受講 (パネル 3 枚で構成)

24. わんぱくミュージアム「石膏レリーフを作ろう！」2006 年 7 月 2 日(日)

講師：久慈伸一 (美術館学芸員)、一般 14 名受講

25. 親と子の美術教室「家族の旗をつくろう！」2006 年 7 月 23 日(日)

講師：橋本主也 (東京藝術大学工芸科染織専攻講師)、親子 8 組 19 名受講 (パネル 3 枚で構成)

26. 実技講座「木彫でつくる形象」2007 年 5 月 27 日、6 月 3 日、10 日、17 日、24 日、日曜 5 回連続

講師：新井浩 (彫刻家、福島大学人間発達文化学類助教授)、一般 12 名受講

27. 実技講座「生活の中で発見した私の形～型取りによる造形」2007 年 9 月 8 日(土)、9 日(日)、15 日(土)、16 日(日)、22 日(土)、23 日(日)、6 回連続

講師：井田勝己 (東京造形大学准教授) 一般 8 名受講

28. 実技講座「日本画材の可能性～板に描く」2007 年 11 月 17 日(土)、18 日(日)、12 月 1 日(土)、2 日(日)、4 回連続

講師：岡村桂三郎 (画家、東北芸術工科大学芸術学部日本画専攻教授) 一般 17 名受講 (パネル 2 枚で構成)

29. 親と子の美術教室「みんなで作る動物園」2007 年 12 月 16 日(日)

講師：高橋和真 (パッケージグラフィック作家)、親子 5 組 12 名

30. わんぱくミュージアム「パラモデルといっしょにプラレールであそぼう！」2007 年 8 月 19 日(日)、同じ内容を午前と午後に分けて開催

講師：パラモデル (現代美術作家；林泰彦・中野裕介)、午前親子 12 組 24 名・午後親子 19 組 38 名受講

31. 企画展関連ワークショップ「N ゲージでジオラマをつくろう！」2007 年 9 月 1 日(土)、2 日(日)、同じ内容を 2 日に分けて開催

講師：諸星昭弘 (イラストレーター、模型作家) (パネル 2 枚で構成)

32. 一日創作教室「小さな情景を作る」2008 年 1 月 27 日(日)

講師：橋本淳也 (美術館学芸員) 一般 9 名受講

33. 一日創作教室「絵画を粘土で模写する～イメージの変換」2009 年 2 月 8 日(日)

講師：久慈伸一 (美術館学芸員) 一般 7 名受講

34. 親と子の美術教室「蜜ろうで作るオリジナルクレヨン」2008 年 5 月 5 日(日)

講師：小原典子 (女子美術短期大学講師) 親子 7 組 16 名受講

35. 学校連携共同ワークショップ概説パネル

36. 学校連携共同ワークショップ「自分の色と自分のカタチ」2005 年 10 月 6 日～11 月 4 日、講師：綿引展子 (画家)

① 10 月 6 日(木)南会津郡舘岩村立舘岩小学校 1・2 年生 22 名

② 10 月 17 日(月)学校法人尚志学園尚志高等学校 2 年生 28 名

③ 10 月 18 日(火)双葉郡大熊町立大熊中学校美術部 12 名

④ 11 月 4 日(金)郡山市立湖南小学校 3 年生 25 名

37. 学校連携共同ワークショップ「仮面の向こうにみえるもの」2006 年 10 月 11 日～11 月 22 日 講師：塩野麻理 (彫刻家、明星大学助教授)

① 10 月 11 日(木)「マスクで変身！私の好きな〇〇に変身しちゃう！」郡山市立御舘小学校下枝分校 1～3 年生 14 名



2 階ロビー「光の箱」展示風景

② 11月8日(木)「大切な気持ちを伝えたいメッセージに変身！」二本松市立下川崎小学校5・6年生14名

③ 11月22日(木)「マスクで変身！思い出パフォーマンス」南会津郡下郷町立下郷中学校3年生7名

38. 学校連携共同ワークショップ「羊毛からはじまる物語」2007年10月3日～11月21日 講師：石田百合(フェルト人形作家)

① 10月3日(木)郡山市立三穂田中学校2年生34名

② 10月10日(木)二本松市立木幡第一小学校全校生49名

③ 10月11日(木)田村郡三春町立沢石中学校全校生30名

④ 11月21日(木)南会津郡只見町立只見小学校3年生8名

39. 学校連携共同ワークショップ「手作りメディアアート」2009年10月13日～10月30日 講師：松村泰三(メディアアーティスト、東北芸術工科大学准教授)

① 10月13日(木)「光の箱をつくろう！」伊達市立小手小学校全校生20名

② 10月29日(木)「みんなでつくるアニメーション」富岡高等学校川内分校2・3年生13名

③ 10月30日(金)「光の箱をつくろう！」郡山市立宮城小学校全校生62名

40. 開館以来開催した全ての実技教室の一覧表

※(注：パネルはB0判大パネルを使用、ただし、35のみB1判大パネル)

その他の展示物

① 実技講座「FRPで作る浮かぶ彫刻」(1994年9月3日～18日)

参考作品1点(FRP製彫刻)

② 実技講座「いくつも作れる樹脂のオブジェ」(2001年7月7日～22日)

参考作品7点(プラスチック樹脂製フィギア)

③ 実技講座「モノタイプ版画の制作」(2002年11月16日～12月1日)

参考作品3点(加納光於試作モノタイプ版画)

④ 技法講座「特撮マスクの制作」(2004年7月10日～11日)

参考作品3点(発砲ウレタン樹脂製マスク)

⑤ 企画展関連ワークショップ「Nゲージでジオラマをつくろう！」

(2007年9月1日～2日)

参考作品1点(鉄道模型1ピース)

⑥ 学校連携共同ワークショップ「羊毛からはじまる物語」(2008年10月3日～11月21日) 羊毛フェルト作例見本

⑦ 学校連携共同ワークショップ「手作りメディアアート」(2009年10月13日～10月30日)

「みんなでつくるアニメーション」(1分32秒のビデオ作品をモニター1台で放映)

「光の箱」(82点を組み合わせて構成した作品)を2Fロビーに展示。

(注：「光の箱」以外は全て展示室内に展示)

5. 山中現展 ―夢の領域―

会 期：2010年2月13日(土)～3月23日(月)例

会 場：企画展示室 A-1・2・3

休館日：毎週月曜日（3月23日は開館）

観覧料：一般・大学生 600(480) 円／高校生 300(240) 円／

小・中学生 200(160) 円 * () 内は 20 名以上の団体料金

観覧者数：2,838 名

担 当：吉村有子、荒木康子

主 催：福島県立美術館

【概 要】

山中現 (1954-) は福島県喜多方市出身の版画家である。東京芸術大学美術学部油画科在学中に、小野忠重の集中講義を受けたことから木版画を手がけるようになった。その後同大学大学院美術研究科、野田哲也研究室に進み、創作版画の巨匠、恩地孝四郎の抽象表現などから影響を受けつつ制作。モノトーンや淡い色彩、シンプルな構図の中にユーモラスな形体が漂い、無言劇を演じる画面は、静謐な詩情をたたえており、高い評価を得ている。1984 年 30 歳の時には第 2 回西武美術館版画大賞展で日版商買上げ賞を受賞。詩人・串田孫一との共作による詩画集『星火』や画文集『夢』、詩人・松永伍一との共作による詩画集『水の庭』など、版画集も数多く制作している。

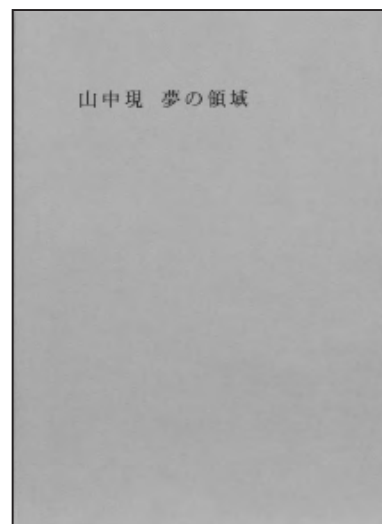
この展覧会では、木版画をはじめ、ドライポイント、木口木版画、モノタイプ、水彩画、ガラス絵に、近年新境地を開いている油彩画、オブジェなども合わせ、初期作から最新作にいたる 178 点を展示。幻想的な創作世界の全容を紹介した。

【総 括】

本展は県出身の中堅作家を個展形式で紹介する展覧会シリーズの中に位置づけられる。山中現に対する版画愛好家の評価は極めて高く、本展も全国の版画愛好家の興味を引いた。アンケートによると仙台、山形、栃木はもとより東京、神奈川、三重、富山、広島など遠方から訪れる来場者が多く、来場者の 20%以上をしめたことが特徴的である。山中の出身地である喜多方市の企業が積極的に展覧会の周知に努めてくれたことも効果的だった。県内各地からの来場者には山中現の作品を初めて観覧するという人も多かったが、県出身の優れた作家の紹介を喜ぶ声が多く聞かれた。特装版図録（山中現の小版画が附属した、ケース入り図録）の予約販売も好評で、展覧会に先駆けた予約受付開始日（2011 年 1 月 13 日）から数日で完売した。



B2 ポスター



図録表紙

□印刷物

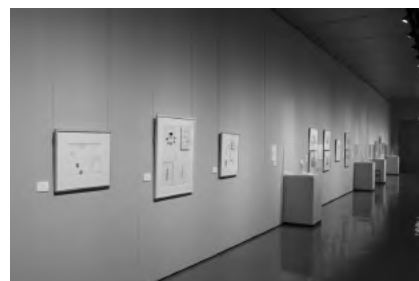
- ・ポスター（B2・B3）、チラシ（A4）、観覧券、案内葉書
- ・図録（A5判、180頁）
 - 図版：カラー 178点
 - 本文：「夢の領域—山中現の世界」酒井哲朗（当館館長）
 - 「作家のことば」山中現
 - 「夢の原点」吉村有子（当館主任学芸員）
 - 年譜／文献目録／作品リスト
- ・山中現オリジナル版画《ヒカリノカタチ》付特装版図録（限定 50 部）
- ＊図録自体は通常版と同じ。スリーブケース入り。

□関連事業

- ・ギャラリートーク 各回とも 14:00 ～ 会場：企画展示室（要観覧券）
 - ① 2月 21 日(日) 講師：吉村有子（当館主任学芸員）25 名参加
 - ② 2月 27 日(土) 講師：吉村有子（当館主任学芸員）10 名参加
 - ＊友の会会員対象
 - ③ 3月 7 日(日) 講師：荒木康子（当館主任学芸員）10 名参加

□関連記事

- ・「喜多方市出身版画家山中さん 13 日から展覧会」
『福島民報』2010 年 2 月 5 日
- ・「喜多方出身の版画家 山中さん個展きょう開幕」
『福島民報』2010 年 2 月 13 日
- ・「詩情の木版画 県立美術館 山中現展④⑤⑥」吉村有子
『福島民報』2010 年 2 月 22 日、3 月 1,8 日
- ・「山中現展—夢の領域」吉村有子
『河北新報』2010 年 2 月 25 日
- ・「山中現—夢の領域④⑤」荒木康子
『福島民友』2010 年 2 月 17,24 日
- ・「喜多方市出身・山中さん『夢の世界』幻想的構図」
『福島民友』2010 年 3 月 2 日



展示風景



ギャラリートーク 上 2/21 下 3/7



レセプション 2/12

出品リスト

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	エディション	所蔵
1	No. 1	1976 年	和紙・木版	53.8×37.9	A.P.	作家
2	No.11	1977 年	和紙・木版	79.5×53	A.P.	喜多方市美術館
3	No.13	1977 年	和紙・木版	79.5×52.5	A.P.	喜多方市美術館
4	自画像	1977 年	和紙・木版	39.3×53.8	A.P.	作家
5	帰宅	1978 年	和紙・木版	23.9×38.7	A.P.	作家
6	ハート	1978 年	和紙・木版	33.7×51.8	A.P.	喜多方市美術館
7	風景	1978 年	和紙・木版	34.5×52.0	A.P.	喜多方市美術館
8	はなれる棒	1979 年	和紙・木版	34.0×47.1	A.P.	作家
9	影の国 1	1980 年	和紙・木版	40.0×50.9	H.C.	作家
10	もうひとつの場所	1980 年	和紙・木版	36.7×50.8	4/20	作家
11	屋上	1981 年	和紙・木版	49.9×31.4	H.C.	作家
12	まど	1982 年	和紙・木版	43.4×30.5	A.P.	作家
13	SAKINIIKIMASU	1983 年	和紙・木版	24.9×25.9	20/40	作家
14	第一夜	1984 年	和紙・木版	58.3×42.3	4/20	作家
15	第二夜	1984 年	和紙・木版	58.8×42.3	H.C.	作家
16	第三夜	1984 年	和紙・木版	58.4×42.6	A.P.	作家
17	第四夜	1984 年	和紙・木版	40.8×57.8	A.P.	作家
18	第五夜	1984 年	和紙・木版	57.8×41.0	T.P.	作家
19	第六夜	1985 年	和紙・木版	55.7×40.4	T.P.	作家
20	第七夜	1985 年	和紙・木版	50.6×38.9	T.P.	作家
21	第八夜	1985 年	和紙・木版	55.6×40.5	13/20	作家
22	第九夜	1985 年	和紙・木版	40.4×55.9	H.C.	作家
23	第十夜	1985 年	和紙・木版	52.3×77.8	A.P.	作家
24	第十一夜	1985 年	和紙・木版	57.3×40.9	T.P.	作家
25	詩画集『星火』	1986 年	和紙・木版	星火 1	A.P. VI	作家
26				星火 2		作家
27				星火 3		作家
28				星火 4		作家
29				星火 5		作家
30				星火 6		作家
31				星火 7		作家
32	星夜Ⅰ	1987 年	和紙・木版	67.8×48.0	H.C.	作家
33	星夜Ⅱ	1987 年	和紙・木版	67.9×48.0	T.P.	作家
34	星夜Ⅲ	1987 年	和紙・木版	67.7×47.8	A.P.	作家
35	星夜Ⅳ	1987 年	和紙・木版	67.9×48.0	H.C.	作家
36	版画集『星の国』	1987 年	和紙・木版	流星	A.P.	作家
37				空		作家
38				野		作家
39				雲		作家
40	版画集『星の夢』	1988 年	和紙・木版	空の夢	H.C.	作家
41				灰色の舟		作家
42				雲の舟		作家
43				海の夢		作家
44				突端		作家

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	エディション	所蔵
45	石の夢Ⅱ	1989 年	和紙・木版	33.4×42.8	H.C.	作家
46	浜辺の夢	1989 年	和紙・木版	47.4×33.9	A.P.	作家
47	夜の夢	1989 年	和紙・木版	37.1×53.7	A.P.5/5	作家
48	白い夜	1990 年	和紙・木版	47.5×33.2	H.C.	作家
49	画文集『夢』	1990 年	和紙・木版	11.6×8.4	92/120	作家
50	断想Ⅱ			15.3×7.0		作家
51	断想Ⅲ			15.2×10.4		作家
52	景（特装本用）			36.9×22.9	H.C.3/3	作家
53	宙（特装本用）			34.2×22.9		作家
54	跡（特装本用）			27.8×40.9		作家
55	空の信号	1991 年	和紙・木版	44.1×37.0	A.P.	作家
56	海辺	1992 年	和紙・木版	55.1×36.8	H.C.	作家
57	星座Ⅰ	1992 年	和紙・木版	19.9×38.1	A.P.	作家
58	星座Ⅱ	1992 年	和紙・木版	38.4×18.7	T.P.	作家
59	星座Ⅲ	1992 年	和紙・木版	19.0×36.1	A.P.4/5	作家
60	風の道Ⅰ	1993 年	和紙・木版	35.1×50.7	H.C.	作家
61	風の道Ⅱ	1993 年	和紙・木版	32.0×47.2	A.P.2/4	作家
62	風の道Ⅲ	1993 年	和紙・木版	35.1×50.7	A.P.2/3	作家
63	木版画集『水のかたち』	1993 年	和紙・木版	40.2×18.5	H.C.2/2	作家
64	W 水光					
65	A 六月の雨			38.2×25.3		作家
66	T みどりの詩			39.8×14.0		作家
67	E 地の時			28.2×40.1		作家
68	R 虹のゆくえ			29.8×42.8		作家
69	二つの時間	1994 年	和紙・木版	49.9×69.1	T.P.	作家
70	地の光	1995 年	和紙・木版	24.4×34.9	7/30	作家
71	茶色の道	1995 年	和紙・木版	35.2×45.3	T.P.	作家
72	ムラサキのかたち	1995 年	和紙・木版	24.5×35.5	H.C.	作家
73	間	1996 年	和紙・木版	36.7×47.6	A.P.4/4	作家
74	ミドリノカタチ	1997 年	和紙・木版	36.9×47.1	A.P.2/5	作家
75	帯	1998 年	和紙・木版	36.8×47.6	15/25	作家
76	銅版画集『睡郷』	1998 年	和紙・ドライポイント	9.9×4.3	A.P.4/7	作家
77	宙（そら）に向かって					
78	彼方			10.0×10.6		作家
79	絆			6.9×4.8		作家
80	遠い郷（くに）			10.0×9.1		作家
81	夢の種子			8.0×10.0		作家
82	春			10.0×7.4		作家
83	それぞれの刻（とき）			10.1×10.0		作家
84	蘇えるかたち			6.9×5.2		作家
85	冬の日			30.5×22.4	A.P.1/7	作家
86	銅版画集『いのちのカタチⅠ』	1999 年	和紙・ドライポイント	12.7×9.8	A.P.3/3	作家
87	慈雨（じう）					
88	薄日（うすび）			12.7×9.7		作家
89	未生（みしょう）			12.7×9.7		作家
90	流（ながれ）			9.7×12.5	A.P.3/3	作家
91	雲（くも）	1999 年	和紙・ドライポイント	9.8×12.5		作家
92	生（せい）			9.8×12.6		作家

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	エディション	所蔵
90	影の時	1999 年	和紙・木版	31.2×24.3	T.P.	作家
91	冬の静物	1999 年	和紙・木版	33.5×47.7	A.P.3/3	作家
92	赤のかたち	2000 年	和紙・木版	31.2×24.3	20/35	作家
93	遠い記憶	2000 年	和紙・木版	33.4×47.5	T.P.	作家
94	みどりのかたち	2000 年	和紙・木版	62.8×49.3	A.P.1/3	作家
95	六つのかたち	2000 年	和紙・木版	49.5×63.1	A.P.1/3	作家
96	二つの茶色	2002 年	和紙・木版	30.5×22.4	21/35	作家
97	水色のかたち	2002 年	和紙・木版	22.9×29.2	16/35	作家
98	木口木版画集『星の記憶Ⅰ』 空のかたち	2003 年	和紙・木口木版	10.4×6.4	H.C.2/2	作家
99	星の地図			10.0×7.2		作家
100	地の光			10.0×7.0		作家
101	記憶			10.0×7.4		作家
102	木口木版画集『星の記憶Ⅱ』 春の星座	2003 年	和紙・木口木版	10.4×7.3	H.C.2/2	作家
103	夏の街			10.0×7.5		作家
104	秋のかたち			10.4×7.3		作家
105	冬の木			8.9×6.2		作家
106	詩画集『水の庭』 水の庭	2003 年	和紙・木版	19.6×21.2	A.P.2/5	作家
107	雲の静物			28.8×13.2		作家
108	影の旅			28.7×21.1		作家
109	大地の音			28.7×13.2		作家
110	空の種			28.9×23.5		作家
111	星の果実			28.5×21.2		作家
112	石の声			28.9×21.2		作家
113	時の河			28.8×21.1		作家
114	天の配列	2004 年	和紙・木版	30.5×22.4	13/35	作家
115	夜の影	2004 年	和紙・木版	30.6×22.4	A.P.2/5	作家
116	ふたつのかげ	2005 年	和紙・木版	47.8×36.5	A.P.1/5	作家
117	星の信号	2005 年	和紙・木版	52.0×45.0	4/20	作家
118	白の時	2006 年	和紙・木版	35.8×35.8	9/30	作家
119	星座のために	2006 年	和紙・木版	51.0×36.4	13/25	作家
120	星の行方	2006 年	和紙・木版	48.9×36.5	18/25	作家
121	木版画集『時の器』 器	2007 年	和紙・木版	20.3×15.0、10.3×7.0	T.P.2/2	作家
122	水			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
123	人			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
124	木			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
125	山			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
126	土			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
127	雪			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
128	雲			22.5×16.2、10.3×7.0		作家
129	月			20.3×15.0、10.3×7.0		作家
130	星			20.3×16.6、10.3×7.0		作家
131	時			21.2×14.9、10.3×7.0		作家
132	風の日	2008 年	和紙・木版	24.6×35.4	9/35	作家
133	もうひとつの赤	2008 年	和紙・木版	22.7×16.0	9/45	作家
134	夜よりほかに	2008 年	和紙・木版	22.9×16.0	9/45	作家

番号	作品名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	エディション	所蔵
135	連	2008 年	和紙・木版	23.3×16.0	9/45	作家
136	影について	2009 年	和紙・木版	48.5×36.3	1/25	作家
137	星宿（せいしゅく）	2009 年	和紙・木版	48.6×36.2	1/25	作家
138	そのほかに	2009 年	和紙・木版	34.7×24.8	1/35	作家
139	遠くまで	2009 年	和紙・木版	27.0×35.2	1/35	作家
140	時の柱	2009 年	和紙・木版	48.8×36.3	1/25	作家
141	光の海で	2009 年	和紙・木版	22.8×16.1	1/45	作家
142	路の途中で	2009 年	和紙・木版	22.9×16.1	1/45	作家
143	物語のはじまり	2009 年	和紙・木版	68.3×50.3	1/20	作家
144	ヒカリノスキマ	1991 年	和紙・水彩、コラージュ	21.8×31.0		作家
145	クロノカタチ	1993 年	和紙・モノタイプ、コラージュ	20.9×32.7		作家
146	青と茶色	1994 年	和紙・水彩、コラージュ	24.0×35.8		作家
147	ふたつの黒	1995 年	和紙・モノタイプ、コラージュ	23.4×34.2		作家
148	いつか見た空	2001 年	和紙・水彩、コラージュ	29.6×20.9		作家
149	かこまれた黄色	2002 年	和紙・モノタイプ、水彩	22.9×33.0		作家
150	雲のゆくえ	2003 年	和紙・モノタイプ、水彩	23.0×33.0		作家
151	星座のために	2007 年	和紙・モノタイプ、コラージュ	24.2×31.0		作家
152	空と石	2007 年	和紙・モノタイプ、水彩	24.2×31.0		作家
153	ふたつのあいだに	2007 年	和紙・モノタイプ、水彩、コラージュ	24.3×31.0		作家
154	星の雲	2007 年	和紙・モノタイプ、水彩、コラージュ	31.0×24.2		作家
155	風の配列	2003 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	14.5×11.8		作家
156	ひとつの赤	2003 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	11.8×14.5		作家
157	冬の日	2003 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	11.8×14.5		作家
158	夢の入口	2003 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	11.8×14.5		作家
159	orange	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	9.3×14.0		作家
160	雲のゆくえ	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	9.2×13.9		作家
161	ここから	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	14.0×9.3		作家
162	空の近く	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	9.3×13.8		作家
163	水のように	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	9.4×14.0		作家
164	ミドリノヒカリ	2009 年	ガラス・アクリル絵具、油彩	14.0×9.3		作家
165	Aqua 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	162.1×130.3		作家
166	Blue Turquoise 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	161.8×130.4		作家
167	Burnt Sienna 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	162.0×130.4		作家
168	Burnt Umber 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	130.5×89.5		作家
169	Dove Gray 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	162.0×130.3		作家
170	Peach Black 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	130.3×89.5		作家
171	Sand Beige 2008	2008 年	カンヴァス・油彩	162.0×130.1		作家
172	かこまれた黄色	2002 年	木・アクリル絵具	19.3×20.4×7.5		作家
173	黒と白のかたち	2002 年	木・アクリル絵具	12.5×28.4×4.8		作家
174	ひとつの茶色	2002 年	木・アクリル絵具	26.0×20.6×7.0		作家
175	星の器	2002 年	木・アクリル絵具	23.5×20.8×6.8		作家
176	星の屋根	2002 年	木・アクリル絵具	29.7×21.0×6.3		作家
177	塔	2006 年	木・アクリル絵具	12.0×8.9×5.1		作家
178	列	2006 年	木・アクリル絵具	11.1×18.7×3.9		作家

普及事業

◆館内解説

当館では、随時要請に応じて、以下のような館内解説を行っている。また、常設展における解説シートの作成、コレクション・レクチャー、ギャラリートークなどとの連携により、効果的な美術館ガイダンスをめざしている。

□団体解説

学校教育や学習センター等の社会教育活動の活発化に伴い、団体で美術館を訪れる機会も増えている。そのほとんどが展覧会や館内の案内・解説を希望するため、学芸員が交替で対応している。通常は他の展覧会鑑賞者への配慮から、展示室外での解説を行っている。内容は当館の概要、および代表的な収蔵品の解説、コレクション展ならびに企画展の解説案内が中心である。

4月1日～3月31日の開館期間での団体総数は124件、のべ4,998人、そのうち解説を行った団体数は75件、のべ3,740人であった。

□質問電話

当館では、展示室の各所に「質問電話」を設置し、展示品や美術全般についての観覧者からの質問に答えている。学芸員が直接応答するユニークなホットライン・サービスである。

◆鑑賞講座

国内外のさまざまな時代の美術について、多様な視点から作家・作品を解説し、楽しみながら美術への関心を高める講座である。前年度に引き続き、館長・酒井哲朗による近代日本美術史講座を開講した。

館長講座「近代の日本美術を語る」（事前申込制・31名参加）

	開催日時	テーマ
第47回	4月18日	「アンドリュウ・ワイエス～創造への道程」 ギャラリートーク
第48回	6月13日	高橋由一と東北
第49回	7月18日	「アートの遠近」展講演会
第50回	8月15日	ラゲルザと日本の近代彫刻
第51回	9月19日	近代日本画の成立

	開催日時	テーマ
第52回	10月17日	明治美術会
第53回	11月21日	明治浪漫主義
第54回	12月19日	山本芳翠の芸術
第55回	1月16日	黒田清輝と白馬会①
第56回	2月20日	黒田清輝と白馬会②
第57回	3月20日	特別編：ルノワール《帽子を被る女》

◆キッズ・レクチャー

小学生対象の美術鑑賞講座。「アート・キューブ」を使ってコレクション展を楽しむ講座。年2回開催。

日時：2009年11月21日（土）小学生 4名、保護者 3名

2010年 2月14日（日）小学生 5名、保護者 5名

案内：橋本淳也（当館主任学芸員）



◆博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格取得に必要な「博物館実習」について、当館での受講希望の学年を毎年受け入れている。

6日間のカリキュラムに基づき、当館学芸員が講義・指導を行った。

2009年度博物館実習 日程：2009年7月28日～8月2日（計6日間）

実習生：6大学 計8名受講

◆実技教室

実技教室は、実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術について理解を深めるための、子供から大人まで様々な年齢・対象に応じた実技・実習プログラムである。それぞれの対象に応じた美術の本来的な創作の体験・過程を重視し、リラックスしてあれこれ思いをめぐらしながら取り組めることを何よりも大切にして、十分な時間を設定したプログラムを実施している。

各種教室・講座は以下の5種類を行っている。一般初心者を対象に、じっくりと作品制作に取り組める「実技講座」、美術の様々な技法を紹介・体験する「技法講座」、親子で美術に親しむことを目的とした「親と子の美術教室」、小学生を対象とした「わんぱくミュージアム」、中学生から一般まで気軽に創作を体験できる「一日創作教室」である。

＜実技講座＞	
①「塊の魅力ー人体の彫刻表現」	受講者数 10 名
講師：新井浩（彫刻家・福島大学人間発達文化学類教授） 日時：5月31日、6月7日、14日、21日（日曜4回連続） 概要：座りポーズの裸婦のモデルを観察しながら粘土で量塊感の強い彫刻表現を目標に制作した。粘土の像は石膏で型取りし、着色等、表面処理の技法を施して30cm程度の大きさの作品に仕上げた。	
②「ガラスモザイクの魅力」	受講者数 11 名
講師：森敏美（画家・東北生活文化大学教授） 日程：12月13日・19日・20日・26日・27日（土曜・日曜5回連続） 概要：イタリア製のモザイク用ガラスチップを使って、模写したり自分で考案したデザインを用いて、B4判の大きさのパネルの支持体に木工用ボンドで貼り付けながら制作した。仕上げに市販の家庭用壁塗り漆喰材で目地を埋めて完成した。	
③「水墨画の可能性」	受講者数 13 名
講師：三瀬夏之介（画家、東北芸術工科大学准教授） 日程：2月27日・28日・3月6日・7日（土曜・日曜4回連続） 概要：墨と硯の使い方から始まり、漫画の模写や水墨の基本的な運筆法をとおして、画面作りや水墨の伝統的な線描、濃淡やにじみの表現等、水墨画の基礎を学んだ後、20号サイズ（72.7×53.0cm）の作品を制作した。	

＜技法講座＞

①「自然の絵の具箱」	受講者数 9 名
講師：関根秀樹（和光大学・桑沢デザイン研究所非常勤講師） 日程：9 月 12 日(土)・13 日(日) 概要：市販のチョークを砕いた粉に糊を混ぜたり、美術館の庭で採取した植物の葉をすり潰して絵の具にする他、12 種類の天然鉱物を砕いて作った顔料に市販の展色材を混ぜて作った絵の具で板に描くなど、絵の具作りの原点を体験した。	
②「ステンドグラスのサンキャッチャーをつくる」	受講者数 18 名
講師：仲澤勉（ステンドグラス作家） 日程：10 月 24 日(土)・25 日(日) 概要：自由にデザインした型紙や見本の型紙をもとにカットした色ガラスの縁に銅テープを巻いて真鍮の枠にはめてハンダ付けし、金属部分を薬品で黒く腐食して、壁掛け用の鎖をつけてサンキャッチャー（窓飾り：20×20cm 程度）を仕上げた。	

＜親と子の美術教室＞

①「親子で作ろう！オリジナルクレヨン」	受講者数 11 組 26 名
講師：小原典子（造形作家） 日程：5 月 5 日(火/祝) 概要：ミツバチの巣から得られる蜜ろう、日本画の顔料、油脂固め剤等をホットプレートで熱しながら溶かして混ぜて作った原料を、紙と油粘土を用いて自由に作った型に流して、自然な風合いを生かしたオリジナルクレヨンを作った。	
②「恐竜のタマゴをつくろう！」	受講者数 9 組 19 名
講師：天形健（福島大学人間発達文化学類教授） 日程：10 月 4 日(日) 概要：水に混ぜると固まる石膏をゴム風船に流し込み回しながら成形して大きな卵のかたちを作った。さらにどんな恐竜が生まれてくるか想像してアクリル絵の具で卵に模様や色をつけたり、紙粘土で生まれてくる恐竜の子どもも作った。	
③「木のおもちゃを作ろう！」	受講者数 4 組 10 名
講師：古川秀樹（日本おもちゃ会議会員） 日程：12 月 6 日(日) 概要：電動糸鋸を使って、木を各自のアイディアで自由なかたちに切って、木工用着色料で色をつけ、針金の腕を差し込んで連結し、支柱に乗せてバランスを工夫しながらやじろべえの原理のおもちゃを作った。	

＜わんぱくミュージアム＞		
①「空想動物園をつくろう！」		受講者数 12 名
講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：8 月 9 日(日) 概要：大きな紙を床や壁、身の回りものにあて、クレヨンや鉛筆等で物の凹凸の表情をこすりだしたり、紙を貼り付けたり、アクリル絵の具で着色して空想の動物を描き、美術館ホールの壁に貼って鑑賞した。		
②「形の変わる絵を作ろう！」		受講者数 6 名
講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：11 月 8 日(日) 概要：厚紙を切り抜いて、本体とパーツ（人間や動物、鳥や昆虫では体本体と顔や手足、羽根など）を別々に作り、工芸用のハトメで止めてアクリル絵の具で着色し、パネル（25.7 × 36.4 cm 程度）に貼り付け、形を変えて楽しめる絵を作った。		
③「長〜い絵を描こう！」		受講者数 16 名
講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：3 月 22 日(月/祝) 概要：28 cm × 6 m の紙を部分的に描いては巻き送りしながら、お話を読み進める感じで巻物を制作した。色鉛筆、クレヨン、ポスターカラー、発泡スチロールのスタンプなどで絵柄を作り、軸と紐をつけて巻物に仕上げた。		

＜一日創作教室＞		
①「合板を組み合わせて作る彫刻」		受講者数 5 名
講師：久慈伸一（当館主任学芸員） 日程：7 月 19 日(日) 概要：版木に用いるシナベニヤ板（45×60cm、5.5mm 厚）を電動糸鋸で切り抜いて、板の溝どうしを差し込んで組み合わせ、立体性と絵画性を併せ持つ現代的な造形感覚の彫刻を各自のテーマやアイディアに基づいて作った。		
②「光を描く〜メゾチント入門」		受講者数 14 名
講師：橋本淳也（当館主任学芸員） 日程：1 月 31 日(日) 概要：光と陰影の微妙な美しい諧調を表現できる凹版画技法メゾチント（英語で mezzotint：中間の調子）。身近な小物や写真をもとに、市販の 75×130mm のアルミ製のメゾチントプレートを使ってモノトーン作品を制作した。		

◆学校連携事業

□先生のための美術館入門（事前申込み制）

美術鑑賞教育の新たな展開を模索する目的で、先生を対象に広く参加者を募り、より実践的な普及・研究活動を目指して開催している。教師用手引き書『教師のためのやさしい美術館ガイドブック「美術館を楽しもう！」』をもとに美術館の利用方法・状況を紹介。また鑑賞用補助教材「アート・キューブ」やワークシートなどを使用した鑑賞活動例を報告し、その効果を検証している。そして開催中の企画展を鑑賞し、ギャラリートークや講演会を通して内容と見どころを解説した。

学校の窓口である先生を通じて、こども達の鑑賞活動を啓発するとともに、学校・美術館における美術や美術教育に関する幅広い情報交換が行なわれる機会となっており、団体見学や学校連携共同ワークショップなど当館の他の事業・活動への新規参加につながるケースも少なくない。

日 時：企画展開催期間中の土曜または日曜 午後２時間程度

場 所：美術館講義室・展示室

定 員：小・中・高校・特別支援学校などの教員、教師

内 容：教師用ガイドブックによる美術館利用方法の紹介及び鑑賞用教材の使用実践報告と検証。

企画展（ギャラリートークまたは講演会）鑑賞。

講 師：企画展担当学芸員、学校連携担当学芸員

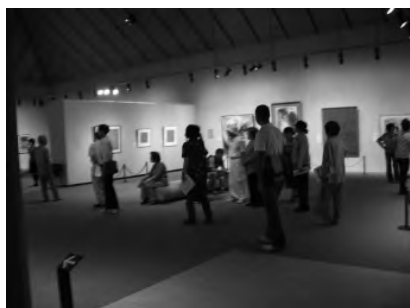
経 費：交通費は参加者の自己負担とし、企画展の観覧料を免除する。

教師用手引き書と「アート・キューブ」ガイドブック、パンフレットを無償配布。

【開催日程】

2009年8月29日(土) 「アートの遠近～福島県立美術館のすべて」 参加人数：4名

2010年2月21日(日) 「山中 現 展」 参加人数：7名



「先生のための美術館入門」実施風景（8月29日開催）

□学校連携共同ワークショップ

現在活躍中の作家を講師に招き、美術館学芸員と学校を訪問して創作活動を行なう出張ワークショップである。児童・生徒が作家との交流や作品制作を通して「美術」を肌で感じ、美術や美術館により親しんでもらうことを目的に開催している。学校における通常の1～2時間単位の授業とは異なり、活動に集中する十分な時間と環境を確保できるように、半日～1日の時間を学年単位や全校生でも創作活動を行なえるように設定している。また、学校ではあまり取りあげられていない素材や技法を紹介し、新鮮な体験を通して関心を高めるよう配慮している。また、美術館も学校を訪問することで美術館への理解・協力を深めるねらいもある。

ワークショップで制作した作品のうち移送可能なものは館に移送して紹介展示し、美術館への来館を促すとともに、地理的に美術館を利用しづらい学校へも事業の還元・普及をはかる。

日 程：4月～6月：広報・参加校募集期間

7月：受講通知発送・日程調整

8月～9月：連携協議会（講師・担当教諭各校1名・担当学芸員） 当館実習室 1日

内容調整・準備

10月～11月：ワークショップ開催 各学校 半日～1日

12月～1月：紹介展示 当館エントランスホール

場 所：各学校（教室・多目的ホール・美術室・体育館など）

対 象：県内小・中・高校・特別支援学校から3校 各40名程度（申込み多数の場合は抽選）

経 費：材料等は講師の助言のもと各学校で準備。旅費・謝金は美術館で負担する。

2009年度 学校連携共同ワークショップ「手づくりメディアアート」概要

光、映像などの原理や性質を利用した講師の作品を紹介し、身近な素材で作品をつくる2種類のワークショップを開催した。

2つの小学校では、講師考案の「光の箱」を制作した。はじめに講師の作品を鑑賞したり、光の3原色（赤青緑）のフィルターを通した光源で影絵をして「光」に親しむ体験をした。白段ボール製の箱（正面・背面の抜けた枠）を組み立て、正面にはトレーシングペーパーのスクリーンを貼った。この枠内にミラーフィルムを「円」「ハート」「なみだ」などの形状の「筒」にしてバランスをとりながら詰めていき、最後に帯状に切った4色（赤青黄緑）のカラーセロハンを好みにあわせて、背面に貼りつけて完成。ハサミで切る、テープでとめるなど小さな子にも無理のない工程で制作できた。作品を光源に向けて、カラーセロハンを透過する光がミラーフィルム内で乱反射し、色同士が様々に溶けあって、鮮やかな色の燦めきとなって写し出された。時間を忘れて作品に見入っている子ども達の姿が印象的だった。

富岡高校川内校では、生徒たちが4グループに分かれて「実写コマ撮りアニメーション」の制作に挑戦した。交互にモデルになりながら、少しずつ動いては三脚に固定したデジタルカメラで定点撮影して画像を撮りためていった。時々連続再生して動きを確認し、意見交換し、試行錯誤しながら撮影は進んでいった。「床をすべるように進む。」「テニスラケットに乗って飛ぶ。」「大ジャンプして消える。」などとてもユニークな動きの楽しい作品に仕上がった。この川内校は次年度末に閉校となるとのことで在校生は2・3年生のみであったが、校舎のお気に入りの場所を舞台に、自分達の普段着の一面を映像作品に残すことができていたようである。

身の回りにあふれ、目には見えているのに手に取る事のできない光、動き、残像。その効果や面白さ、美しさを「アート」と「科学」の接点にあるメディアアート作品の制作を通して体感する事ができた。

●講師：松村泰三氏（メディアアーティスト・東北芸術工科大学准教授）

●開催校一覧

10月13日(火)	伊達市立小手小学校 全校生20名	「光の箱をつくろう！」	担当教諭：佐藤 健 先生
10月29日(木)	富岡高等学校川内校 2・3年生13名	「みんなでつくるアニメーション」	担当教諭：香西太二郎 先生
10月30日(金)	郡山市立宮城小学校 全校生62名	「光の箱をつくろう！」	担当教諭：本多 淳嗣 先生

●紹介展示

2009年12月5日(土)～1月31日(月) 美術館エントランスホール・企画展示室B

企画展『美術館で作る楽しみ、描く喜び』と会期をあわせてワークショップ概要・活動記録写真・全生徒作品を展示した。



小手小学校 (10/13)



富岡高校川内校 (10/29)



宮城小学校 (10/30)



美術館での紹介展示



◆美術館への年賀状展

福島県立美術館の新春恒例の事業として、県内の小中学生から寄せられた手作り年賀状をすべて当館エントランスホールに展示した。

干支の「寅」をモチーフにした作品やお正月の風物を描いた作品の割合が高く、技法・表現は水彩・鉛筆・色鉛筆・墨・ペンなどの様々な描画材を使用した作品、黒画用紙を切り抜いた切り絵作品、木版画・ステンシル・野菜スタンプなどの版画作品、折り紙や布などを貼り込んだ貼り絵・コラージュ作品など工夫された作品が多かった。絵柄だけでなく「新年の目標」や「友達へのメッセージ」が書かれており、作品に込めた子供達の気持ちが率直に感じられた。また、授業などで作った作品をまとめて送付する学校の割合が高かった。

会 期：2010 年 1 月 10 日(日)～ 31 日(日)

応募数：小学生 565 通／中学生 44 通／学年不明その他 8 通 総計 617 通

学 年	小学 1 年	小学 2 年	小学 3 年	小学 4 年	小学 5 年	小学 6 年	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
枚 数	30 通	374 通	4 通	110 通	28 通	19 通	16 通	28 通	0 通



◆館外での活動

□講演／講義／委員等

- ・福島民友新聞社「ふるさとふくしまフォト・コンテスト」審査委員長 伊藤匡
- ・第 63 回県展運営委員会委員 伊藤匡
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事 伊藤匡
- ・福島市写真美術館運営委員 久慈伸一（2006 年度～）
- ・福島大学芸術による地域創造研究所プロジェクト客員研究員 増渕鏡子・橋本淳也
- ・西会津国際芸術村「第 4 回西会津国際芸術村公募展 2009」審査員 橋本淳也
- ・桜の聖母短期大学生涯学習センター講師「ピカソの絵の魅力ーピカソの人生と平和へのメッセージ」 荒木康子 2009 年 6 月 13 日
- ・福島県教育センター「図画工作・美術の鑑賞指導法講座」講師 橋本淳也 2009 年 11 月 5 日
- ・本宮市文化団体連絡協議会指導者研修会講演会講師「蛇の鼻に集った画家たちー勝田蕉琴・石井柏亭」増渕鏡子 2010 年 2 月 6 日
- ・福島大学講座「現代の美術」特別講師 増渕鏡子 2010 年 2 月 9 日
- ・常葉学園大学公開研究会講師「アンドリュウ・ワイエスの絵画芸術」 荒木康子 2010 年 2 月 17 日

◆その他の事業

□福島県立図書館との連携事業

・「アートな おはなしかい」

県立図書館での絵本の読み聞かせと美術館常設展示室での「アート・キューブ」を使った鑑賞を組み合わせた事業。

日時：2009 年 7 月 25 日(土) 午前と午後の 2 回開催

対象：小学生とその保護者 午前の回 28 名／午後の回 27 名

案内：真柴 毅（アート・キューブ開発者、福島県立本宮高等学校教諭）

相馬 亮（桜の聖母学院高等学校・中学校教諭）

奥山陽介（桜の聖母学院小学校教諭）

松浦 健（福島市立森合小学校教諭）

佐藤真理恵、小林沙織（福島県立図書館副主任司書）

橋本淳也、吉村有子（当館主任学芸員）



□図書ボランティア

前年度から、二時資料整理作業の補助として福島大学の学生ボランティアを継続して受け入れた。書庫での図書配架、新聞資料のファイリングなどを行った。学生 37 名と卒業生 1 名が登録し、おおむね隔週 1 回程度、14 時から 17 時まで、館内でのべ 18 日間（のべ人数 71 名）が作業を行った。

◆広報活動

- ・美術館案内、展覧会スケジュール、チラシ等を館内で配布
- ・企画展ごとにポスター、チラシ、割引券等を配布
- ・県発行の広報誌に事業案内を掲載
- ・その他、随時広報活動を行った。

□ 2009 年度 新聞掲載記事一覧

【常設展示、移動展】

「レジェ版画展が開幕 県立美術館 画集作品そろそろ」『福島民友』2009 年 5 月 31 日
 「レジェ [サーカス] 展開幕 県立美術館前期は 14 日まで」『福島民報』2009 年 6 月 1 日
 「レジェ [サーカス] 展」『朝日新聞 (福島版)』2009 年 6 月 3 日
 「親子に大道芸披露 展示にちなみ県立美術館」『福島民報』2009 年 6 月 24 日
 「世界の名作版画触れて 24 日から三島 県立美術館移動展」『福島民友』2009 年 10 月 22 日
 「ピカソ、ルオー版画並ぶ 三島 8 日まで県立美術館移動展」『福島民報』2009 年 10 月 26 日

【教育普及】

「25 日にアートなおはなしかい 福島」『福島民報』2009 年 7 月 22 日
 「親子でアートに触れる 読み聞かせや作品鑑賞 福島」『福島民報』2009 年 8 月 7 日
 「手作り年賀状寄せて 来月まで県立美術館 小中学生が対象」『福島民報』2009 年 12 月 11 日
 「個性豊かな年賀状 617 点 福島の県立美術館 小中学生の力作並ぶ 31 日まで」『福島民報』2010 年 1 月 11 日
 「創造力豊かな年賀状展示 福島県立美術館」『河北新報』2010 年 1 月 12 日
 「31 日まで福島で年賀状展」『福島民友』2010 年 1 月 15 日

【開館 25 周年関連】

「今夏にはシンポ開催秋にはコンサート 県立美術館協力会 創立 5 周年と開館 25 周年記念」『福島民報』2009 年 5 月 30 日
 「福島の県立美術館 25 周年記念 19 日シンポ」『福島民報』2009 年 7 月 12 日
 「厳選収蔵作品 400 点並ぶ きょうから県立美術館 25 周年記念」『福島民友』2009 年 7 月 18 日
 「県立美術館の将来像考える 開館 25 周年でシンポ」『福島民報』2009 年 7 月 20 日
 「県立美術館 変革の時だ」(論説) 鞍田炎 『福島民報』2009 年 7 月 25 日
 「県立美術館開館 25 周年でシンポ 抄録」『福島民報』2009 年 7 月 27 日
 「美の多様性を巡る世界 県立美術館で 9 月 27 日まで開館 25 周年記念企画展」『福島民友』2009 年 7 月 29 日
 「県立美術館 25 周年協力会 5 周年記念 天満さん演奏披露」『福島民報』2009 年 10 月 1 日

【作品収集】

「心動かす大作アート 二本松で高橋さん企画展 県立美術館に作品収蔵記念」『福島民友』2009 年 5 月 22 日
 「県立博物館・図書館・美術館 三施設の機能充実へ 改修や書籍、作品を購入」『福島民報』2009 年 9 月 10 日
 「収蔵品購入へ 3 億円 県立美術館」『福島民友』2009 年 9 月 10 日
 「ルノワール、橋本氏、室井氏の作品 3 億円で購入へ 県立美術館」『福島民報』2010 年 3 月 20 日
 「県立美術館のルノワール《帽子を被る女》1 億 290 万円で購入」『福島民報』2010 年 3 月 25 日
 「県立美術館 27 作家、162 点作品購入 室井東志生氏やルノワール」『福島民友』2010 年 3 月 25 日
 「県立美術館 久々の高額作品購入 海外や本県ゆかりの作家」『福島民報』2010 年 3 月 25 日
 「県立美術館 魅力高めよ 新収蔵品」『福島民報』2010 年 3 月 30 日
 「県立美術館新コレクション 162 点 [25 周年の贈りもので充実] 17 日から企画展で公開」『福島民友』2010 年 3 月 31 日

【友の会、協力会】

「27 日にチャリティーバザー 県立美術館友の会 絵画など販売」『福島民報』2009 年 9 月 19 日
「県立美術館友の会 27 日アートチャリティーバザー」『福島民報』2009 年 9 月 25 日
「県立美術館友の会がバザー 掛け軸や絵画 500 点出展」『福島民報』2009 年 9 月 28 日
「美術品など安価で販売 県立美術館友の会バザー盛況」『福島民報』2009 年 9 月 28 日
「鮮やか絵巻物映画 31 日、監督トークショー」『朝日新聞 (福島版)』2010 年 1 月 15 日
「[山中常盤] を上映、30 日から福島で」『福島民報』2010 年 1 月 18 日
「上松美香さんのアルパ無料公演 6 日、県立美術館で」『朝日新聞 (福島版)』2010 年 3 月 4 日
「あす上松さん演奏会 県立美術館でアルパの調べ」『福島民報』2010 年 3 月 5 日

【その他】

「美術館とまちづくり考える」小野伸一郎『福島民報』2009 年 5 月 13 日
「県民と歩む美術館に」(論説) 鞍田炎『福島民報』2009 年 5 月 30 日
「26 万 4190 円不適切会計 県立美術館と県立 5 校」『福島民報』2009 年 6 月 9 日
「26 万超 不正経理 県立美術館 5 高校」『福島民報』2009 年 6 月 9 日
「前衛画家の亡父語る 俳優・寺田農さん講演 あす県立美術館で」『朝日新聞 (福島版)』2009 年 7 月 30 日
「人が担う地方文化」(論説) 鞍田炎『福島民報』2009 年 10 月 19 日
「6 文化施設で連携事業 県と県教委方針」『福島民報』2009 年 11 月 30 日
「若手美術家アート語る 福島大 60 周年記念公開講座」『福島民報』2009 年 12 月 2 日
「県立美術館初の実施 図録の値引き販売開始」『福島民報』2009 年 12 月 7 日
「スタジオジブリレイアウト展 11 年春、福島で開催へ」『福島民報』2009 年 12 月 11 日
「愛情たっぷり ハート型の小物 バレンタインアート教室」『福島民報』2010 年 2 月 11 日

◆出版発刊

□ 2009 年度刊行物一覧

	出版物名	規格	配布方法	内容
1	ミュージアム・カレンダー	B5 判・三つ折り	無償	年間事業計画
2	美術館ニュース (年 6 回発行)	21×38cm・四つ折り	無償	2 か月ごとの事業紹介
3	移動展リーフレット	A3 判・二つ折り	無償	出品作品紹介

◆ホームページ

福島県立美術館ホームページは 1999 年 10 月 21 日に開設。2003 年 3 月 7 日よりサーバ移行にともなう URL 変更を経て現在に至っている。ホームページでは展覧会をはじめ各種事業の紹介のほか、美術館の利用に関する様々な情報を広く提供している。

<ホームページ・アドレス> <http://www.art-museum.fks.ed.jp>

□ 2009 年 1 月～ 12 月のアクセス状況

リクエスト成功件数 *1	5,215,680
上記の日別平均	14,289
ページリクエスト成功件数 *2	410,285
上記の日別平均	1,124

*1：アクセスしたユーザーが、正常にデータを読み込むことができた件数。サーバ上にあるファイルすべてを対象とする。

*2：「リクエスト成功件数」と異なり、サーバ上のファイルのうち HTML ファイルのみ対象とした件数（ページビュー）。

調査研究

◆調査研究事項

- | | | | |
|---------------|--------------|----------|------------|
| (1)作家調査 | (2)作品調査 | (3)技法調査 | (4)美術史調査 |
| (5)保存関係調査 | (6)教育普及調査 | (7)展覧会調査 | (8)美術館運営調査 |
| (9)県内外の展示施設調査 | (10)美術館利用者動向 | | |

◆重点調査事項

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。当館では県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

2008年度は前年度に引き続き、版画家斎藤清の関連資料調査を行った。

◆企画展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室内に置かれたアンケートに観覧者が任意に記入。
数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名	アンドリュー・ワイエス展	レジェ サークス展	アートの遠近展 1F	アートの遠近展 2F	文化の力展	アルバム展	山中現展
会 期 (開催日数)	3/17-5/10 (45 日間)	5/30-6/28 (26 日間)	7/18-9/27 (62 日間)	7/18-9/27 (62 日間)	10/10-11/23 (39 日間)	12/5-1/31 (43 日間)	2/13-3/22 (33 日間)
1- 性別							
女性	59.5	59.8	59.6	53.7	47.2	68.0	63.6
男性	38.1	40.2	40.4	46.3	52.8	32.0	36.4
2- 年齢							
10 歳未満	3.9	3.1	7.4	8.9	1.9	8.9	4.5
10 歳代	13.1	15.3	23.7	44.1	3.8	17.9	8.9
20 歳代	10.9	12.2	9.7	11.1	5.6	8.9	11.2
30 歳代	12.0	4.1	7.0	5.6	7.5	17.9	13.8
40 歳代	14.4	14.3	14.2	8.5	13.8	14.3	13.8
50 歳代	20.1	11.2	15.8	11.9	18.1	10.7	20.1
60 歳代	17.1	24.5	14.0	5.6	29.4	14.3	19.0
70 歳以上	8.3	15.3	8.1	4.4	20.0	7.1	8.9
3- 居住地							
県北	39.2	53.5	42.9	56.1	47.2	67.2	51.3
県中・県南	13.3	10.1	14.2	9.8	12.4	17.2	12.9
会津	6.7	7.1	5.3	3.5	3.7	1.7	8.4
浜通り	6.1	2.0	5.1	2.5	4.3	1.7	3.8
県外	34.8	27.3	32.5	28.1	32.3	12.1	23.6
4- 仕事							
勤めている	32.8	28.3	32.2	22.4	39.6	29.3	40.6
自営	7.2	5.1	3.8	4.3	9.4	8.6	12.2
主婦・主夫	13.9	16.2	13.0	6.5	14.5	5.2	16.2
学生・生徒・児童	16.8	23.2	35.5	53.4	8.2	29.3	15.5
就労はしていない	11.9	17.2	11.3	9.0	20.1	19.0	10.7
その他	17.4	10.1	4.2	4.3	8.2	8.6	4.8
5- 来館交通手段							
公共交通機関	20.5	26.0	20.0	24.6	28.3	18.0	20.7
タクシー	1.0	1.0	1.1	1.7	2.5	0.0	0.4
観光バス	1.0	1.0	2.6	1.4	2.5	0.0	0.4
自家用車・バイク	69.8	48.1	64.5	48.4	53.5	82.0	65.6
自転車・徒歩	6.8	21.2	10.5	23.2	9.4	20.0	11.5
その他	0.9	2.9	1.3	0.7	3.8	0.0	1.5

展覧会名	アンドリュース・ワイエス展	レジェ・サーカス展	アートの遠近展 1F	アートの遠近展 2F	文化の力展	アルバム展	山中現展
6- 来館人数							
1 人	27.2	41.4	24.1	25.4	45.6	35.7	41.2
2 人	43.4	35.4	39.4	21.9	35.4	23.2	41.2
3～5 人	25.4	15.2	27.6	23.3	13.9	41.1	15.0
6～9 人	1.2	3.0	1.5	6.4	0.0	0.0	1.1
10 人以上	2.8	5.1	7.4	23.0	3.1	0.0	1.5
7- 展覧会情報入手方法							
ポスター	14.3	15.7	7.8	8.3	16.7	11.7	15.1
美術館ニュース	6.5	9.3	6.5	4.0	14.9	21.7	8.6
美術館に来て	5.3	26.9	23.1	26.3	17.2	41.7	7.2
県政番組・県の情報誌	1.8	0.9	2.5	1.1	3.4	0.0	1.3
テレビの番組	14.0	7.4	3.2	1.4	0.0	0.0	3.3
テレビ CM	12.3	3.7	1.3	0.7	1.1	5.0	1.3
ラジオ	1.2	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0
美術雑誌・全国情報誌	1.9	0.0	1.7	2.9	1.7	0.0	1.6
新聞・地域情報誌	15.0	12.0	13.0	6.1	13.2	3.3	15.8
折り込みチラシ	0.8	0.9	1.1	1.1	0.6	0.0	0.0
当館のホームページ	2.9	2.8	8.6	9.0	4.0	5.0	4.9
インターネット	5.0	4.6	6.3	6.5	2.9	0.0	5.6
友人・知人に聞いて	13.6	9.3	11.6	16.2	16.7	5.0	20.7
その他	5.5	6.5	13.2	16.2	7.5	6.7	14.5
8- 展覧会情報入手場所							
この美術館で	14.0	45.7	40.3	32.7	23.8	56.6	19.8
他の美術館・博物館で	8.0	5.3	2.4	2.6	9.4	0.0	4.9
学校で	8.9	4.3	10.0	29.7	3.1	7.5	3.0
職場で	5.9	0.0	1.7	1.5	8.8	5.7	10.3
街頭で	2.8	0.0	0.9	0.4	3.8	0.0	2.3
銀行や病院で	0.5	0.0	0.2	0.7	1.9	0.0	0.4
役所や公民館で	3.2	4.3	2.4	1.9	3.8	1.9	3.8
家で	42.9	33.0	31.3	17.8	25.0	18.9	33.5
その他	14.0	7.4	10.9	12.6	20.6	9.4	22.1
9- 展覧会の評価							
たいへんよい	61.7	19.2	38.8	32.3	49.4	44.6	49.6
よい	30.3	42.4	39.7	36.8	35.0	39.3	34.4
普通	6.8	34.3	19.5	22.6	12.5	10.7	10.4
あまりよくない	0.8	2.0	1.1	4.9	2.5	5.5	4.4
悪い	0.4	2.0	0.9	3.5	0.6	0.0	1.1
10- 来館回数							
はじめて	28.1	28.9	44.2	39.7	23.9	22.4	20.0
数年に 1 回	23.3	10.3	13.3	15.2	13.8	13.8	11.3
年 1 - 2 回程度	28.6	25.8	16.8	23.8	20.8	17.2	28.7
年 3 - 5 回程度	15.1	20.6	16.8	11.9	24.5	19.0	25.7
年 6 - 9 回程度	3.4	8.2	5.8	3.6	13.8	12.1	10.2
年 10 回以上	1.6	6.2	3.1	5.8	3.1	15.5	4.2
11- 企画展・常設展以外での当館の利用							
講演会	11.3	15.3	14.2	18.7	15.1	11.8	14.7
美術鑑賞講座	10.7	6.8	10.4	9.8	13.2	19.6	10.0
ギャラリートーク	11.7	11.9	13.7	13.8	20.8	7.8	16.5
映画会	6.5	10.2	6.0	6.5	10.4	3.9	10.0
実技講座	5.2	3.4	4.4	4.1	2.8	11.8	8.8
レストラン	48.1	39.0	42.6	40.7	35.8	33.3	32.4
その他	6.5	13.6	8.7	6.5	1.9	11.8	7.6
記入枚数	1,383	99	459	290	161	59	273

◆常設展アンケート結果

アンケート記入方式：会期中毎日、展示室出口に置かれたアンケートに観覧者が任意で記入。
数値は%で示し、1%未満は四捨五入した。

展覧会名 会 期 (開催日数)	コレクション展Ⅰ 4/7-7/12 (74 日間)	コレクション展Ⅲ 1/6-3/31 (73 日間)
1- 作品数		
多い	17.3	23.1
適当	68.4	63.0
少ない	14.3	13.9
2- 展示の仕方		
大変良い	16.6	27.0
良い	40.6	45.9
普通	32.5	22.5
あまり良くない	9.2	4.5
悪い	1.1	0.0
3- 展示内容		
大変良い	21.7	36.9
良い	39.9	37.8
普通	28.1	21.6
あまり良くない	8.4	3.6
悪い	1.9	0.0
4- テーマ展示		
大変良い	—	—
良い	—	—
普通	—	—
あまり良くない	—	—
悪い	—	—
5- 企画展は見るか		
これから見る (すでに見た)	88.9	86.2
見ない	11.1	13.8
6- 性別		
女性	59.6	50.0
男性	40.4	50.0
7- 年齢		
10 代未満	5.3	8.3
10 代	20.5	19.3
20 代	10.6	10.1
30 代	8.7	17.4
40 代	17.0	10.1
50 代	18.9	13.8
60 代	12.5	13.8
70 代以上	6.4	7.3
8- 住まい		
福島市内	24.6	44.0
中通り	19.7	21.1
会津	5.3	2.8
浜通り	5.7	4.6
他県	44.7	27.5
9- 何人で来館したか		
1 人	30.3	30.0
2 人	28.5	37.3
3～5 人	30.3	28.2
6～9 人	1.1	0.9
10 人以上	1.9	1.8
20 人以上	7.9	1.8
10- 年間利用回数		
初めて	44.4	42.2
数年に 1 回	20.5	10.1
年 1～2 回程度	19.0	17.4
年 3～5 回程度	11.6	17.4
年 6 回以上	4.5	12.8
記入枚数	272	114

収 集

◆美術作品および美術資料の収集

□収集方針

収集の対象は、明治（近代）以降の優れた美術作品とし、美術史の流れを知る上で欠かせない優れた古美術も対象としている。具体的な方針としては、以下の4つを掲げている。

- (a) 福島県の出身もしくはゆかりのある作家、作品
- (b) 日本美術の流れを展望するにふさわしい作品
- (c) 海外の優れた美術
- (d) その他当館の収蔵作品としてふさわしい作品や美術資料

□収蔵作品数一覧（2010年3月31日現在）

種 別	購入点数	受贈点数	移管点数	合 計
海 外（絵画・版画・彫刻）	422	10	0	432
日 本 画	76	99	116	291
洋 画	109	263	98	470
素描・下絵	34	33	11	78
版 画	268	442	40	750
写 真	20	343	0	363
立 体	14	20	48	82
工 芸	76	39	33	148
書	0	1	36	37
美術資料	0	21	53	74
合 計	1,019 点	1,271 点	435 点	2,725 点

※「写真」分野は、これまで美術資料として一括で収蔵していたが、今年度から切り離して個別に作品として計算した。
そのため収蔵総数合計は、昨年度までの収蔵点数に今年度の収蔵点数を加え、さらに315点の増となった。

□2009年度収蔵作品

分野	作家名	点数
海外	カミーユ・コロー	1 点
	オーギュスト・ルノワール	1 点
	ジョルジュ・ルオー	1 点
	オノレ・ドーミエ	42 点
	ベン・シャーン	1 点
日本画	齋藤隆	1 組（7 点）
	室井東志生	1 点
洋画	宇田義久	1 組（2 点）
	加藤学	2 点
	小林浩	1 点

	佐藤幸代	1 点
	高橋克之	2 点
	高橋幸彦	1 点
	西村榮悟	1 点
版画	安部直人	12 点
	国吉康雄	2 点
	長谷川雄一	7 点
	丸山浩司	3 点
	山中現	11 点、4 組 (34 点)
写真	瀬戸正人	1 組 (20 点)
立体	安藤栄作	1 点
	石田智子	1 点
	川島清	1 点
	北郷悟	1 点
	橋本堅太郎	1 点
	佐藤朝山 (玄々)	2 点
工芸	宗像利浩	2 点
合計		162 点

□新収蔵作品一覧

1. カミーユ・コロー (1796-1875)
 ヴィル・ダヴレー 林をぬけてコロー家
 へ向かう池沿いの道
 1873 年
 カンヴァス・油彩
 50.0×65.3 cm

購入



2. オーギュスト・ルノワール (1841-1919)
 帽子を被る女
 不詳
 カンヴァス・油彩
 30.0×25.5 cm

購入



3. ジョルジュ・ルオー (1871-1958)
 超人
 1916 年
 紙・油彩
 104×74 cm

購入



4. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
 古典悲劇の表情 1
 1841 年 1 月 10 日
 紙・リトグラフ
 21.0×26.5 cm

購入



5. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
 そんじょそこらで、てんやわんや 9
 1841 年 7 月 11 日
 紙・リトグラフ
 24.3×19.6 cm

購入



6. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
 古代史 14 オデュッセウスとペネロペイア
 1842 年 6 月 26 日
 紙・リトグラフ
 22.4×19.5 cm

購入



7. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
古代史 18 時代の名言
1842 年 7 月 10 日
紙・リトグラフ
24.5×19.3 cm

購入



8. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
古代史 40 カリュプソの嘆き
1842 年 12 月 8 日
紙・リトグラフ
24.6×20.1 cm

購入



9. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
議員たちのいる風景 3
1843 年 5 月 24 日
紙・リトグラフ
23.7×20.2 cm

購入



10. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
解釈の問題 5
1843 年 10 月 22 日
紙・リトグラフ
24.0×20.7 cm

購入



11. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
解釈の問題
1843 年 10 月 26 日
紙・リトグラフ
24.0×20.5 cm

購入



12. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
中国を旅すれば 1 上陸
1843 年 12 月 29 日
紙・リトグラフ
20.6×26.9 cm

購入



13. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
人生のうるわしき日々 12 公演初日
1844 年 5 月 19 日
紙・リトグラフ
27.9×23.1 cm

購入



14. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
中国を旅すれば 12 中国の競馬
1844 年 9 月 15 日
紙・リトグラフ
20.9×26.3 cm

購入



15. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
教師と悪童
1845 年 12 月 24 日
紙・リトグラフ
18.9×24.5 cm

購入



16. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
悲劇 3
1848 年 2 月 9 日
紙・リトグラフ
20.8×24.3 cm

購入



17. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 6 デュフォール
1848 年 12 月 22 日
紙・リトグラフ
24.0×19.1 cm

購入



18. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 8 ピエール・ルルー
1848 年 12 月 30 日
紙・リトグラフ
25.6×19.6 cm

購入



19. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 12 バスティード

1849年12月24日
紙・リトグラフ
25.9×18.0 cm

購入



20. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 15 オディロン・パロ

1849年1月17日
紙・リトグラフ
25.3×18.7 cm

購入



21. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 23 セナール

1849年2月28日
紙・リトグラフ
25.0×18.5 cm

購入



22. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 24 プレイ(ド・ラ・ムルト)

1849年2月23日
紙・リトグラフ
25.5×19.7 cm

購入



23. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 25 フェルディナン・フロコン

1849年3月6日
紙・リトグラフ
24.3×19.0 cm

購入



24. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 28 アルタロッシュ

1849年3月24日
紙・リトグラフ
25.2×20.1 cm

購入



25. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 33 シャンガルニエ

1849年4月2日
紙・リトグラフ
27.2×19.3 cm

購入



26. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 38 デュケー

1849年4月21日
紙・リトグラフ
25.5×19.0 cm

購入



27. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 41 ダンジョワ

1849年5月2日
紙・リトグラフ
24.8×19.4 cm

購入



28. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 3 ルプルドン

1849年6月13日
紙・リトグラフ
25.8×21.5 cm

購入



29. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 6 グランダン

1849年6月27日
紙・リトグラフ
26.1×18.9 cm

購入



30. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 7 モンタランベル

1849年7月2日
紙・リトグラフ
25.4×19.5 cm

購入



31. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 11 プーパン
1849年7月16日
紙・リトグラフ
26.2×20.2 cm 購入



32. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 14 ララビット
1849年7月27日
紙・リトグラフ
25.8×19.9 cm 購入



33. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 17 ド・サン＝
プリエスト 1849年8月18日
紙・リトグラフ
26.1×18.3 cm 購入



34. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 19 ルシアン・ミュラ
1849年8月29日
紙・リトグラフ
26.1×19.9 cm 購入



35. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
当世代議士鑑 立法議会 24 コルヌ
1849年10月29日
紙・リトグラフ
25.7×18.9 cm 購入



36. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
平和会議 みやげ話 1
1849年9月6日
紙・リトグラフ
20.9×25.7 cm 購入



37. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
平和会議 みやげ話 3
1849年9月8日
紙・リトグラフ
19.9×26.0 cm 購入



38. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
議会百面相 12
1849年11月30日
紙・リトグラフ
26.3×22.5 cm 購入



39. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
議会百面相 28
1850年12月5日
紙・リトグラフ
26.7×22.2 cm 購入



40. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
できごと 81
1850年
紙・リトグラフ
21.5×26.8 cm 購入



41. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
日々の出来事 (アクチュアリテ)
1851年1月1日
紙・リトグラフ
20.9×25.7 cm 購入



42. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
日々の出来事 (アクチュアリテ)
1851年1月4日
紙・リトグラフ
20.9×26.6 cm 購入



43. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
日々の出来事 (アクチュアリティ)

1851 年 9 月 12 日
紙・リトグラフ
22.2×22.0 cm

購入



44. オノレ・ドーミエ (1808-1879)
日々の出来事 (アクチュアリティ)

1858 年 9 月 18 日
紙・リトグラフ
20.2×26.0 cm

購入



45 オノレ・ドーミエ (1808-1879)
日々の出来事 (アクチュアリティ)

1859 年 3 月 8 日
紙・リトグラフ
22.1×26.5 cm

購入



46. ベン・シャーン (1898-1969)
詩篇 133

1963 年
紙・リトグラフ
66.0×55.0 cm

購入



47-1. 斎藤隆 (1943-)
貌 I

2003 年
楮紙・墨
90.1×60.1 cm

購入



47-2. 斎藤隆 (1943-)
貌 II

2003 年
楮紙・墨
90.1×60.1 cm

購入



47-3. 斎藤隆 (1943-)
貌 III

2003 年
楮紙・墨
90.0×60.0 cm

購入



47-4. 斎藤隆 (1943-)
貌 IV

2003 年
楮紙・墨
90.1×60.1 cm

購入



47-5. 斎藤隆 (1943-)
貌 V

2003 年
楮紙・墨
90.1×60.1 cm

購入



47-6. 斎藤隆 (1943-)
貌 VI

2005 年
楮紙・墨
90.2×60.2 cm

購入



47-6. 斎藤隆 (1943-)
貌 VII

2005 年
楮紙・墨
90.2×60.2 cm

購入



48. 室井東志生 (1935-)
僚

1984 年
紙本着色
189.4×148.6 cm

購入



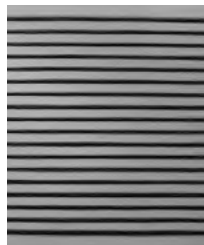
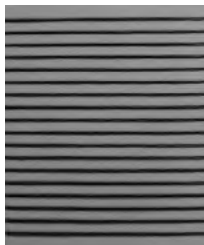
49. 宇田義久 (1966-)

FRAG

2003 年

パネル、木綿布・アクリル
各 225×182 cm (2 点組)

購入



50. 加藤学 (1961-)

トノガヤト 02

1997-98 年

カンヴァス・アクリル
97.0×194.0 cm

購入



51. 加藤学 (1961-)

無題

1997-98 年

カンヴァス・アクリル
162.0×130.3 cm

購入



52. 小林浩 (1967-)

星辰軌道

2010 年

カンヴァス・アクリル
259.0×194.0 cm

購入



53. 佐藤幸代 (1945-)

東方から

2007 年

板パネル、和紙・顔料など
140.0×296.0 cm

購入



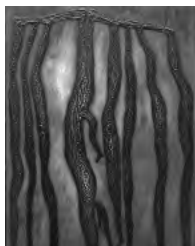
54. 高橋克之 (1967-)

門の木 3

2009 年

パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル、油彩
116.7×90.9 cm

購入



55. 高橋克之 (1967-)

門の木 5

2009 年

パネル・油性ペンキ、水性ペンキ、アクリル、油彩
116.7×90.9 cm

購入



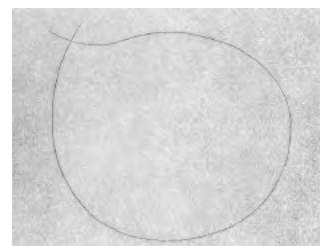
56. 高橋幸彦 (1947-)

一如

2004 年

板、紙、有色石膏地・油彩
112.1×145.5 cm

購入



57. 西村榮悟 (1927-)

仮面

2007 年

カンヴァス・油彩
194.0×259.0 cm

購入



58. 安部直人 (1952-)

まなざし

1990 年

紙・ディープエッチング、メゾチント A.P.
42.1×21.0 cm

購入



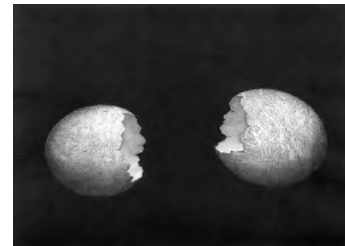
59. 安部直人 (1952-)

卵型二態Ⅲ

1990 年

紙・ディープエッチング、メゾチント A.P.
42.2×59.6 cm

購入



60. 安部直人 (1952-)

黎明

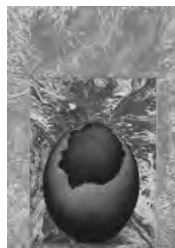
1990 年
紙・ディープエッチング, メゾチント 19/20
52.6×42.1 cm 購入



61. 安部直人 (1952-)

還元

1990 年
紙・ディープエッチング, メゾチント A.P.
59.6×42.1 cm 購入



62. 安部直人 (1952-)

孤球 [TAMA]

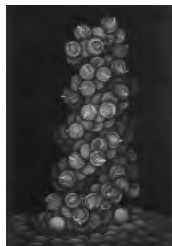
1994 年
紙・ディープエッチング, メゾチント 24/38
31.5×45.0 cm 購入



63. 安部直人 (1952-)

崩壊の過程

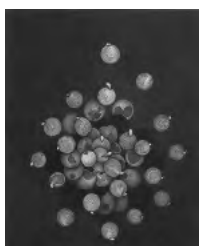
1994 年
紙・ディープエッチング, メゾチント 2/35
59.5×41.7 cm 購入



64. 安部直人 (1952-)

放散する球態

1994 年
紙・ディープエッチング, メゾチント 11/35
56.0×45.2 cm 購入



65. 安部直人 (1952-)

Anonymous I

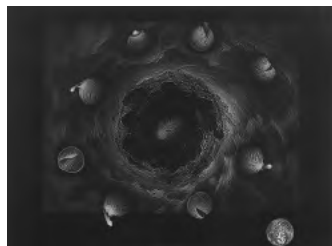
1995 年
紙・ディープエッチング, メゾチント A.P.
55.6×41.6 cm 購入



66. 安部直人 (1952-)

転生

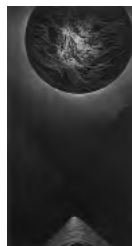
1995 年
紙・ディープエッチング, メゾチント 24/35
33.9×44.8 cm 購入



67. 安部直人 (1952-)

内なる領土より [隆起 I]

1998 年
紙・ディープエッチング, メゾチント A.P.
59.9×31.6 cm 購入



68. 安部直人 (1952-)

内なる領土より [隆起 II]

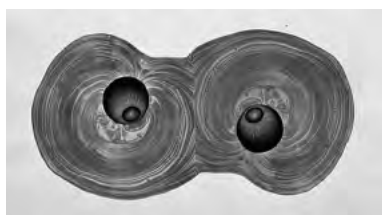
1998 年
紙・ディープエッチング, メゾチント A.P.
59.4×31.7 cm 購入



69. 安部直人 (1952-)

水の鏡・銅の鑑 III

2005 年
紙・ディープエッチング, メゾチント A.P.
46.0×84.0 cm 購入



70. 国吉康雄 (1889-1953)

綱渡りの女

1938 年
紙・リトグラフ
40.3×30.2 cm 購入



71. 国吉康雄 (1889-1953)

仮面

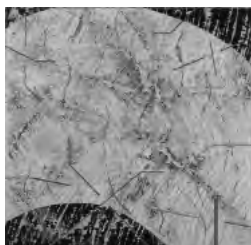
1948 年
紙・リトグラフ
37.8×26.7 cm 購入



72. 長谷川雄一 (1945-)
凍河

1990 年
紙・木版 16/20
47.0×48.2 cm

購入



73. 長谷川雄一 (1945-)
OCEAN

1990 年
紙・木版 16/20
17.8×77.7 cm

購入



74. 長谷川雄一 (1945-)
大地への接近 (7)

1991 年
紙・木版 7/20
48.2×68.3 cm

購入



75. 長谷川雄一 (1945-)
大地 949

1994 年
紙・木版 11/20
26.0×38.0 cm

購入



76. 長谷川雄一 (1945-)
新雪 (2)

1994 年
紙・木版 A.P.
32.0×46.0 cm

購入



77. 長谷川雄一 (1945-)
瑞天

1997 年
紙・木版 A.P.
38.0×53.0 cm

購入



78. 長谷川雄一 (1945-)
風速記 '06

2006 年
紙・木版 A.P.
50.7×68.8 cm

購入



79. 丸山浩司 (1953-)
shape of the heart07-a

2007 年
紙・木版
63.0×91.5 cm

購入



80. 丸山浩司 (1953-)
shape of the heart 08

2008 年
紙・木版
63.0×91.5 cm

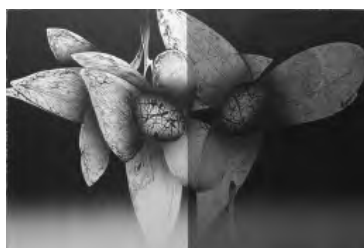
購入



81. 丸山浩司 (1953-)
shape of the heart 08-b

2008 年
紙・木版
63.0×91.5 cm

購入



82. 山中現 (1954-)
第一夜

1984 年
和紙・木版 4/20
58.3×42.3 cm

購入



83. 山中現 (1954-)
第二夜

1984 年
和紙・木版 H.C.
58.8×42.3 cm

購入



84. 山中現 (1954-)

第三夜

1984 年
和紙・木版 A.P.
58.4×42.6 cm

購入

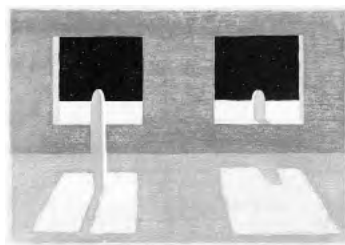


85. 山中現 (1954-)

第四夜

1984 年
和紙・木版 A.P.
40.8×57.8 cm

購入



86. 山中現 (1954-)

第五夜

1984 年
和紙・木版 T.P.
57.8×41.0 cm

購入

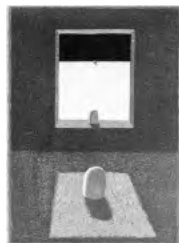


87. 山中現 (1954-)

第六夜

1985 年
和紙・木版 T.P.
55.7×40.4 cm

購入

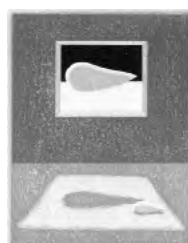


88. 山中現 (1954-)

第七夜

1985 年
和紙・木版 T.P.
50.6×38.9 cm

購入



89. 山中現 (1954-)

第八夜

1985 年
和紙・木版 13/20
55.6×40.5 cm

購入

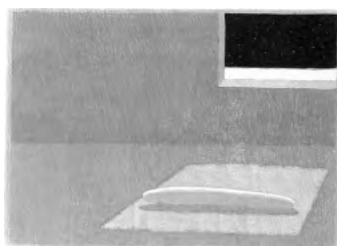


90. 山中現 (1954-)

第九夜

1985 年
和紙・木版 H.C.
40.4×55.9 cm

購入

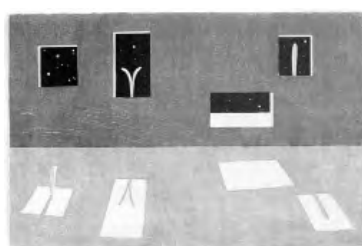


91. 山中現 (1954-)

第十夜

1985 年
和紙・木版 A.P.
52.3×77.8 cm

購入



92. 山中現 (1954-)

第十一夜

1985 年
和紙・木版 T.P.
57.3×40.9 cm

購入



93. 山中現 (1954-)

詩画集《星火》

1986 年
和紙・木版 A.P.VI
(7 点組)

購入



93-1. 山中現 (1954-)

星火 1

11.4×10.0 cm

購入



93-2. 山中現 (1954-)

星火 2

21.3×15.5 cm

購入



93-3. 山中現 (1954-)
星火 3

21.4×15.5 cm

購入



93-4. 山中現 (1954-)
星火 4

21.4×15.5 cm

購入



93-5. 山中現 (1954-)
星火 5

21.4×15.5 cm

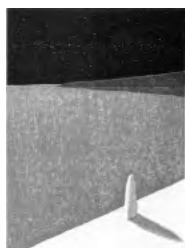
購入



93-6. 山中現 (1954-)
星火 6

21.4×15.5 cm

購入



93-7. 山中現 (1954-)
星火 7

21.4×15.5 cm

購入



94. 山中現 (1954-)
銅版画集《睡郷》
1988 年
和紙・ドライポイント A.P.4/7
(8 点組)

購入



94-1. 山中現 (1954-)
宙に向かって (《睡郷》1)

9.9×4.3 cm

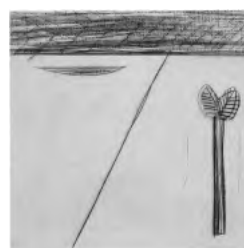
購入



94-2. 山中現 (1954-)
彼方 (《睡郷》2)

10.0×10.6 cm

購入



94-3. 山中現 (1954-)
絆 (《睡郷》3)

6.9×4.8 cm

購入



94-4. 山中現 (1954-)
遠い郷 (《睡郷》4)

10.0×9.1 cm

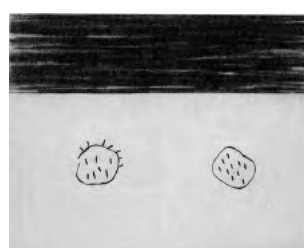
購入



94-5. 山中現 (1954-)
夢の種子 (《睡郷》5)

8.0×10.0 cm

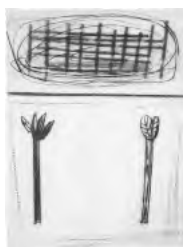
購入



94-6. 山中現 (1954-)
春 (《睡郷》6)

10.0×7.4 cm

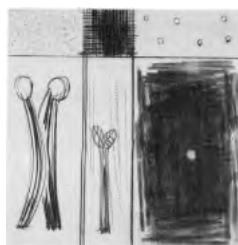
購入



94-7. 山中現 (1954-)
それぞれの刻 (《睡郷》7)

10.1×10.0 cm

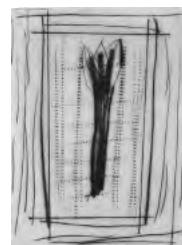
購入



94-8. 山中現 (1954-)
蘇えるかたち (《睡郷》8)

6.9×5.2 cm

購入



95. 山中現 (1954-)
詩画集《水の庭》
2003 年
和紙・木版 A.P.2/5
(8点組)

購入



95-1. 山中現 (1954-)
水の庭 (《水の庭》1)

19.6×21.2 cm

購入



95-2. 山中現 (1954-)
雲の静物 (《水の庭》2)

28.8×13.2 cm

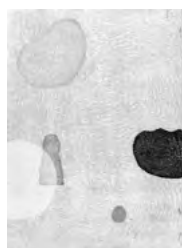
購入



95-3. 山中現 (1954-)
影の旅 (《水の庭》3)

28.7×21.1 cm

購入



95-4. 山中現 (1954-)
大地の音 (《水の庭》4)

28.7×13.2 cm

購入



95-5. 山中現 (1954-)
空の種 (《水の庭》5)

28.9×23.5 cm

購入



95-6. 山中現 (1954-)
星の果実 (《水の庭》6)

28.5×21.2 cm

購入



95-7. 山中現 (1954-)
石の声 (《水の庭》7)

28.9×21.2 cm

購入



95-8. 山中現 (1954-)
時の河 (《水の庭》8)

28.8×21.1 cm

購入



96. 山中現 (1954-)
木版画集《時の器》

2007 年
和紙・木版 T.P.2/2
(11 点組)

購



96-1. 山中現 (1954-)
器 (《時の器》1)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-2. 山中現 (1954-)
水 (《時の器》2)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-3. 山中現 (1954-)
人 (《時の器》3)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

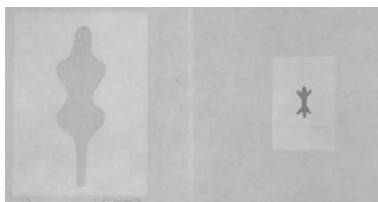
購入



96-4. 山中現 (1954-)
木 (《時の器》4)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-5. 山中現 (1954-)
山 (《時の器》5)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

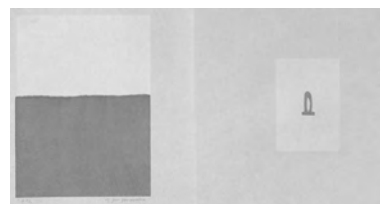
購入



96-6. 山中現 (1954-)
土 (《時の器》6)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

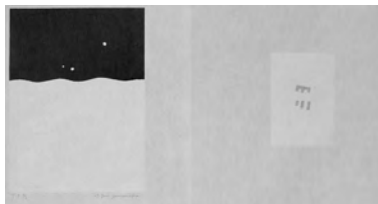
購入



96-7. 山中現 (1954-)
雪 (《時の器》7)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-8. 山中現 (1954-)
雲 (《時の器》8)

22.5×16.2 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-9. 山中現 (1954-)
月 (《時の器》9)

20.3×15.0 cm、10.3×7.0 cm

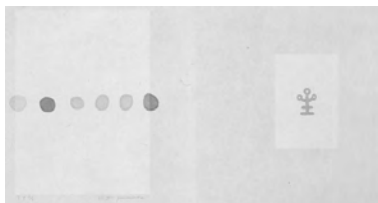
購入



96-10. 山中現 (1954-)
星 (《時の器》10)

20.3×16.6 cm、10.3×7.0 cm

購入



96-11. 山中現 (1954-)
時 (《時の器》11)

21.2×14.9 cm、10.3×7.0 cm

購入



97. 瀬戸 正人 (1953-)

バンコク、ハノイ 1982-1987 (20 点)

1982-1987 年 (2010 年ニュープリント)

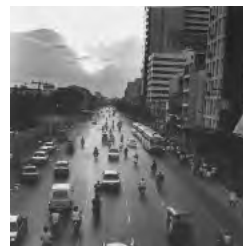
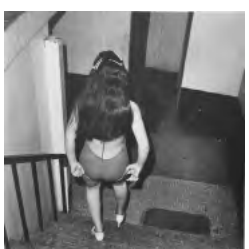
ゼラチン・シルバー・プリント

各 59.0×49.0cm

購入

1 バンコク中央駅の裏通り。
早朝。 97-1

2 王宮広場。祭の後。 97-2

3 チャオプラヤー川の渡し
船。朝夕は通勤の人々で
込み合う。 97-36 ラマ 1 世通りとパヤタイ
通りの交差点付近。
97-48 トンブリ地区 (チャオプラ
ヤー川の西側) のウォンウェ
ンヤイ駅のバス停。97-516 船着き場の大道芸人。
トンブリ地区。 97-618 中華街ワラートの近く。
97-720 若者が集まるサラム・スク
ウェア。流行の先端をゆく
街である。 97-827 チェンマイのプレイボーイ・
クラブの女。 97-931 夕方のラッシュ時。パトナ
ム市場近くの踏み切り。
97-1032 浮草をとる少女。ハノイ
市はずれにある西湖のほ
と。 97-1135 ナムディンのファンティさ
ん。祖父の親友で、この
とき 91 歳。 97-1238 従姉妹のランとその夫。
ハノイ。 97-1341 叔母のミエンさんとその夫
のキエムさん。自宅の居間。
額の中が祖父。 97-1443 ファンティ家の一族と
母。 97-1545 キエム、ティエン、カイン、
ジャン、ルーイの 5 人兄弟。
97-1651 トアンの子供たち。
97-1752 キエム家の向かいの家の
娘。井戸まで水をくみに
行くのが日課。 97-1854 ハノイのホアンキエン地区。
ドンスアン市場に通じるメ
インストリート。 97-1955 裏の林でつかまえたフクロ
ウ。 97-20

98. 安藤栄作 (1961-)

約束のつばさ

1996 年

木

409.0×53.0×10.0 cm

購入



99. 石田智子 (1958-)

松老雲閑

2009 年

和紙・ステンレス

120×1200×80 cm

購入



100. 川島清 (1951-)

Observation 42- 地下の落下物

1990-2000 年

鉄、鉛、木、鑑

141.7×101.3×119cm

購入



101. 北郷悟 (1953-)

空からー rain

2008 年

テラコッタ・木

90×70×240 cm

購入



102. 橋本堅太郎 (1930-)

慈光

2006 年

木彫

160×41×45 cm

購入



103. 佐藤朝山 (玄々) (1888-1963)

冬眠

1928 年

木彫

10.5×22.3×25.0 cm

購入



104. 佐藤朝山 (玄々) (1888-1963)

鹿

1931 年

木彫

46.0×29.0×10.5 cm

購入



105. 宗像利浩 (1957-)

のせめとしほち
禾目利鉢

2009 年

陶器

R50.0×H20.3 cm

購入



106. 宗像利浩 (1957-)

瑠璃天目茶碗

2008 年

陶器

R12.0×H6.5 cm

購入



◆二次資料の収集

□図書資料（2009 年度 受入件数）

分類	冊
辞書・事典・年鑑・図書目録	13
画集・美術全集・所蔵品図録	107
展覧会図録	814
研究書・技法書	61
年報・紀要・報告書	326
美術雑誌	234
その他（美術教科書など）	123
小計	1,678

□映像資料（2010 年 3 月 31 日現在）

分類	点数
自主制作ビデオテープ	42 本
購入・受贈ビデオテープ	66 本
購入・受贈スライドフィルム	11 セット
購入・受贈 CD-ROM / DVD	26 点
16mm 映画フィルム	4 本

◆保存環境調査の実施

□虫菌害モニタリングと環境測定の実施

調査者：関東港業（株）梶原勝吉 立会・記録：堀 宜雄（当館主任学芸員）

仕様概要：2009年度の仕様から塵埃、温湿度、空調風速、紫外線調査をとりやめた。仕様詳細は2003、4年度年報参照。

- ・展示室、収蔵庫、および荷解き室、さらに一般来館者スペースにいたる5842.7m²について、虫菌害、酸アルカリ度、褪色等4項目にわたり調査し、展示保存環境が清浄に保たれているかを確認する。
- ・とくに虫菌害については、2002年度を最後にガス燻蒸を行っていないため、総合的虫害管理（Integrated Pest Management）の考え方にに基づき、トラップなどをもちいて入念に行い、被害の有無を調べている。

調査項目	調査場所・機材・方法等	1回目 2009.7/13～8/1	2回目 2008.9/18～9/30	備 考
1. 昆虫生息調査	収蔵部門 B35/G6/P6/C6 企画展示室 B27/G3/P3/C3 常設展示室 B17/G4/P4/C4 搬入口等 B22/G3/P3/C3 研究一般部門 B15/G4/P4/C4 B-バグトラップ（誘因剤なし） フェロモントラップ： G-ガチョン、P-パセニウム、C-ニューセリコ	捕獲されたもの： チャタテ…収16/企2/常0/他4 ハエ目…収19/企4/常0/搬203/他70 クモ…収4/企4/常0/搬25/他10 シバンムシ…搬1/常D1 ゴミムシ1/ゲジ6/コメツキ1/ガ6	捕獲されたもの： チャタテ…収15/企3/搬4/他1 ハエ目…収1/企3/常2/搬5/他25 クモ…常2/搬8/他3 シバンムシ…企1 ヒメマキムシ…企1 ヒメマルカツオブシムシ幼虫…搬1 ゴミムシ1/カマドウマ2/ゴキブリ1	ハエ目は力が多い。文化財加害虫であるシバンムシ、ヒメマキムシ、ヒメマルカツオブシムシ幼虫が発見された。追跡調査したが、捕獲されず、外部進入と考えられる。
2. 浮遊菌調査	収蔵展示部門 -13カ所 研究一般部門 -9カ所 館外 -4カ所 機材：RCSエアサンプラー（ゲンゼ産業）	1立米あたり浮遊菌数： 収蔵展示部門…平均6.3 研究一般部門…平均29.3 館外 …平均206.5	—	1回目計測時は浮遊真菌全体量が多かった。収蔵庫、展示室は清浄環境といえる。
3. アルカリ性物質調査	収蔵展示部門 -各10カ所 研究一般部門 -各3カ所／館外 -4カ所 機材：環境モニター（文化財虫害研究所） 2.0未満は酸性、上回るとアルカリ性	収蔵部門…1.0～1.5 展示部門…2.0～2.5 研究一般…2.5 館外 …1.0	—	収蔵庫の酸性環境の改善はなされていない。
4. 褪色調査	収蔵展示部門 -5カ所 館指定 機材：色彩色差計（ミノルタ製）	—	企画A-1…0.26 保管庫…1.92 常設A,B,C…1.09, 1.13, 1.39	褪色の徴候はほぼないといえる。

考 察：

1回目は高温多湿で浮遊真菌も多く、昆虫生息調査でも多くの捕獲が確認された。シバンムシ、ヒメマルカツオブシムシの幼虫といった文化財加害害虫が発見されたが、外部進入による一過性のもので、その後の捕獲はみられない。

収蔵庫の酸性環境、チャタテムシの生息、空調制御不足という例年の懸案は解決されていない。

◆美術作品等の修復

当館では長期的な計画に基づき、毎年定期的な収蔵作品の修復を行い、より良好な状態を維持できるようつとめている。2009年度は、寄贈作品の手当、および未額装作品の修復、額装を行った。

修復・額装者の選定にあたっては、美術作品の修復・額装が高度な専門性と技術を要するため、識者の意見や他館での実績を加味して選考した者各2名ずつによる見積合わせとした。見積価格の多寡とともに、当館提出の仕様書に即して、具体的にどのような修復・額装を行うつもりであるかを意見交換して実施者を選定した。作業は当館で行い、その記録を報告書に反映した。本稿はそれによる。

・記録：堀 宜雄（当館保存担当学芸員）

□修復作品と概要

1. 鳥井未央《冬の漁港》 修復者：半田昌規（半田九清堂）

修復概要：寄贈作品の剥落留め応急処置を行う。寄贈時にすでに顔料の剥落があり、ながく展示することができなかったもの。膠水溶液を剥離顔料と支持体のすき間に塗布し、鉛玉を入れた重しをおき、固定した。（写真）

2. 未額装作品のブックマット装 32点

修復者：小林嘉樹（小林絵画保存修復工房） 額装者：高崎英二（カードル高崎）

1～15 瀬戸正人《Living Room, Tokyo》全15点 各44.4×55.8cm 窓寸46.0×57.4cm
マット外寸61.0×76.2（うち1点はタテ、寸法は同じ）

16～28 瀬戸正人《Silent Mode》全13点 各55.7×37.3cm、窓寸57.3×38.9cm マット外寸76.2×61.0cm

29 オノサトシノブ《シルク No.10》50.1×50.1cm 窓寸53.0×52.7cm マット外寸77.0×77.0cm

30～32 渡辺光徳《すか川なべし橋》《すか川御隠居岳》《すか川の町はづれ》 マット色はクリーム
各15.0×20.0cm 窓寸14.0×19.0cm マット外寸39.1×49.2cm

※ 写真作品はコーナーどめ。版画作品は和紙ヒンジにより台マットに固定。



管 理

◆美術品の貸出

□ 2009 年度貸出作品一覧（※は寄託作品）

○「セザンヌ主義一父と呼ばれる画家への礼賛」展 (横浜美術館 2008 年 11 月 15 日～2009 年 1 月 25 日)
北海道立近代美術館 2009 年 2 月 7 日～同年 4 月 12 日

1 安井曾太郎 ターブルの上

○元永定正展 三重県立美術館 2009 年 4 月 11 日～5 月 31 日
2 元永 定正 作品 (1)

○ゴーギャン展 名古屋ボストン美術館 2009 年 4 月 18 日～6 月 21 日
3 ポール・ゴーギャン プルターニュの子供

○日本の美術館名品展 東京都美術館 2009 年 4 月 25 日～7 月 5 日
4 カミーユ・ピサロ エラニーの菜園
5 ベン・シャーン スイミング・プール
6 速水 御舟 女二題其一
7 速水 御舟 女二題其二

○「没後 80 年 岸田劉生 肖像画をこえて」 損保ジャパン東郷青児美術館 2009 年 4 月 25 日～7 月 5 日
8 岸田劉生 自画像

○「躍動する魂のきらめきー日本の表現主義ー」 栃木県立美術館 2009 年 4 月 26 日～6 月 15 日
兵庫県立美術館 2009 年 6 月 23 日～8 月 16 日
名古屋市美術館 2009 年 8 月 25 日～10 月 12 日
岩手県立美術館 2009 年 10 月 20 日～11 月 29 日
松戸市立博物館 2009 年 12 月 8 日～2010 年 1 月 24 日

9 関根 正二 神の祈り 栃木
10 関根 正二 一本杉の風景 岩手
11 伊東 深水 春光 栃木・岩手
12 本田 仙花 陰鬱なる風景 全会場半期
13 佐藤 信 都会 全会場半期
14 椿本金三郎 白い犬 全会場半期
15 小関庄太郎 一人歩む 全会場半期
16 小関庄太郎 堤の上の散歩 全会場半期
17 小関庄太郎 *憩い 全会場半期
18 小関庄太郎 *夢の汽車 全会場半期
19 小関庄太郎 *働き男 全会場半期

○大岩オスカル展 (東京都現代美術館 2008 年 4 月 29 日～7 月 6 日)
高松市美術館 2009 年 7 月 24 日～9 月 6 日

20 大岩オスカル *トンネルの向こうの光
21 大岩オスカル *温室効果

○世界の名作版画展 三島町交流センター山びこ 2009 年 10 月 24 日～11 月 8 日

パブロ・ピカソ 『二人の裸婦』より 9 点
22-30 第 2・4・6・8・10・12・14・16・18 図
ジョルジュ・ルオー 『ミセレーレ』より 10 点
31 1 神よ、我を憐れみたまえ、御身の大きい慈悲によりて
32 6 我らは苦役囚ではないのか
33 8 顔に皺を描かぬ者はどうか？
34 10 長き苦悩の古き場末にて
35 22 世は様々なれど、荒地に種蒔くは美しき仕事
36 34 廃墟すら亡びたり
37 36 これでお終いだよ、おやじさん
38 142 母たちに忌み嫌われる戦争
39 56 高慢と無信仰のこの暗き時代に、地の果てより聖母は見守る
40 58 我らが癒されたるは、彼の打傷によりてなり

	ジョルジュ・ルオー 『流れる星のサーカス』より 6 点	
41	1	扉 見世物小屋の呼び込み
42	5	曲芸師か
43	10	親代々の旅芸人
44	14	ピエロ
45	15	バレリーナたち
46	17	眠れ、よい子よ
47-56	マルク・シャガール 『少年時代の思い出』より全 10 点	
	マルク・シャガール 『死せる魂』より 25 点	
57	1	チーチコフの到着
58	3	小さな町
59	8	マニーロフ
60	15	カローボチカ夫人
61	17	放し飼いの庭
62	18	朝のお茶
63	22	ノズドリョーフ
64	24	トランプ
65	32	サバケーヴィチ
66	35	支度のできた食事
67	37	チーチコフとサバケーヴィチは取引をする
68	45	橋の下で拾い集めるブリューシキン
69	47	ブリューシキンは酒をすすめる
70	51	ゴーゴリとシャガール
71	52	大喜びする寝間着姿のチーチコフ
72	63	裁判所
73	65	賄賂
74	73	舞踏会にあらわれたチーチコフ
75	74	知事邸での舞踏会
76	75	ノズドリョーフの暴露
77	78	知事夫人は娘を叱りつける
78	81	やせ細った役人たち
79	84	検事死す
80	88	我らが英雄は旅支度をする
81	96	夕暮れのトロイカ
	フェルナン・レジェ『サーカス』より 4 点	
82-85	第 26・29・44・48 図	
86	酒井 三良	* 帰樵
87	酒井 三良	* 雨はれ
88	酒井 三良	* そばの秋
89	酒井 三良	* 雪暮

○「没後 90 年 村山槐多ーガランスの悦楽ー」展	渋谷区立松濤美術館
90 村山 槐多	庭園の少女
91 村山 槐多	樹木 (けやき)

2009 年 12 月 1 日～2010 年 1 月 24 日

運営・組織

◆観覧者数一覧（2010年3月31日現在）

展 覧 会 名			開 催 期 間	有 料															無料		観覧 者 総計	
				個 人				団 体				男女 ペア	シニア ・ デイス	年間観覧券 *1				有料 合計	前売券 (推定)	無料・ 招待等		
				一般 ・大学	高校	小・ 中	小計	一般 ・大学	高校	小・ 中	小計			一般 ・大学	高校	小・ 中	小計					
常 設 展	第Ⅰ期～第Ⅲ期 (289日間)	4.1～3.31 (289日間)	4,105			4,105	508			508			740			740	5,353		2,307	7,660		
	特集展示 ※内数 「レジェ展」	5.30～6.28 (26日間)	1,072			1,072	209			209						0	1,281		6,24 *2	1,905		
	移動美術館（三島町交流 センター山びこ） ※合計に含めず	10.24～ 11.08 (14日間)																	375	375		
	企画観覧券で 常設展を観覧	通 年																	11,654	11,654		
	免除者(100/100) 学校教育活動	通 年																	大学 171	171		
	免除者(100/100) 学校引率者	通 年																	182	182		
	免除者(50/100) 県又は市町村主催	通 年	12			12	181			181						0	193		5	198		
	無料入館	5.5 (こどもの日)																	904	904		
	〃	8.21 (県民の日)																	182	182		
	〃	9.15 (敬老の日)																	232	232		
	〃	11.3 (文化の日)																	91	91		
	小中高無料入館 小	通 年																	3,165	3,165		
	小中高無料入館 中	通 年																	499	499		
	小中高無料入館 高	通 年																	971	971		
	小中高無料入館 準ず	通 年																	1	1		
小 計			4,117			4,117	689			689			740			740	5,546		20,364	25,910		
企 画 展	1 アンドリュウ・ ワイエス 創造への道程	4.1-5.10 (37日間) 3.17 - 5.10 (45日間)	(一般) 3,084	(大学) 426	(小中高)※3 713	4,223	(一般) 342	(大学) 49	(小中高)※3 780	1,171	3,852	1,641	515	1	4	520	11,407	2,572	2,540	16,519		
	(*3.17-31 20年度開催分を加えた全会期観覧者数)																		20,111			
	2 アートの遠近	7.18-9.27 (62日間)	3,798		100	402	4,300	152		86	513	751			333	0	2	335	5,386		1,274	6,660
	3 文化の力 福島 と近代美術	10.10-11.23 (39日間)	1,821		12	47	1,880	585		0	0	585			215	1	3	219	2,684		1,255	3,939
	4 アルバム:美術 館で作る楽しみ	12.5-1.31 (43日間)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	—	—			1,770	1,770
	5 山中現 展 一夢の領域—	2.13-3.22 (33日間)	1,914		18	84	2,016	308		20	75	403			189	2	2	193	2,612		910	3,522
	小 計			10,617	426	130	1,246	12,419	1,387	49	106	1,368	2,910	3,852	1,641	1,252	4	11	1,267	22,089	2,572	7,749
その他の無料入館			美術館への年賀状展入館者数															1,307	1,307			
			教育普及事業・講演会・コンサート・シンポジウム・館長講座・博物館実習参加者数															1,473	1,473			
合 計			14,734	426	130	1,246	16,536	2,076	49	106	1,368	3,599	3,852	1,641	1,992	4	11	2,007	27,635	2,572	30,893	61,100

*1 年間観覧券で常設展を観覧の場合、常設の有料合計に含めない

*2 無料入館者（企画展で観覧、小中高、無料入館日等）全ての無料入館者の合計

*3 「小中高チケット」では、種別人数は割り出せなかったため、高校生の有料観覧者数も小中学生欄に繰り入れた。

◆ 2009 年度決算内訳

歳入

科目（款・項・目・節）	予算額（千円）
使用料及び手数料	8,362
└ 使用料	8,362
└ 行政財産使用料	1,080
└ 土地使用料	48
└ 建物使用料	1,032
└ 教育使用料	7,282
└ 美術館使用料	7,282
財産収入	2,866
└ 財産売払収入	2,866
└ 物品売払収入	2,866
諸収入	9,806
└ 雑入	9,806
計	21,034

歳出

科目（款・項・目・節）	最終予算額（千円）
教育費	506,225
└ 教育総務費	7,867
└ 事務局費	7,802
└ 報酬	7,344
└ 職員手当（児童手当）	120
└ 共済費	338
└ 賃金	0
└ 財務管理費	65
└ 交際費	60
└ 使用料及び賃借料	5
└ 社会教育費	498,358
└ 美術館費	498,358
└ 報酬	73
└ 報償費	1,193
└ 旅費	2,630
└ 需用費	59,387
└ 食糧費	105
└ 役務費	11,374
└ 委託料	82,901
└ 使用料及び賃借料	698
└ 工事請負費	21,286
└ 備品購入費	300,300
└ 負担金・補助及び交付金	18,371
└ 公課費	40
労働費	0
└ 雇用対策費	0
└ 緊急対策費	0
└ 共済費	0
└ 賃金	0
└ 委託料	0
計	506,225

◆関係法規

A 福島県立美術館条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の美術に対する知識及び教養の向上を図るため、福島県立美術館(以下「美術館」という。)を設置する。

(位置)

第2条 美術館は、福島市森合字西養山1番地に置く。

(業務)

第3条 美術館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 美術館及び美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 美術に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- 4 前3号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 美術館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 美術館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙および飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当するものに対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者。
- 2 美術館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、または汚損するおそれのある者。
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

(職員)

第9条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所用の職員を置く。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

附則 (平成11年12月24日条例第92号)
この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附則 (平成15年3月24日条例第52号)
この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額 (一人あたり)		特別観覧料の額	年間観覧料の額 (同一人が有効期間内に利用する場合)
	個人	団体		
一般(大学生を含む)	260円	210円	その都度知事が定める額	3,600円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	—	—	その都度知事が定める額	2,160円の範囲内で知事が定める額
中学生及び小学生	—	—	その都度知事が定める額	1,440円の範囲内で知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは特別の企画による展示品を観覧する場合(常設展の展示品を併せて観覧する場合を含む。)の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、二十人以上の団体をいう。

B 福島県立美術館運営協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立美術館(以下「美術館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員会の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則 この条例は、昭和59年4月1日から施行する。

C 福島県立美術館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

福島県立美術館条例(昭和59年福島県条例第33号)第5条、第6条ただし書及び別表の規定による知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附則 この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

D 福島県立美術館条例施行規則

(休館日)

第 1 条 福島県立美術館（以下「美術館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるときを除く。

三 1 月 1 日から同月 4 日まで。

四 12 月 28 日から同月 31 日まで。

2 美術館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第 2 条 美術館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。ただし、館長は、必要があるとみとめるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第 3 条 館長は、福島県立美術館条例（昭和 59 年福島県条例第 33 号。以下「条例」という。）第 4 条の規定により観覧料を納入した者（年間観覧料を納入した者（以下「年間観覧者」という。）を除く。）に対し、観覧券（第 1 号様式）を公布するものとする。

(年間観覧者に係る入館手続)

第 3 条の 2 館長は、年間観覧者に対し年間観覧券（第 1 号様式の 2）を交付するものとし、その有効期間は、年間観覧券を交付した日から最初に到来する 3 月 31 日までとする。

2 年間観覧者は、入館する際に有効な年間観覧券を提示するものとする。

3 年間観覧券の利用は、同一人に限るものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第 4 条 館長は、条例第 5 条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
一 大学生、（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
二 県又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の百分の五十に相当する額（引率者にあつては全額）
三 国民の祝日に関する法律第二条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額

四 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
五 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める金額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の前の第 3 号又は第 4 号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第 1 号又は第 2 号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の 3 日前まで、第 5 号に該当する場合にあつては 10 日前までに観覧料免除申請書（第 2 号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（第 3 号様式）を交付するものとする。（観覧料の返還）

第 5 条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

一 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。（観覧しようとする者が年間観覧者であるときを除く。） 全額

二 その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（第 4 号様式）に観覧料を添えて、館長に提出しなければならない。

(美術品等の特別利用)

第 6 条 美術館が所蔵し、又は寄託を受けている美術品等を学術上の研究その他のため特に利用しようとする者は、館長の承認をうけなければならない。

(教育長への委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附則 この規則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

附則 （平成 14 年 3 月 26 日 教育委員会規則第 13 号）

この規則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附則 （平成 15 年 3 月 24 日 教育委員会規則第 2 号）

この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

第 1 号様式（第 3 条関係）

観覧券 （観覧者の区分） （金額） 福島県立美術館	観覧券 （観覧者の区分） （金額） 福島県立美術館
------------------------------------	------------------------------------

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

第 1 号様式の 2（第 3 条の 2 関係）

年間観覧券	(交付番号) (観覧者の区分) (有効期間) ご利用に際して 1 福島県立美術館が主催する展覧会のみ有効です。 2 下記に署名されたご本人以外の方は使用できません。 3 後購入後の紛失などによる再発行はいたしません。 (氏 名) (学校名) (学年) 福島県立美術館
-------	---

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

E 福島県立美術館収集評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 福島県立美術館に収蔵する美術品及び資料（以下「美術品等」という。）の収集及び評価について審議するため、福島県立美術館収集評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織等)

第2条 委員会は5人以内の委員をもって構成し、委員は学識経験者のうちから福島県立美術館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

2 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し会務を掌理する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第4条 委員会は、必要のつど館長が招集する。

2 委員会は、美術品等の収集及び評価について審議し、その結果を館長に報告するものとする。

3 委員会は、必要に応じ職員その他の者を出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、福島県立美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附則 この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

改正 昭和59年4月1日、昭和61年4月1日

F 福島県立美術館における美術品等の貸出し及び写真撮影に関する取扱要領

1 趣旨

(1) この要領は、財産の交換・譲与・無償貸付等に関する条例（昭和39年福島県条例第22号）第7条、福島県財務規則（昭和39年福島県条例第17号。以下「財務規則」という。）第156条、福島県立美術館条例（昭和59年福島県条例第33号）第7条及び福島県立美術館条例施行規則（昭和59年福島県教育委員会規則第12号）第7条の規定により、福島県立美術館（以下「館」という。）が所蔵し、又は寄託を受けている美術品及び美術資料（以下「美術品等」という。）の貸出し及び写真撮影等（以下「撮影」という。）の取り扱いに関する基準及び手続きを定めるものとする。

(2) 美術品等が福島県美術品等取得基金（以下「基金」という。）所有のものであるときは、昭和59年12月28日付59教財第513号、福島県教育庁財務課長通知により、美術品等の貸出しの手続きは館長の依頼により基金管理者が行うものとするが、美術品等の貸出しの基準及び撮影については、この要領を準用するものとする。

2 美術品の貸出し

(1) 貸出しの基準

ア 美術品等の貸出しは、国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、その他館長が特に必要と認めたものに対して行うものとする。

イ 美術品等の貸出期間は、1年を超えてはならない。

ウ 美術品等の利用目的及び管理上の理由から貸出しをすることが適当でないと認めるときは、貸出しを行わないものとする。

(2) 貸出しの手続き

ア 学芸課は、美術品等の貸出しをする場合には、貸出しを受けようとする者（以下「借受者」という。）から物品借受申請書（財務規則第102号様式。以下「申請書」という。）を提出させるものとする。ただし、借受者の利用目的が展覧会の展示である場合には、次の書類を提出させなければならない。

(ア) 展覧会の趣旨及び企画内容を明記した書類

(イ) 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の貸出しを承認する旨の書類

(ウ) その他必要と認める書類

イ 学芸課は、借受者から申請書の提出を受けたときは、美術品等の利用目的、利用期間及び利用場所等について十分に検討を加え、貸出しの適否を審査するものとする。

ウ 学芸課は、この要領2の(2)のイの審査の結果、美術品等の貸出しをすることが適当と認めたときは、物品貸付調書（財務規則第10号様式）により当該貸出しについて館長の決裁を受けるとともに、総務課に係書類を送付するものとする。

エ 総務課は、この要領2の(2)のウの書類の送付を受けたときは、速やかに福島県教育庁生涯学習領域（以下「生涯学習領域」という。）に対し美術品等の貸出しについて必要な措置の請求（別紙様式第1号）をしなければならない。

オ この要領2の(2)のアからエまでの規定は、美術品等が基金所有のものである場合に準用する。

(3) 貸出しの決定

ア 総務課は、生涯学習領域から美術品等の貸出しについて必要な措置が完了した旨の通知を受けたときは速やかに学芸課に対して、その旨連絡するとともに係書類を送付するものとする。

イ 学芸課は、この要領2の(3)のアの通知を受けたときは借受者に対して、貸出し承認の通知（別紙様式第2号）をするものとする。

ウ 美術品等が基金所有のものであるときは、当該美術品等の貸出しの決定及び借受者に対する貸出し承認の通知は、基金管理者が行うものとする。

エ 美術品等の貸出しは、無料とする。

(4) 貸出しの条件

美術品等の貸出しをする場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等は利用目的以外の用途に利用しないこと。

イ 美術品等の利用権を第3者に譲渡しないこと。

ウ 美術品等は常に善良な管理者の注意をもって管理保管すること。

エ 美術品等の棄損・亡失等が生じた場合は、速やかにその旨を館に報告し、その指示により損害を賠償し、又はこれを原状に回復すること。

オ 美術品等の輸送、その他貸出しに要する経費は、借受者が負担すること。

カ 図録作成等のため美術品等の写真撮影をする場合は、この要領3により別途手続を行うこと。

キ 美術品等の搬出または搬入に対して借受者は責任者を立会させること。

ク その他必要と認めること。

(5) 美術品等の引渡し

ア 館長（物品管理者）は、美術品等の貸出しを実行するときは、当該美術品等の現状を確認し、総務課長（物品取

扱員)に対し、貸付物品払出通知書(財務規則第102号様式)により、その引渡しを指示するものとする。

イ 総務課長(物品取扱員)は、館長(物品管理者)から貸出し美術品等の引渡しの指示を受けたときは、借受者に対して当該美術品等の受領を証する書面と引換えに、これを引渡すものとする。

ウ 総務課長(物品取扱員)は、美術品等を引渡したときには物品貸付台帳(財務規則第140号様式)に所定の事項を記載し整理するものとする。

エ 美術品等の引渡し場所は原則として館とする。

(6) 美術品等の貸付引受け

この要領2の(5)のアからエまでの規定は、貸出しを行った美術品等が返納された場合の受入れの手続きについて準用する。この場合「美術品等の貸出しを実行」とあるのは「貸出しを行った美術品等を引受け」と、「貸付物品払出通知書」とあるのは「貸付物品受入通知書」と、「引渡し」とあるのは「引受け」とそれぞれ読み替えるものとする。

3 美術品等の撮影

(1) 撮影承認の基準

ア 美術品等の撮影は国立、公立及び私立の美術館または博物館、報道機関、出版社、その他館長が特に必要と認めたものに対して承認するものとする。

イ 撮影により損傷を生ずるおそれがある美術品等は撮影を認めないものとする。

ウ 撮影の時期が美術品等の管理上、適当でないと認められる場合は、その時期を変更し、若しくは撮影を認めないものとする。

(2) 撮影承認の手続

ア 学芸課は、美術品等の撮影の承認をする場合には、撮影を希望する者(以下「撮影者」という。)から美術品等撮影承認願(別紙様式第3号。以下「承認願」という。)を提出させるものとする。

イ 美術品等が寄託を受けているものである場合には、寄託者の撮影を承認する旨の書類を承認願に添付させるものとする。

ウ 学芸課は、撮影者から承認願の提出を受けたときは、撮影の目的、場所、時期、対象美術品等について十分に検討を加え、承認の適否を審査するものとする。

エ 学芸課は、この要領3の(2)のウの審査の結果、美術品等の撮影を承認することが適当と認めたときは、当該撮影の承認について館長の決裁を受けるものとする。

オ 美術品等の撮影料は無料とする。

(3) 撮影承認の通知

学芸課は、この要領3の(2)のエにより撮影承認の決定をしたときは、撮影者に対して撮影承認の通知(別紙様式第4号)をするものとする。

(4) 撮影の条件

美術品等の撮影を承認する場合には、次の条件を付すものとする。

ア 美術品等の撮影は館の職員の指示に基づいて行うこと。

イ 撮影により美術品等を損傷させないこと。

ウ 撮影した写真等は、撮影承認を受けた目的以外に使用しないこと。

エ 撮影の目的が著作権法の適用を受けることとなるときは、必要に応じ、あらかじめ著作権者の了承を得ること。

オ 撮影承認を受けた美術品等の写真を出版物に掲載したときは、当該出版物を館に提出すること。

カ その他必要と認めること。

(5) 補則

ア 撮影の場所は、原則として館とする。

イ 撮影が美術品等の管理上適当でないと認めるときは、館が所有する原版の使用を認めるものとする。

ウ 過去に撮影した写真等の撮影承認の目的外使用については、この要領の適用を受けるものとする。

エ 館所有の原版を複写して使用する場合は、当該複写版をすべて提出することとする。

オ 館所有の原版を使用する際、誤って損傷、亡失させたときは、再撮影に係わる実費を当該申請者に請求することができるものとする。

4 適用

この要領は昭和60年2月9日から適用する。

(平成9年9福美第65号により一部改正)

G 福島県立美術館美術作品等寄託要領

(趣旨)

1 この要領は、福島県立美術館(以下「館」という。)における美術作品および美術資料(以下「美術品等」という。)の寄託に関し、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申し出)

2 福島県立美術館長(以下「館長」という。)は、美術品等の所有者に依頼して寄託を受けようとする場合には、寄託同意書(別記様式第1号)によって所有者の同意を得なければならない。

(2) 館長の依頼によらないで美術品等の寄託をしようとする者は、寄託申請書(別記様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(受託)

3 館長は、所有者の合意、もしくは所有者からの申込みのあった美術品等の寄託が館の事業のため必要があると認めたときは、これを無償で受託することができる。

(受け入れおよび返還)

4 館長は、所有者から帰宅された美術品等を受領したときは、所有者に対して受託証書(別記様式第3号)を交付するものとする。

(2) 所有者は寄託した美術品等(以下「寄託品」という。)の返還を受けようとするとき、返還を受けようとする日の一ヶ月以上前に返還申請書(別記様式第4号)を館長に提出しなければならない。

(3) 館長は、この要領4の(2)により、所有者に対して寄託品の返還をしようとするときは、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。

(4) 寄託品の返還を受けようとする者が所有者の代理人であるときは、委任状その他これを証する書面を館長に提出しなければならない。

(寄託期限)

5 美術品等の寄託期間(以下「寄託期間」という。)は2年とする。ただし、特別な理由があるとき、館長はこの期間を短縮することができる。

(寄託期間の更新)

6 館長は所有者の得て寄託期間を更新することができる。

(2) 寄託期間の経過後、所有者から寄託品の返還の請求がない場合は、寄託期間を更新したものとしみなす。

(3) 館長は、この要領6の(1)および(2)により寄託期間を更新したときは、所有者に対し更新した受託証書を交付するものとする。

(所有者の変更等)

7 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったと

き、または所有者の氏名、名称もしくは住所等に変更があったときは、所有者（所有者が変更した場合は変更後の所有者）は、所有権の移転その他氏名、名称等を証する書類を受託証書に添えて館長に提出し、受託証書の書き換えを受けなければならない。

（受託証書の再交付）

8 所有者は、受託証書を亡失し、または著しく破損したときは、これらの事実を証するにたる書類（破損の場合は、その受託証書）を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

（寄託品輸送経費等の負担）

9 所有者は寄託品の搬入または返還に要する経費等を負担するものとする。ただし、館長が特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

（寄託品の展示等）

10 館は、寄託品について、展示、研究および撮影等を行い、その結果を公刊することができる。

（2）館職員以外の者がこの要領 10 の（1）の行為をしようとするときは、「福島県立美術館における美術品等の貸出しおよび写真撮影等に関する取扱要領」に定めるところにより、所定の手続きを経なければならない。

（寄託品の保存）

11 館長は、寄託品の保存管理およびその取扱いについては、館に所蔵する美術品に準じて行う。

（2）館は、寄託品を亡失し、または損傷した場合は、その補償をするものとする。ただし、天災、その他不可抗力による場合は、この限りでない。

（その他）

12 この要領に定めるもののほか、美術品等の寄託に関し必要な事項は、館長が定める。

この要領は、昭和 60 年 4 月 1 日より施行する。

改正 昭和 59 年 4 月 1 日

昭和 61 年 4 月 1 日

◆施設・整備

建築の概要

設計 大高建築設計事務所
 施工 鹿島建設株式会社仙台支店（建築・外観）
 敷地面積 60,500m²
 建築面積 6,471.5m²
 延床面積 9,680.7m²
 建物構造 鉄筋コンクリート造（一部S造・2階建）
 総工費 約49億円（本体、外構含む）

設備の概要

電気設備

- 1- 受変電設備：受電力 1,100W
- 2- 動力設備
- 3- 電灯・コンセント・照明（調光設備：各展示室、調光装置：講堂・講義室各1台）
- 4- 自家発電機設備
- 5- 避雷針
- 6- 電気時計
- 7- 火災報知設備
- 8- 防火扉・防煙設備
- 9- 拡声設備
- 10- インターホン設備
- 11- ITV 設備
- 12- 防犯設備
- 13- ビデオ設備
- 14- 蓄電池設備
- 15- 電話設備

空気調和設備

- 1- 熱源設備：
 展示室・収蔵庫系統＝空気熱源スクルーヒートポンプ、120RT＋熱回収ヒートポンプ 30RT 組合せ制御方式、冷水槽 300m³、温水槽 250m³
 一般系統・図書館系統＝灯油だき冷温水発生器 150RT 2台
- 2- 空調設備：単一ダクト方式
 展示室4系統、収蔵庫3系統、ケース内4系統、一般系統7系統（一部フロアコイル併用）
- 3- 換気設備：50系統
- 4- 排煙設備：機械排煙6系統
- 5- 床暖房：2系統
- 6- 自動制御設備：中央監視盤、温湿度監視盤

給排水衛生設備

- 1- 熱源：都市ガス（厨房・実習室・工作修復室）／他は全て電器煮沸器を使用
- 2- 消化系：ハロン消火設備（収蔵庫3系統：共用機械室）／消火栓設備（消火ポンプ1台、屋内消火栓14台、動力ポンプ1台）
- 3- 燻蒸設備：ガスによる殺虫滅菌剤で燻蒸後吸着装置通過、規定濃度以下にして大気放出
- 4- 給水：受水槽 45t（加圧給水）／直結給水
- 5- 排水：屋内は汚水・雑排水の分流式（外部で合流後、市下水道公共マスに接続）

昇降機設備

- 1- 乗用エレベーター：油圧式、750kg 11名乗り 1台
- 2- 荷物用エレベーター：油圧式、最大積載量 3t 1台
- 3- 乗用エレベーター：油圧式、600kg 9名乗り 1台

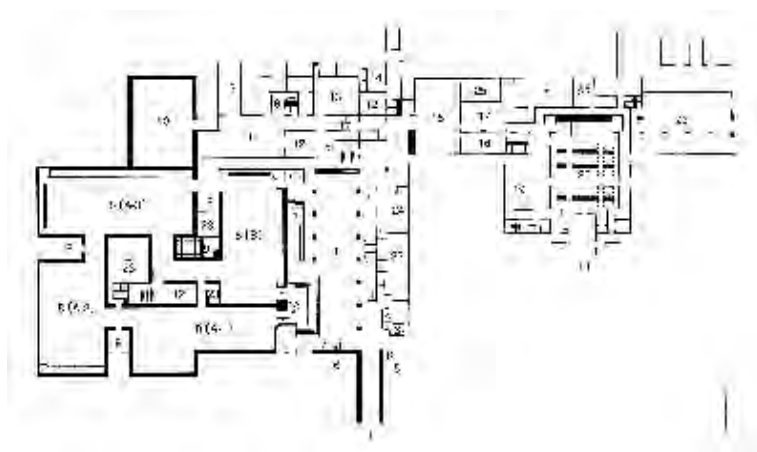
内部仕上の概要

- 1- エントランスホール
 床：御影石バーナー仕上げ（一部長尺塩ビシート張）
 壁：栓練付石綿ケイカル板
 天井：栓練付石綿ケイカル板
 その他：一部床暖房設備
- 2- 収蔵庫
 床：パーケットブロック、ぶな素地
 壁：米杉、矢羽根板張
 天井：米杉、本実目透張
 その他：収納棚、絵画収納ラック
- 3- 企画展示室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：合板捨張の上に準不燃合板、特注クロス張
 天井：栓練付パネル
 その他：大型可動壁（幅 8,770mm×高 3,770mm、11枚）
 固定ケース前可動壁：（幅 1,600mm×高 4,050mm、延長約 72m）
 固定ケース：（A-2、A-3、B：総延長 72.3m）
- 4- 常設展示室
 床：タフテッドループカーペット
 壁：常設 A- 栓練付ケイカル板
 常設 B- 大理石空積、水磨き仕上げ
 常設 C・D- くるみ練付ケイカル板
 天井：常設 A- 栓練付パネル
 常設 B・C・D- くるみ練付パネル
 その他：固定ケース（常設 A、16.2m）
- 5- 講堂
 床：タイルループカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：ビニールクロス張
 その他：座席数：246（うち車椅子席 4）／ステージ：幅 12m×奥行 3.2m
- 6- 講義室
 床：タイルカーペット
 壁：くるみ練付石綿ケイカル板
 天井：岩綿吸音板
- 7- 実習室
 床：エポキシ系塗床
 壁：モルタル金ゴテ VP
 天井：岩綿吸音板
- 8- 軽食喫茶室
 床：長尺塩ビシート張
 壁：くるみ練付パネル、粒状岩綿吸音材（一部）
 その他：テーブル 44席
- 9- その他
 搬出入口：ホイストクレーン 2.8t／テーブルリフター
 写真室：電動スクリーン

◆施設配置図

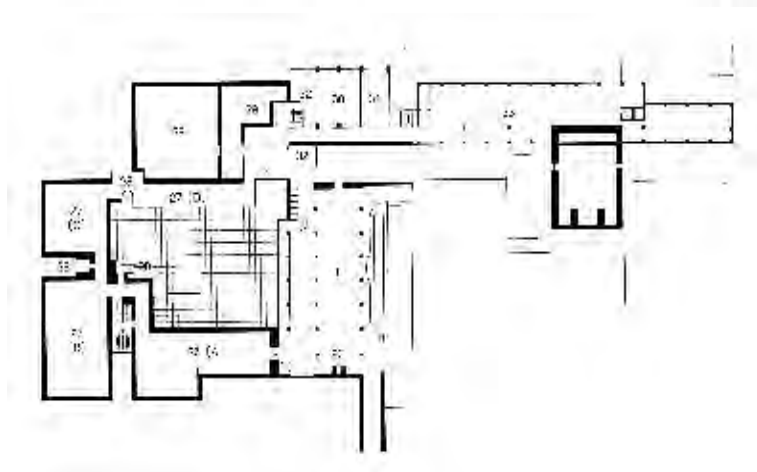
1階

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. エントランスホール | 14. 写真室 |
| 2. 受付案内 | 15. 警備室 |
| 3. ブックショップ | 16. 事務室 |
| 4. ロッカー室 | 17. 応接室 |
| 5. 図書コーナー | 18. 研究図書室 |
| 6. エレベーター | 19. 実習室 |
| 7. ビデオコーナー | 20. 講義室 |
| 8. 企画展示室 | 21. 講堂 |
| 9. 休憩室 | 22. 軽食喫茶室 |
| 10. 授乳室・救護室 | 23. 中央監視室 |
| 11. 収蔵庫 A | 24. 機械室 |
| 12. 荷解梱包室 | 25. 館長室 |
| 13. 倉庫 | 26. 副館長室 |



2階

- | |
|-------------|
| 27. ロビー |
| 28. 常設展示室 |
| 29. 休憩室 |
| 30. 収蔵庫 B・C |
| 31. 工作修復室 |
| 32. 会議室 |
| 33. 倉庫 |
| 34. 機械室 |



◆部門別専有面積（* は県立図書館と共用）

サービス部門	1223.8m ²
エントランスホール	817.3m ²
受付案内	(ホールに含む)
ブックショップ	(ホールに含む)
ロッカー室	(ホールに含む)
図書コーナー	(ホールに含む)
ロビー	202.1m ²
*軽食喫茶室	179.0m ²
授乳室・救護室	25.4m ²
展示部門	3064.4m ²
企画展示室 A (A-1,2,3)	1380.8m ²
企画展示室 B	431.1m ²
	(企画展示室合計 1811.9m ²)
常設展示室 A	403.1m ²
常設展示室 B	359.1m ²
常設展示室 C	143.8m ²
常設展示室 D	132.8m ²
	(常設展示室合計 1038.8m ²)
展示用具室	141.2m ²
展示用具室 2	72.5m ²
収蔵部門	1365.3m ²
収蔵庫 A	280.2m ²
収蔵庫 B	368.7m ²
収蔵庫 C	105.1m ²
一時保管庫	51.8m ²
収蔵庫前室	57.6m ²
搬出入口	65.7m ²
荷解梱包室	188.8m ²
梱包倉庫	77.7m ²

荷扱入控室	29.6m ²
燻蒸室	33.3m ²
工作修復室	106.8m ²

普及部門	654.6m ²
*講堂	498.6m ²
講義室	73.9m ²
実習室 (準備室含む)	82.1m ²

研究部門	187.2m ²
研究図書室	88.7m ²
写真室	98.5m ²

管理部門	1832.7m ²
応接室	48.0m ²
副館長室	34.0m ²
事務室 (総務課・学芸課)	174.0m ²
会議室	73.3m ²
館長室	43.2m ²
事務機械室	16.0m ²
警備室	54.7m ²
更衣室	8.7m ²
受付控室	15.4m ²
給湯室	4.4m ²
倉庫	33.0m ²
*機械室	1266.4m ²
車庫	61.6m ²

その他 (化粧室・廊下・階段等)	1330.8m ²
------------------	----------------------

◆福島県立美術館友の会 活動報告

美術を愛好する人達が集い、会員相互の親睦を深めるとともに、美術館活動に協力することを目的とした福島県立美術館友の会は 2003 年 4 月に発足した。6 年目を迎えた今年も、会員による様々な自主活動が展開された。

○友の会鑑賞講座 1 「アンドリュー・ワイエス～創造への道程～」

日時：4 月 11 日(土) 14:00 ～

場所：講義室、企画展示室

講師：当館主任学芸員 荒木康子

○第 7 回福島県立美術館友の会通常総会

日時：5 月 31 日(日) 13:00 ～

場所：美術館講堂

議事：2008 年度事業及び事務報告

2008 年度収支決算報告／2008 年度監査報告

2009 年度事業計画(案)

2009 年度収支予算(案)

その他 新役員の選出

○友の会鑑賞講座 2 「レジェ～サーカス展～」

日時：5 月 31 日(日) 14:00 ～ 16:00

場所：講義室、企画展示室

講師：当館学芸課長 伊藤匡

○美術映画鑑賞会 1 「モンパルナスの灯」

日時：6 月 4 日(木)～5 日(金)

場所：フォーラム福島

○友の会鑑賞講座 3 「『日本の美術館名品展』見学のために」

日時：6 月 9 日(火) 13:00 ～

場所：講義室、1 階企画展示室

講師：学芸課長 伊藤匡

参加者：14 名

○研修旅行 1 「日本の美術館名品展」を訪ねて

日時：6 月 25 日(木)

場所：東京都美術館、東京国立博物館 他

参加者：6 名

○友の会鑑賞講座 4 「アートの遠近～福島県立美術館のすべて(前期)」

日時：7 月 25 日(土) 13:00 ～

場所：講義室、1 階企画展示室

講師：主任学芸員 佐治ゆかり

参加者：13 名

○友の会鑑賞講座 5 「アートの遠近～福島県立美術館のすべて(後期)」

日時：8 月 29 日(土) 13:00 ～

場所：講義室、1 階企画展示室

講師：学芸課長 伊藤匡

参加者：14 名

○第1回アート・チャリティー・バザー
 日時：9月27日(日) 11:00～15:00
 場所：福島大学如春荘(福島市森合字台〇〇)

○研修旅行2「幻の画聖たち」
 日時：10月18日(日)
 場所：大川美術館(桐生市)・栗田美術館(足利市)
 参加者：24名

○ミュージアム・コンサート1「天満敦子ミニ・コンサート」
 日時：10月31日(土) 14:00～16:00
 内容：コンサート、親睦会
 演奏：天満敦子(ヴァイオリン)
 古川清(司会)
 場所：エントランスホール、ミュゼ・ドウ・カナル
 参加者：190名

○実技講座「アクリル画 ミクスト・メディアの手法」
 日時：11月14日(土) 13:30～16:30
 11月15日(日) 10:00～16:30
 講師：高沢俊郎(郡山養護学校教諭)
 場所：美術館実習室
 参加者：9名

○友の会鑑賞講座6「文化のカー福島と近代美術」
 日時：11月21日(土) 13:00～
 場所：講義室、企画展示室
 講師：堀宜雄主任学芸員

○美術映画鑑賞会2「夏時間の庭」
 上演期間：12月5日(土)～11日(金)
 講演会日時：12月6日(日)
 講師：貝山幸子(歌手)、伊藤匡(当館学芸課長)、阿部泰宏(フォーラム福島支配人)
 場所：フォーラム福島

○美術映画鑑賞会3「山中常盤」
 上演期間：2010年1月30日(土)～2月5日(金)
 講演会日時：2010年1月31日(日)
 講師：羽田澄子(映画監督)、佐治ゆかり(当館学芸員)、阿部泰宏(フォーラム福島支配人)
 場所：フォーラム福島

○友の会鑑賞講座7「山中現展一夢の領域」
 日時：2010年2月27日(土) 13:00～
 場所：講義室、企画展示室
 講師：吉村有子主任学芸員

○ミュージアム・コンサート2「上松美香 アルパ・ドリームコンサート」
 日時：2010年3月6日(土) 14:00～16:30
 内容：コンサート、親睦会
 演奏：上松美香(アルパ)、藤間仁(ギター)
 場所：エントランスホール、ミュゼ・ドウ・カナル

○福島県立美術館友の会「会報」第10号発行

日時：2010年3月

内容：友の会7年を振り返る／開館25周年を迎えて／新収蔵作品の紹介／21年度活動報告／22年度企画展概要／表紙について 他

・福島県立美術館友の会「会報」第9号発行

第9号の友の会会報誌発行。

日時：2009年3月

内容：活動報告と予定／美術館を知ろう！美術館の仕事 土台づくり編／エッセイ／

企画展概要・表紙について 他

◆福島県立美術館協力会 活動報告

社会の変化とともに美術館の役割や美術館に対する県民の意識もまた変化しており、単に鑑賞するだけの施設でなく、県民がより豊かな生活を送るための学習の場、いわゆる生涯学習時代の文化拠点、憩いの場としての役割が美術館には求められるようになってきている。

こうした趨勢を踏まえて、多くの県民が広く美術に親しみ、美術を楽しむことができる機会を提供することにより、本県美術文化の振興と心豊かな県民の育成に寄与することを目的に「福島県立美術館協力会」が設立され、2004年6月7日付けで特定非営利活動法人（NPO法人）として認証を受けた。

2010年3月31日現在の会員数は35名（団体17件、個人18名）である。

○協力会の主な活動

- ・美術についての教養を高め、美術を楽しむための活動（美術に関する講演会、講座、研修旅行、コンサート等）
- ・実制作の体験を通して、表現の喜びを味わい、美術に親しむための活動（実技講座、ワークショップ等）
- ・展覧会に関する各種資料、ミュージアム・グッズの作成頒布活動

○特典

- ・会員証の交付
- ・企画展、常設展の優待
- ・展覧会図録の配布
- ・美術館ニュース等の送付
- ・企画展内覧会への招待
- ・協力会各種事業への招待 など

○2009年度の事業活動

- ・理事会（2009年5月29日）
- ・総会（5月29日）
- ・「開館25周年記念 アートの遠近展」シンポジウム開催（7月19日）
- ・「開館25周年記念 文化の力展」ミュージアムコンサート（2009年10月31日）
- ・「開館25周年記念 アルバム展」パンフレット作成（2009年12月、2010年1月）
- ・ミュージアムコンサート（2010年3月6日）
- ・ボランティアによる活動支援（通年）
- ・「アンドリュー・ワイエス 創造への道程」図録の販売
- ・「山中現展」特装版図録の作成・販売



10/31 コンサート

◆委員会等・組織図

□美術館運営協議会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
久保恵美子	福島県中学校教育研究会美術部総務、福島市立西信中学校教諭	2003.1.1-
松本良子	福島県立高校教育研究会美術工芸部会県北支部長、県立福島西高等学校教諭	2007.1.1-
富田孝志	財団法人福島県文化振興事業団理事長、福島県文化センター館長	2009.1.1-
栗津則雄	いわき市立草野心平記念文学館館長	2003.1.1-
酒井昌之	福島県美術協会常任幹事、福島県美術家連盟評議員	2007.1.1-
佐々木光政	日本放送協会福島放送局長	2009.1.1-
遠藤久美	蔵のまちアートぶらりー実行委員会事務局長	2009.1.1-
雪山行二	横浜美術館長、前愛知県美術館副館長	2003.1.1-
辻みどり	国立大学法人福島大学行政政策学類教授（専門：比較地域文化論）	2005.1.1-
阿部泰宏	株式会社福島フォーラム総支配人（公募による委嘱）	2003.1.1-

2. 協議会の開催

日時：2010年2月25日(木) 13:30-15:30

会場：美術館会議室

議事：1) 2009年度事業実施の概要について

2) 2010年度事業計画（案）および予算（案）の概要について

3) 県立美術館の運営等について

□収集評価委員会

1. 委員名簿

氏名	所属	任期
村田哲朗	町田市立国際版画美術館館長	1996.11.21-
真室佳武	東京都美術館館長	1996.11.21-
尾崎正明	京都国立近代美術館長	2003.12. 1-
長谷川三郎	前宮城県美術館館長	2005.12. 1-
山梨俊夫	神奈川県立近代美術館館長	2005.12. 1-

2. 委員会の開催

日時：2010年2月5日(金) 14:00-15:30

会場：美術館会議室

議事：1) 2008年度収集作品の報告

2) 2009年度購入候補作品について

□他館との連携

1. 加盟団体

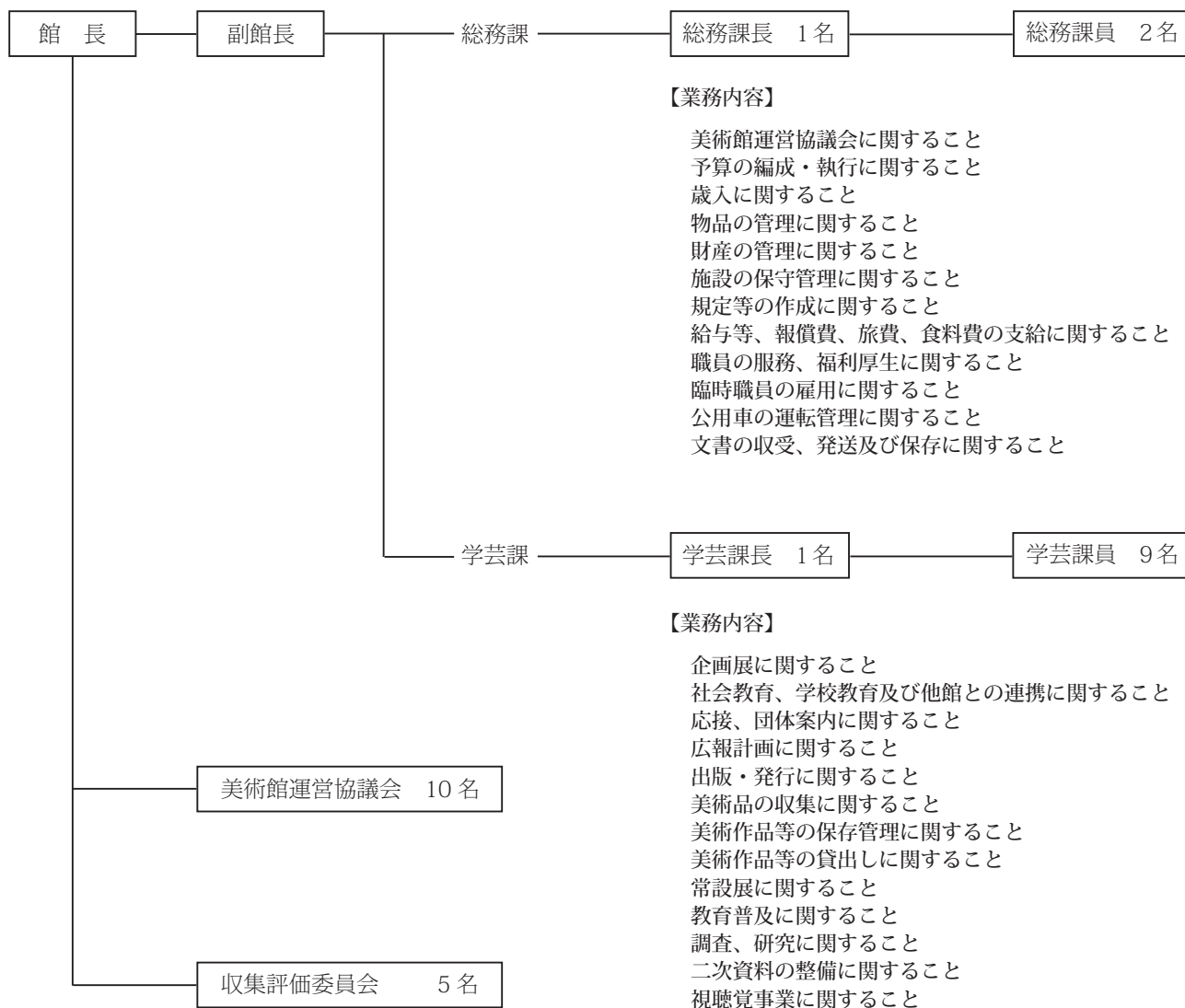
全国美術館会議（理事）、美術館連絡協議会（理事）、日本博物館協会（会員）、日本博物館協会東北支部（監事）、東北地区博物館協会（監事）、東北美術館会議（会員）、福島県博物館連絡協議会（理事）

2. 公務視察等の受入れ

- | | |
|------------------|-------------|
| 1) 公務視察受入 | 68名（件数不詳） |
| 2) アンケート回答・調査協力等 | 4件（文化庁ほか） |
| 3) 体験学習 | 2件（中学校職場体験） |

□組織図・職員名簿

1. 組織図



2. 職員名簿（2010年3月31日現在）

館長	酒井 哲朗	(2000.4.1-)
副館長	眞壁 眞	(2008.7.1-)
総務課長	菅野 知行	(2009.4.1-)
総務課 主査	大和 恵子	(2008.4.1-)
総務課 同	伊藤 恵美	(2007.4.1-)
学芸課長	伊藤 匡	(文化施設整備室 1983.4.1-)
学芸課 主任学芸員	久慈 伸一	(文化施設整備室 1982.4.1-)
学芸課 同	佐治 ゆかり	(1984.4.1-)
学芸課 同	荒木 康子	(1990.4.1-)
学芸課 同	堀 宜雄	(1989.4.1-)
学芸課 同	吉村 有子	(1990.7.1-)
学芸課 同	宮武 弘	(1992.4.1-)
学芸課 同	増渕 鏡子	(1993.4.1-)
学芸課 同	橋本 淳也	(2005.4.1-)
学芸課 学芸員	佐藤 香里	(2007.4.1-)

□利用案内

1. 開館時間 9:30 ～ 17:00（最終入館は 16:30 まで）
※ 夜間開館を行うことがあります。
2. 休館日 1) 月曜日（祝祭日をのぞく）
2) 祝祭日の翌日（土日をのぞく）
3) 年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）
※ 都合により臨時休館を行うことがあります。
3. 観覧料 1) 常設展 一般・大学生 260 円（210 円）／高校生以下 無料
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
2) 企画展 その都度料金が変わります。
※ 企画展の料金で常設展もご覧になれます。
※ 企画展のみの観覧券は発行していません。
※ ふくしま教育週間（11 月 1 日～7 日、ただし休館日は除く）中は、小・中・高校生は企画展料金も無料。
※ 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保険福祉手帳をお持ちの方は企画展料金が無料
（それぞれ第 1 種または第 1 級の方は付き添いの方も無料）
4. 常設展無料 1) 子供の日（5 月 5 日）、県民の日（8 月 21 日）、敬老の日（9 月第 3 月曜）、文化の日（11 月 3 日）
2) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
（それぞれ第 1 種または第 1 級の方は付き添いの方も無料）
3) 小・中・高校生（団体の場合、引率者も無料）
5. 常設展減額免除 常設展料金無料 ・大学生が、学校活動の一環で観覧するとき
常設展料金半額 ・公民館や公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき
※ 事前申請が必要です。いずれも引率者は無料となります。
6. 年間観覧券 常設展示・企画展示ともに、購入より一年間有効（一般・大学生 3,000 円／高校生 1,800 円／小・中学生 1,200 円）

□交通案内

1. J R 福島駅（東口）より 電車：福島交通飯坂線「美術館図書館前駅」下車、徒歩 3 分
バス：9 番バス乗り場より、福島交通もりん 2 コース「県立美術館入口」下車、徒歩 4 分
タクシー：約 5 分
2. 自家用車で 東北自動車道・福島飯坂 I C より約 15 分、福島西 I C より約 20 分
※ 駐車場 150 台収容

福島県立美術館年報 平成 21 年度・2009

2011 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 福島県立美術館
〒960-8003 福島市森合字西養山 1 番地
電 話 024-531-5511
ファックス 024-531-0447
ホームページ <http://www.art-museum.fks.ed.jp/>

印 刷 キング印刷株式会社

